

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 令和5年度事業報告

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

はじめに

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行され施設運営も平常化を図っていかなければならないところですが、空調設備の入替などの施設の長寿命化工事により、歴史博物館は4か月、都市発展記念館及びユーラシア文化館では10か月間の休館となりました。

休館期間中については、新たな来館者の獲得に繋がるよう、他施設でのアウトリーチ展示や講演会等を行い博物館の魅力発信を行いました。

併せて、館同士、他団体と連携した調査研究、普及啓発についても積極的に進めてきました。

コロナ禍に本格化した博物館資料のデジタル化、展示解説動画の配信、オンラインによる講演会の開催、SNSを活用した情報発信などデジタル化の取組を推進し、動画再生数やデジタルアーカイブへのアクセス数の増加等の一定の成果を収められました。

訪問授業については、積極的な周知を行ったことで、受講生徒数が昨年を上回る結果になりました。

こうした取組の結果、第6期の協約目標については、3館の休館がありながらもデジタルコンテンツの閲覧回数が大幅に伸びたこともあり、事業収益の維持以外の項目について目標を達成できました。

施設の大規模修繕について市の所管部署と連携して予算要求を進めたことで、令和5年度に前倒しで、歴史劇場の一部修繕、開港資料館の法是正工事などを実施することができました。

令和3年度よりスタートした、開港資料館を拠点として山下公園、元町、中華街エリアを対象エリアとする「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」に関する取組では、これまで準備してきた事業が形になり、多言語ウェブコンテンツ「こい旅横浜」の中華街編が4月に公開され、第2弾として山下町編の作成も進めました。ミュージアムショップやカフェ、コンシェルジュの複合機能施設「PORTER'S LODGE (ポーターズロッジ)」が7月にオープンし、商品等の売り上げも増えてきています。

1月には、所蔵資料のデジタルアーカイブの公開が始まり、運用状況を確認し機能の追加等も進めています。

このほか、横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館の空調機器の更新に伴う施設の休館にあたっては、安全な資料の保管場所の確保に向けた歴史博物館の収蔵庫の棚の延長工事や、職員の執務室の確保など、財団全体を挙げて取組を進めました。

埋蔵文化財センターでは、横浜市や民間からの発掘調査事業を受託し、学術的な成果を挙げるだけでなく、事業収入面でも財団の安定的な経営基盤に寄与しました。

また、「文化観光拠点計画」の推進や、「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」ではクラウドファンディングを実施し、外部資金の確保の取組も行いました。今後も経営環境を整え、財務体質の強化を図ることにより、財団が一体となってその使命を達成していきます。

I 財団本部事業

1 財団本部事業（定款第4条第1項第3号）

諸会議の運営や事業調整を実施し、円滑な組織の運営を図るとともに、公益財団法人として、理事会・評議員会の開催、神奈川県への報告等を的確に実施しました。

	事業区分	事業内容
1	円滑な組織運営	(1) 人材育成を図るための研修 ・内部研修 新採用者研修、個人情報保護研修の実施 ・外部研修 公益法人協会のインボイス制度関連研修、源泉所得税実務研修、年末調整実務研修等への参加 - 社会保険の適用拡大に関する説明会への参加 (2) 職員が自らのキャリアパスを意識できる申告制度の実施 職員自己申告の実施 (3) 役員会議等の諸会議の開催、規則整備 役員会議（第1部、第2部） 月2回 課長会議 月2回程度 担当係長会議 月1回程度 <主な内容> ・将来的な人材育成について ・次期協約目標（令和6年度～8年度）について ・文化庁補助もくひ事業について ・博物館の休館及び利用料金等について
2	人事労務・財務の管理	(1) 職員の採用、異動等雇用管理 (2) 就業規則ほか諸規則の整備及び運用 (3) 給与、社会保険、税金関係等 (4) 定期健康診断の実施等による安全・衛生管理、福利厚生施策 (5) 職員メンタルヘルスの支援 (6) 寄附金・協賛金・クラウドファンディングによる資金獲得の企画調整
3	予算編成と執行管理	(1) 予算要求制度の継続実施 (2) 予算編成、執行管理、決算の実施
4	災害対応	(1) 各施設の危機管理マニュアルの見直し (2) 各施設での防災訓練の実施
5	理事会・評議員会の開催	(1) 理事会の開催 年4回（リモートを併用） (2) 評議員会の開催 年2回

		(3) 神奈川県への報告
6	所管局への報告・調整	(1) 指定管理・委託事業の報告提出(月次、四半期、年度) (2) 事業報告・決算書に基づく報告 (3) 課題の共有と迅速な対応を図るための意見交換の実施(毎月)
7	共同広報の実施	(1) 財団ホームページの管理(情報公開項目の更新等) (2) 財団メルマガ「よこはま歴史かわら版」発行 (3) 提供ラジオ番組「横濱1歴史のタイムマシーン」(マリンFM)の放送 (4) プレスリリース配信システム「PRTIMES」の利用
8	情報システムの管理	(1) 情報システム機器(ソフトウェア等を含む)の保守・管理 (2) 情報セキュリティに関する啓発・研修 (3) 財団内システムの円滑な運用、次期システムへの切替
9	事業推進	(1) 事業戦略に係る共通認識の形成 課長会議、管理運営担当係長会議を通じた共通認識の形成 (2) 財団の役割や事業を伝える効果的な広報戦略の実施 (3) 市民協働の推進
10	エデュケーター事業	(1) 学校連携による財団各施設の利用促進 (2) 教職員研修の企画・調整・運営 横浜市教委、小・中社会科研究会、財団が主催する研修 (3) 社会科を中心とした授業改善に向けての協力・連携・支援 (4) 学校から要請のあった訪問授業への対応 ・実施校 163 校、対象児童 14,889 人 (5) 授業コンテンツ動画の制作 ・制作本数 10 本 ・再生回数 44,687 回 (6) 博物館来館校の対応 (7) 子どもの学びのための資料作成

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
本部事業	「横浜開港資料館 文化観光拠点計画」の施設整備が本格化し、整備に伴う資材や人件費の高騰があり整備工事の契約に難航しましたが、発注方法の見直し等の検討など協力して行い、経費の増加を極力抑えたうえで、予定どおり整備を進めることができました。協約目標であった授業コンテンツの制作についても 10 本の動画を作成し数値目標を達成するとともに、再生回数も 4 万 4 千回を超えました。	A

	大規模修繕については、市の所管部署と連携して予算要求を行い、令和6年度予算には計上されないながらも、要求した修繕の一部を令和5年度に前倒して実施することができました。 また、公益財団法人として諸届の事務、業務の調整、諸会議の運営、人事労務事務等は適切に実施することができた。	
--	---	--

Ⅱ 指定管理事業

1 財団全体としての取組及び事業

各施設（指定管理施設及び委託施設）では、SNS等による情報発信を強化するとともに、オンライン講座の開催や小学生向けの動画コンテンツの制作、来館者個人のモバイル端末を利用した展示室内でのビデオ配信など、デジタル技術を利用して歴史の理解を深める工夫を凝らしました。

港北区と協力した「お城 EXPO」では小机城の発掘調査成果をパネル展や動画などで情報を発信したほか、栄区との共催による横穴墓見学会・勾玉づくり教室等の開催など連携事業を推進しました。

企業との取組としては、新たに三陽物産、横浜エクセレンスと事業協定を締結し、資料の提供や展示など連携した事業を展開しました。

今後も職員の知識、経験、行動力を集結し、多様な組織と連携しながら、取組を進めていきます。

【多様な組織との連携および地域への貢献】

連携	連携先		中心となる施設	内 容
区・地域との連携	全区		全管理運営施設	・各管理運営施設の所在区をはじめとして、各区の要請等により、歴史文化に関する助言や執筆活動等による支援を実施
	特定テーマや事業を通じた連携	中区	開港資料館 都市発展記念館	・「広報よこはま なか区版」の連載記事「なか区歴史の散歩道」に執筆 ・中区職員向け講座への講師派遣 ・関東大震災 100 年パネル展への資料提供
		保土ケ谷区	埋文センター 歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・「広報よこはま ほどがや区版」の連載コラム「保土ケ谷区のあゆみ ～区制 100 周年に向けて～」に執筆
		旭区	開港資料館	・関東大震災 100 年パネル展への資料提供
		金沢区	歴史博物館	・「むかし体験」訪問歴史授業を実施
		港北区	歴史博物館 埋文センター	・お城 EXPO2023 で小机城発掘成果をパネル展示・動画により紹介 ・小机城跡発掘調査映像の素材撮影

				・区内小学校における小机城址普及業務
		緑区	開港資料館	・関東大震災 100 年パネル展への資料提供
		青葉区	歴史博物館 埋文センター	・青葉区制 30 周年記念事業の史跡ガイドブック制作事業に原稿執筆などで協力 ・勾玉作り教室、遺跡巡りを開催（青葉台コミュニティハウス、美しが丘西地区センター）
		都筑区	歴史博物館	・広報よこはま都筑区版への連載記事掲載 ・都筑区制 30 周年記念事業への協力 ・都筑図書館・都筑区役所地域振興課と連携し、「寺院と文化財」と題した展示及び都筑区郷土講演会を都筑図書館で開催
		栄区	埋文センター	・栄区地域振興課 横穴墓見学会・勾玉づくり教室等を協働開催、栄区民活動支援情報誌 情報提供 ・栄区郷土資料室入室・受付・案内
市との連携	研修会等	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 市史資料室	・市職員向け講座等の実施 ・区局主催の研修会への協力 ・市新採用職員研修での講話	
	市民局	全施設	・広報よこはま全市版の連載原稿「よこはま彩発見」の執筆	
		歴史博物館	・ニッポン放送「ようこそ横浜」等への出演	
		開港資料館 都市発展記念館	・広報番組 TVK「ハマナビ」、FM ヨコハマ「YOKOHAMA My Choice!」等への出演	
	賑わいスポーツ文化局	歴史博物館	・ヨコハマアートサイト助成事業への協力	
	環境創造局	開港資料館 都市発展記念館	・歴史的建造物整備に関する有識者懇談会への職員派遣	
	建築局	開港資料館 都市発展記念館	・「よこはま建築アカデミー」への講師派遣	
	消防局	開港資料館 都市発展記念館	・横浜市中消防団発足に際してのパフレットの監修	
	国際局	ユーラシア文化館	・友好都市、パートナーシップ都市などの関連事業で協力。	
教育委員会との連携	小中学校企画課 方面教育事務所	全施設	・教材研究資料として財団作成資料等を発信 ・歴史博物館「博物館活用研修」の実施 ・教職員研修への協力	
	教職員育成課	全施設	・新採用教員への施設年間無料パスを配布	

	生涯学習文化財課	全施設	・歴史博物館「令和5年度横浜市指定登録文化財展」の共同開催 ・文化財調査への協力(小机城跡埋蔵文化財試掘調査の整理作業および報告書作成・発送業務支援) ・文化財修理協議会への協力 ・遺跡現地説明会への協力(小机城跡発掘調査成果報告会の運営等支援) ・関家住宅公開事業の共催 ・横浜市文化財保存活用地域計画の作成協力および協議会委員の派遣 ・小学生向け「昔のくらし」動画の配信 ・歴史博物館「子どもアドベンチャーカレッジ2023」への参加
	都筑図書館	歴史博物館	・都筑図書館・都筑区役所地域振興課と連携し、「寺院と文化財」と題した展示及び都筑区郷土講演会を開催
	中図書館	ユーラシア文化館	・中区ブックフェスタに参加
市・区研究会との連携	社会科研究会(市・区)	全施設	・教員研修講師、施設見学、教材研究用資料案内 ・小学校博物館利用研究会の運営支援 ・中学校教材開発研究会の運営支援
学校との連携	小学校	全施設	・歴史学習、社会見学、展示見学の受入 ・学芸員、エデュケーターによる訪問授業
	小学校	埋文センター	・栄区の小学校を対象に出前授業の実施。
	近隣小学校	三殿台考古館	・小学校の地域交流クラブに講師を派遣 ・総合的な学習の時間等への支援
	小学校	歴史博物館	・学校資料室の資料整理及び活用支援
	中学校	歴史博物館 埋文センター 三殿台考古館	・職場体験の受け入れ
	神奈川県立高校	歴史博物館	・県立高校インターンシップの受け入れ
	神奈川県高等学校文化連盟	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・神奈川県高等学校文化連盟との共催で社会科研究発表大会を開催し審査員を派遣
他館等との連携	神奈川県博物館協会	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーシア文化館	・部会への職員派遣 ・川崎市市民ミュージアムの資料レスキューのため職員を派遣 ・「神奈川震災100年プロジェクト」の企画・実施
	神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会	歴史博物館	・定例会に職員を派遣
	県立歴史博物館	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・展覧会への資料の貸出 ・展覧会準備や調査研究を目的とした資料熟覧対応 ・調査および展覧会への協力(洞穴遺跡展)

	(公財) かながわ考古学財団	歴史博物館 埋文センター	・令和5年度発掘調査出土品等展示会及び発掘調査成果発表会の開催 ・職員派遣（動物骨同定） ・書籍の執筆・座談会・YouTube 動画配信等の協力
	シルク博物館	歴史博物館	・関東学院大学及びシルク博物館と協定を締結し、横浜輸出スカーフ展「横浜スカーフ物語。その歴史を継いだ立役者たち」を、企画・監修：K G U 横浜スカーフ研究プロジェクト、会場：シルク博物館、共催：横浜市歴史博物館・関東学院大学、で実施した。
	国文学研究資料館	開港資料館	・国文学研究資料館が主宰するアーカイブズ・カレッジ（史料管理学会）の受け入れ
大学との連携	横浜市立大学	歴史博物館	・横浜市立大学と連携し、所蔵資料調査を実施
	東京大学史料編纂所画像史料解析センター	開港資料館	・幕末期に撮影されたガラス板写真の高精細撮影と内容分析
	関東学院大学	歴史博物館	・関東学院大学及びシルク博物館と協定を締結し、横浜輸出スカーフ展「横浜スカーフ物語。その歴史を継いだ立役者たち」を、企画・監修：K G U 横浜スカーフ研究プロジェクト、会場：シルク博物館、共催：横浜市歴史博物館・関東学院大学、で実施した。
	東海大学	歴史博物館	・東海大学と協働し、文化財資料の教育活用事業による博物館実習を実施 ・東海大学「地域史演習」への協力
	日本大学	埋文センター	・市内遺跡から出土した動物骨の古 DNA 分析に関する研究について連携
	山形大学	埋文センター	・市内遺跡から出土した遺物の脂質分析による食性解析に関する研究について連携
	横浜国立大学	埋文センター	・大学キャンパスに所在する遺跡及び所蔵遺物に関しての助言及び協力
	学外見学の受け入れ	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・大学の博物館課程等、カリキュラムに即した学外見学・実習の受け入れ ・昭和女子大学アーカイブズ実習の受け入れ
市民・関連団体との協働	市民ボランティア	歴史博物館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 三殿台考古館	<展示解説ボランティア> ・大塚遺跡等の野外施設及び常設展示室の解説を実施 ・学校団体（6年生）への野外施設1クラス1名でのガイド実施 ・学校団体（3年生）への都築民家園のガイド実施 <活動支援ボランティア> ・「当日参加型れきし工房」の実施

			<出土品整理作業ボランティア> ・三殿台遺跡出土品の整理作業を実施
	横浜郷土史団体 連絡協議会	歴史博物館 開港資料館	・研修会、記念講演会の開催協力 ・年1回の総会の開催協力 ・協議会 News 及び会報の発行協力
	横浜歴博もりあ げ隊との協働	歴史博物館	・講演会の共催・コンサートの共催 ・会報、つづき人交流フェスタ等への活動支援
	横浜縄文土器づ くりの会	歴史博物館	・博物館の調査研究活動に協力 ・実験考古学講座の指導委託
	横浜古文書を読 む会	歴史博物館	・原則として月2回の講座の開催支援 ・有志による調査研究活動の実施 ・特別講座の共催
	横浜古代史料を読 む会	歴史博物館	・古代史料購読会の開催支援
	横浜さいかちの 会	歴史博物館 埋文センター	・史料購読講座の開催支援 ・史蹟見学会の開催支援 ・歴史講演会への共催 ・考古学関係研修への協力・講師派遣
	スタチューパフ ォーマンス協会	ユーラシア文化館 開港資料館 都市発展記念館	・横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムを実 施し、集客と地域の賑わいを創出
	遺跡ガイドボラ ンティア及び遺 跡整理ボランテ ィア	三殿台考古館 埋文センター	・遺跡ガイドボランティアによる常設展示、遺跡ガ イドを実施 ・ボランティアの協力を得て出土資料や写真の再 整理を実施
	よこはま縁むす び講中	歴史博物館	・北部4区(公財)大倉精神文化研究所、小机城 のあるまちを愛する会、みどりアートパーク、横 浜市民ギャラリーあざみ野と連携し、実行委員 会を組織して実施
	よこはま地域文 化遺産デビュ ー・活用実行委 員会	歴史博物館	・令和5年度特別展「生誕百年 中田喜直展」の コンサート「ほしとたんぽぽ 夕空に響く優し い歌」を実施
	みなきたマルシェ 実行委員会	歴史博物館	・みなきたマルシェへの協力 ・「歴史未来フェス」の実施委託
	横浜シティガイ ド協会	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・連携ガイドツアーの実施 ・ガイド研修への講師派遣
	緑道ハレバレ会	歴史博物館	港北ニュータウンのグリーンマトリックスに携わ った上野泰氏による講演会「緑道を中心とした都 市を語る」を共催
	都筑文化芸術協 会	歴史博物館	・「つづきジュニアストリングス」への協力
	きたやまた落語	歴史博物館	・つづき寄席 in 歴博への共催

	倶楽部		
	紙芝居文化推進協議会	歴史博物館	・「手作り紙芝居コンクール」に協力 ・特別賞「横浜市歴史博物館賞」の新設 ※ヨコハマアートサイト助成事業
	ロジウラート実行委員会・都筑民家園	歴史博物館	・「ロジウラート 2023」に後援 ※ヨコハマアートサイト助成事業
	つづき地域活動ホームくさぶえ・つづきアート&ミュージック・ネクスト実行委員会	歴史博物館	・「子どもも大人も障害のある人もアートとミュージックでつながっていこう！」をコンセプトとした「つづきアート&ミュージック・ネクスト」に共催
	ヨコハマアートサイト事務局	歴史博物館	・ヨコハマアートサイト助成事業への協力
	区や地域の郷土史団体	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・講座、講演会に講師を派遣
	横浜商工会議所	開港資料館	・機関誌「Yokohama 商工季報」への寄稿
	横浜港振興協会	開港資料館	・機関誌「よこはま港」への寄稿
	横浜市防火防災協会	開港資料館 都市発展記念館	・機関誌「よこはま都市消防」への寄稿
	鶴見川流域水協議会	歴史博物館	・夢交流会&令和5年度鶴見川流域水循環系健全化貢献者表彰の開催
	横浜市芸術文化振興財団	開港資料館	・ヨルノヨ・アートプロジェクト「水の町プロムナード」への事業協力
	日本樹木医会神奈川県支部	開港資料館	・「たまくすの木」の維持管理に向けた協定締結
	日本青年会議所	開港資料館	・関東大震災100年パネル展への資料提供
	中区区民利用施設等	ユーラシア文化館	・「なか区ブックフェスタ」に参加
	横浜中華街発展会	開港資料館 ユーラシア文化館	・朝陽門石碑案内板の除幕式開催 ・文化観光ウェブサイト「こい旅横浜」の公開 ・スタチュー・ミュージアムでの連携 ・中華街での出張展示の実施
	地元商業団体	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・ハマフェス Y164 に参加し、地域の賑わい創出に寄与
	日本大通リエリアマネジメント協議会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・開港資料館文化観光拠点計画で連携 ・日本大通り周辺の事業所が連携し、活性化企画や催しを実施。横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムを実施。

	山下公園通り会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・開港資料館文化観光拠点計画で連携 ・加盟事業者によるイベント等への参加、協力 ・ハマフェス実施等についての連絡調整
	磯子区館長連絡会	三殿台考古館	・区内市民利用施設の連携・情報交換 ・いそっぴGW2023 スタンプラリーの開催
	栄区施設交流会	埋文センター	・区内市民利用施設の連携・情報交換
	青葉区郷土史の会	埋文センター	・歴史講座・遺跡探訪の講師派遣
	NPO 法人積み木	埋文センター	・歴史講座への講師派遣
	戸塚区公園愛護会	埋文センター	・歴史講座への講師派遣
	上郷ネオポリス自治会	埋文センター	・上郷ネオポリス夏祭り模擬店出店協力(土器パズル)
企業との連携	三陽物産	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・「横浜の歴史と文化」の普及啓発に関する協定の締結 ・歴史博物館企画展「ヨコハマの輸出工芸展」への資料出陳 ・開港資料館への「ベアト撮影・ダグラス中尉旧蔵写真アルバム」の寄託
	横浜メディアビジネス総合研究所	歴史博物館	・企画展前売券の販売協力
	ボッシュ株式会社	歴史博物館	・新社屋市民利用スペースの活用に向けた検討に協力
	音楽出版ハッピーエコー・ナカダ音楽事務所	歴史博物館	・特別展「生誕 100 年中田喜直展」への協力
	横浜エクセレンス	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・「横浜の歴史およびスポーツ文化の普及啓発に関する協定」の締結 ・エクセレンスのホームゲーム会場でのパネル展示の開催 ・ショップ&カフェ利用でのホームゲーム招待券プレゼント
	NHK エデュケーション	開港資料館 都市発展記念館	・関東大震災パノラマ写真の彩色復元プロジェクトの共同実施
	NHK 横浜放送局	開港資料館 都市発展記念館	・関東大震災 100 年漫画企画「筆先のあなたへ」の内容監修
	HITOTOWA INC.	都市発展記念館	・関東大震災 100 年対談企画への協力
	ローズホテル横浜	ユーラシア文化館	・「ホテル de ミュージアム 横浜中華街歴史回廊」を実施
その他	相模民俗学会	歴史博物館	・民俗学講演会「民俗芸能を消滅させられた地域」(講師:西海賢二氏)を共催

神奈川県考古学会	歴史博物館	・神奈川県遺跡調査・研究発表会を共催
イギリス大使館	開港資料館	・旧館記念ホール開催のパネル展（イギリス大使館の歴史）への資料提供。
首都圏形成史研究会	開港資料館 都市発展記念館	・シンポジウム「関東大震災」研究の最前線」及び展示見学会の開催
全埋協関東ブロックデジタル活用委員会	埋文センター	・デジタル実測・トレース方法研修への講師派遣

2 歴史博物館事業

令和5年度は、5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、これまでの各種の制限を撤廃して学校や団体の利用を促すとともに、地域や市民が組織するさまざまな団体と連携して多彩な事業を展開し、地域の活性化や多様性、社会的包摂などの役割を果たす取り組みを進めました。

資料収集では、緑区の旧家資料など寄贈7件、寄託1件を受け入れました。また5F収蔵庫の棚の増設を行い、空調工事で休館する横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館の収蔵資料を受け入れました。調査研究事業では、基礎資料研究や連携調査研究15本を進め、成果の一部は『調査研究報告』、『資料目録』、『紀要』に掲載し、webで公開しました。

常設展事業では、30周年事業の一環として地域在住のドイツの方やドイツ学園に協力を仰ぎ、多言語解説アプリのドイツ語版を制作したほか、展示解説映像を解説アプリに取り込み、来館者のスマホやタブレットで視聴できる仕組みを整えました。課題となっていた歴史劇場については所管局により、各種造作や稼働不能であった映像音響設備を年度末に撤去しました。次年度から新たな運用に取り組みます。29年を経過して発生している不具合への対応は引き続き課題として、所管局と共有していきます。

企画展事業は、横浜開港資料館の拠点計画で進めているデジタルアーカイブ構築の成果の一部を活用した企画展「浮世の華 描かれた港崎」、小学校6年生の歴史の学習に合わせ、考古学を身近に楽しみながら学べるアクティブラーニングの手法を取り入れた企画展「君も今日から考古学者 横浜発掘物語2023」、横浜ゆかりの作曲家を取り上げた特別展「生誕100年 中田喜直展」、工事休館明けの展覧会として行った企画展「ヨコハマの輸出工芸展」と「令和5年度横浜市指定・登録文化財展」を開催しました。関連事業は「浮世の華」展では横浜シティガイド協会と連携したガイドツアー、「君も今日から考古学者」展では映画会、「中田喜直」展では中田氏の音楽に触れるコンサートを展開したほか、展示を深めるギャラリートークや講演会など、市民の多様な生涯学習のニーズに応える取り組みを進めました。

企画普及事業は、さまざまな団体や市民と連携して、さまざまな講座・講演会やワークショップのほか、賑わいの創出や多様性、社会的包摂に対応する多彩な催しを展開しました。中でも、みなきたマルシェ実行委員会と協働し、港北ニュータウン地域で活動している団体の発表の場として企画した「歴史未来フェス」は3日間で5千人以上が来館し、当館が地域の結節点となりえる新たな催しとなり

ました。また4か月の休館中はアウトリーチ事業に取り組んだほか、展示解説や教養講座、他施設見学など様々なテーマでのボランティア研修を実施し、再開館後の活動に備えました。学校連携事業では小学校3年生向けの動画が好評で、本年度制作の映像も含め13万回以上も再生されました。

施設の管理運営では、4か月の休館を伴うチラーの設備更新工事にあたって所管局や施工会社と連絡を密にして調整を図り、適切な施工管理に取り組みました。竣工から29年が経過した施設・設備については日頃からの監視と保全に取り組み、所管局と情報を共有して安定した運営を支えました。収益事業のうち、ミュージアムショップでは新商品開発や企画展関連商品の充実を図りました。駐車場事業では、遺跡公園利用者の利便性の向上を図るため、博物館休館日も営業するよう改めました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

展示・教育・普及・閲覧公開等の博物館活動に活用する資料を寄贈・寄託等の方法で収集し、燻蒸を行って分類・整理するとともに、収蔵庫や展示室を適切な温湿度に保ち、保管しました。

本年度の資料収集では、横浜芝山漆器や旧家の古文書に加え、街頭紙芝居や小机城の調査写真など、これまでの博物館での調査研究や展覧会の成果にかかわる資料の寄贈を受けました。また5F歴史収蔵庫の収蔵棚の増設を行い、空調工事で休館した横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館の資料を保管しました。

（1）資料の収集・管理

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈7件 992点 寄託1件 2点 寄託解除1件 1点	主な寄贈資料：横浜芝山漆器 緑区長津田河原家文書 街頭紙芝居 小机城発掘調査写真
資料の整理活用（収集資料のデータ入力）	1,437件	図書文献資料のデータ入力を行った。
資料の整理活用（収集資料の貸出）	6件53点	他機関における展覧会を目的に資料の貸出を行った。 ・神奈川県立金沢文庫特別展「社寺明細帳図—明治13年神奈川県下の神社・寺院の姿—」令和5年5月26日～7月23日 「社寺明細帳図」計5点 ・茨城県近代美術館企画展「土とともに 美術にみる〈農〉の世界—ミレー、ゴッホ、浅井忠から現代のアーティストまで—」令和5年7月8日～9月3日 笠木治郎吉「百合を持つ少女」「田植えをする女」計2点 ・小田原城天守閣特別展「小田原北条氏誕生500年 関東の雄 北条氏綱」令和5年11月3日～令和6年1月14日 「北条氏綱判物」（小岩井家文書）計1点 ・横浜輸出スカーフ展「横浜スカーフ物語。その歴史を

		継いだ立役者たち」（共催事業、会場はシルク博物館） 令和 5 年 12 月 2 日～令和 6 年 1 月 21 日 「横浜輸出スカーフ」計 28 点 ・神奈川県教育委員会事務局（神奈川県埋蔵文化財センター）令和 5 年度 神奈川の遺跡展「華開く律令の世界」 令和 5 年 12 月 16 日～令和 6 年 1 月 24 日（茅ヶ崎市博物館）、令和 6 年 2 月 3 日～3 月 6 日（神奈川県立歴史博物館） 「長者原遺跡出土品」ほか計 13 点 ・横須賀美術館展覧会「驚異の細密表現展—江戸・明治の工芸から現代アートまで—」令和 6 年 4 月 20 日～6 月 23 日 「横浜彫刻家具」4 点
資料の整理活用（収集資料の特別利用）	16 件	他機関における展覧会のための貸出、および調査研究を目的とした資料の熟覧、撮影等特別利用に対応した。 16 件の内訳は考古資料 872 点、古文書 18 点、工芸品 81 点、絵図 1 点、レプリカ 7 点。
資料の整理活用（スカーフ資料の閲覧公開）	5 件 (データベース利用 4 件)	昨年度移管された横浜スカーフ資料について、閲覧公開を開始し、本年度は 5 件 90 点に対応した。
図書資料の公開	3,746 件	図書閲覧室で、文献資料の公開及びレファレンスを行った。
写真資料の撮影・整理	撮影数 1,725 カット 他、出張先にて撮影	常設展示や企画展・特別展に関する資料及び収蔵資料の撮影と RAW 現像、画像補正などを行った。
画像資料の貸出	貸出件数 47 件 66 点	他の博物館や公共機関、出版社、放送局などへの写真資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳 (R5.4～R6.3)

※ () 内は、前年度点数

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
絵 画 (点)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	1,986 (1,986)
工芸品 (点)	(—)	(—)	58 (—)	(—)	58 (—)	190 (132)
彫 刻 (点)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	21 (21)
書 跡 (点)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	54 (54)
典 籍 (点)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	4,709 (4,709)
古文書 (点)	(—)	(—)	501 (1,433)	2、-1 (—)	502 (1,433)	36,857 (36,355)
古記録 (点)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	55 (55)
絵 図 (点)	(—)	(—)	(—)	(1)	(1)	173 (173)

歴史資料 (点)	(1)	(一)	112 (一)	(一)	112 (1)	19,016 (18,904)
考古資料 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	24,572 (24,572)
民俗資料 (点)	(一)	(一)	321 (154)	(一)	321 (154)	23,159 (22,838)
図書文献資料 (点)	87 (95)	(一)	824 (1,233)	(一)	911 (1,328)	79,388 (78,477)
合 計	87 (96)	(一)	1,816 (2,820)	1 (一)	1,904 (2,916)	190,180 (188,276)

(3) 図書閲覧室利用状況

項 目	令和5年度	令和4年度	令和3年度
閲覧室利用者数(人)	3,927	7,421	5,222
複写申込件数(件)	169	314	266
複写枚数(枚)	1,680	3,486	3,021
レファレンス件数(件)	246	317	298

※令和5年10/2～令和6年2/2 工事休館のため休室

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
文化財害虫への対応	新規収蔵資料はすべて燻蒸を実施の上、収蔵庫に搬入したほか、収蔵庫から出した資料は、資料の種別や利用場所等に応じて点検を行い、必要のある資料は再度燻蒸して入庫する措置をとった。
保存燻蒸処理	二酸化炭素燻蒸を4月と12月に行なった。
環境検査	館の環境を把握するため、定期的に昆虫類モニタリング、菌類測定、塵埃測定、光学的測定を行った。

(5) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
歴史博物館収蔵庫 (1,901 m ²)	原始・古代から近現代までの各資料を保管する考古収蔵庫・歴史収蔵庫・特別収蔵庫・民俗収蔵庫の管理を行った。庫内および前室の環境を見直し、清掃方法を確認し、防塵マットの設置・交換を行った。また今年度は歴史収蔵庫に新規の収蔵棚を設置するとともに、既存の収蔵棚の上部に新たな棚の増設工事を実施し、空調工事に伴い休館する横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館の収蔵資料を受け入れた。

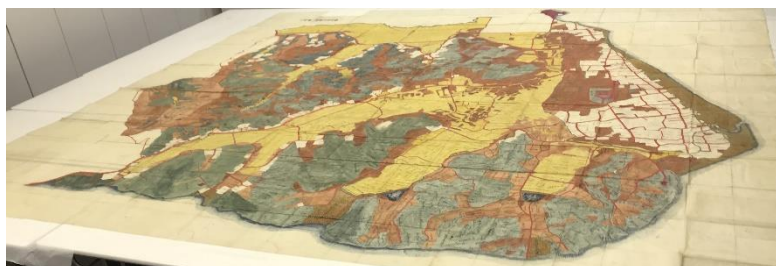
(6) 博物館資料レスキュー

川崎市市民ミュージアムの博物館資料レスキューのために神奈川県博物館協会に職員を派遣し、

歴史資料の乾燥・解体や、民俗資料の仕訳などの作業に当たった。

歴史資料 7/27(木) 1名、7/28(金) 1名

合計 2日間 計1名



本牧間門絵図（寄託資料）



収蔵棚増設工事

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

博物館活動の原資となる調査研究は、（１）基礎資料研究、（２）他施設と連携して行なう連携調査研究、（３）次年度以降の企画展開催に向けた調査研究、（４）資料の基礎整理について、次の通り実施しました。

（１）基礎資料研究

項 目	目的・意図
基礎研究	
市域所在の中世資料の調査（１／２年次）	本調査研究では、市域に所在する中世資料の再確認を実施した。 今年度は、港北区小机町・鈴木家の「豊臣秀吉禁制」を調査し、借用・撮影を行った上で、紀要に考察を執筆した。
市内旧家所蔵資料調査（１／２年次）	市域に所在するおもに近世地方文書の調査・整理を行う。今年度は緑区の河原家文書の整理を行い、成果を『資料目録』（PDF版）として刊行した。また同じく緑区の荻谷家文書の整理を行った。荻谷家文書については、次年度も整理を継続する予定である。
横浜市域の美術史の基礎的研究（１／２年次）	当館及び財団諸施設また市域の旧家には多くの絵画資料が存在するが、当館では歴史資料としてのみ扱われてきたため見過ごされてきた。これらを美術史の文脈として捉え基礎的データを作成する。本年度は、収蔵資料を中心に、浮世絵作品の悉皆調査を終え、『調査研究報告書』（PDF版）に成果を掲載した。また、館蔵の屏風について調査・撮影を行い、基本情報の追加・修正を行った。
八聖殿資料調査（１／２年次）	横浜市教育委員会からの依頼により、横浜市八聖殿郷土資料館所蔵の民俗資料の整理調査を実施した。
横浜市域の古墳時代資料の研究（１／２年次）	上矢部町富士山古墳出土資料の台帳整理を行った。 また、盾持人形埴輪1点について今後の調査・活用に活かすために3Dモデルを作成した。

テーマ研究	
大塚遺跡の水田・食糧に関する研究 (1/2年次)	水田稲作技術比較研究プロジェクトの構成団体のひとつとして、戸塚区舞岡の水田運営の準備を進めた。 巡回展示用のパネルを製作し朝日遺跡や登呂遺跡などで展示した。当館では3/30から展示中。 愛知県朝日遺跡で12月9・10日に実施した、第4回弥生・古墳の水田復元研究会公開シンポジウム『弥生時代の収穫・調製技術の再検討』に参画した。
市内彫刻文化財の研究 (1/2年次)	当館所蔵彫刻資料の調書作成を進めた。また、港北区・蓮勝寺諸像のうち、江戸時代の作の調査を行った。
学校内歴史資料室に関する研究 (1/2年次)	これまで実施してきた学校内歴史資料室の資料整理の成果を活用し、資料所在状況等を明らかにするとともに、資料館運営の助言等を行った。本年度は上菅田笹の丘小学校、黒須田小学校、今宿小学校についてを行った。
都筑区川和町中山家に関する研究 (1/2年次)	中山恒三郎家資料にある「営業簿」について調査研究を行い、内容の検討を進めた。成果は「翻刻 中山恒三郎家「営業簿」(昭和八～九年)」として『紀要』に掲載した。
武州金沢藩米倉家文書に関する研究 (1/2年次)	令和3年度に実施した企画展「横浜の大名」を契機とし、横浜市域に陣屋を構えた唯一の大名である米倉家に伝来する古文書の整理・調査を開始した。今年度は、『横浜市史料所在目録』未掲載文書の整理に着手し、成果の一部を講座等で報告した。
市民協働調査研究	
土器の製作・使用に関する実験考古学的研究 (1/2年次)	山形大学の白石哲也准教授・有限会社NORMAと協働して弥生土器での魚醬づくりを実施した。成果については企画展示・紀要等にまとめる予定である。 国立歴史民俗博物館の山下優介氏、横浜縄文土器づくりの会と協働して弥生土器(模造)の種子圧痕調査を実施した。継続して調査を進める予定である。
市民協働古文書整理解説 (1/2年次)	今年度に寄贈となった緑区長津田の河原家文書と、廻り地蔵関係の古文書の解説を実施した。昨年度に引き続き、オンライン会議システムを利用してリモートで輪読を行った。解説の成果は、今後何らかの形で報告をしていきたい。
市民協働民俗調査 (1/2年次)	民俗に親しむ会とともに、鶴見川の支流である恩田川流域のフィールドワークを実施したほか、これまでのFWの内容を深める勉強会を2回実施した。 6/11FW 雨天中止、7/9FW 雨天中止・勉強会「恩田川流域の地形について」於歴史博物館、11/3 緑区小山町・青砥町 FW 12/24 緑区中山町・寺山町 FW・勉強会「石仏誌」(講師:加藤隆志氏) 於白山地区センター、2/12 緑区中山町・寺山町 FW

(2) 連携調査研究

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団の諸施設や他の研究機関と連携して調査研究を実施した。

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
小机城・小机地域にか かわる総合的研究 (3/5年次)	今年度は横浜市教育委員会による小机城発掘調査の成果報告書に、文献資料からみた小机城について執筆した。来年度は学習院大学輔仁会史学部による調査にかかわり、第三京浜道路工事に伴う当時の埋蔵文化財調査について、県の台帳等を調査する。
ユーラシア概念をめ ぐる研究(3/5年 次)	横浜ユーラシア文化館開館 20 周年記念シンポジウム「東アジアの帯金具と古代の日本」の開催に協力した。

(3) 企画展関係にともなう調査研究：企画展・特別展の開催に向けての調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「君も今日から考古学者」	より体験型の展示とするために発掘体験の実施、ワークブック・ガイドブックの作成、企画展関連事業の充実化を図った。 特に本企画展終了後もワークブックの使用を行うために常設展示室内に設問に即したパネルや資料を追加した。
企画展「ペリー来航 170 年記念展」	展示計画を検討し、広報印刷物の制作に着手した。また船の科学館による「海の学びミュージアムサポート」支援金を得るべく、申請書を提出した。
企画展「寶林寺展」	展示計画を検討し、出陳交渉および、輸送、展示造作、展示図面、広報印刷物制作の準備を整えた。
都筑青葉区制 30 周年記念展	展示計画を検討し、都筑青葉両区との連携、また横浜国立大学との連携事業について調整した。
令和 7 年度以降企画展調査	令和 7 年度以降の企画展について、基礎調査を行った。

(4) 資料の基礎整理

資料収集や調査研究に係わる資料について整理を行った。

	資料群	点数	備考
1	緑区旧家古文書	501	完了
2	緑区旧家古文書	1,144	継続
3	伊藤宏見旧蔵資料	30	継続
4	海野コレクション	2280	継続
5	平尾家コレクション（郷土玩具）	3,889	完了

このほか、東海大との協働による文化財資料の教育活用事業による博物館実習との連携を行った〔5－(7) 参照〕。

(5) 調査研究報告の刊行

『横浜市歴史博物館調査研究報告第 20 号』を刊行した。

今号は、令和5年3月18日～5月7日に開催した企画展「浮世の華 描かれた港崎」での成果をもとに、港崎を題材とした浮世絵と当時の歴史的背景についての分析を掲載した。

なお調査研究報告は令和4年度よりデジタル化し、博物館ホームページにてPDFデータを公開している。

(6) 紀要の刊行

『横浜市歴史博物館紀要第28号』を刊行した。今号は以下を掲載した。なお、調査研究報告同様、紀要は昨年度よりデジタル化し、博物館ホームページにてPDFデータを公開している。

- 論文・続・朝光寺原式土器の根源的研究―大場富士塚遺跡の弥生土器をめぐって―
 ・山内清男と1924年春の加曽利貝塚発掘
- 研究ノート・関東大震災からの復興に関わった助人と職人たち
 ―氷取沢の金子里吉の日記を読む―
- 報告・大学と博物館の協働による文化財資料の保存活用事例
- 資料紹介・「小机庄之内四人衆拘分」宛ての豊臣秀吉禁制について
 ・東京湾西岸における弥生時代～古墳時代前期の貝類資源利用
 ―赤羽台遺跡・弥生二丁目遺跡・諏訪下北遺跡・上台北遺跡・三殿台遺跡・
 間口洞窟遺跡の資料調査報告―
 ・横浜市青葉区稲荷前16号墳出土土器の年代とその評価
 ・翻刻 中山恒三郎家「営業簿」(昭和九年)

(7) 資料目録の刊行

『横浜市歴史博物館資料目録第33集』を刊行した。今号は、武蔵国都筑郡長津田村（現在の横浜市緑区長津田）の河原家文書の目録を掲載した。

資料目録は令和4年度よりデジタル化し、博物館ホームページにてPDFデータを公開している。

(8) 調査等への職員派遣

文化財調査等に職員を派遣した。

名称・日程	派遣人数	内 容
横浜市文化財総合調査	2名	横浜市教育委員会による文化財の総合調査 3/5（火）宗教法人東禅寺（磯子区）



河原家文書
(市内旧家所蔵資料調査)



蓮勝寺（港北区）仏像調査
(市内彫刻文化財の調査)



東禅寺（磯子区）での仏像調査
(横浜市文化財総合調査への職員派遣)

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

今年度上半期は、スタディサロンにおいてデジタルサイネージを活用したほか企画展「君も今日から考古学者！」の関連事業として、「kids 考古学新聞コンクール」受賞作品の展示を行いました。

設備改修工事のために10月2日～2月2日が休館となりましたが、その間に展示解説ボランティアに向けて研修の充実を図りました。再開館後の展示解説ボランティアによる解説には、来館者から好評を得ています。

また、これまで英語・中国語（簡体字・繁体字）・韓国語に対応してきた多言語公式解説アプリについて、ボッシュ日本法人本社の博物館隣接地への移転を機に、開館30周年事業の一環として、ドイツ語を加えることとし、地域在住のドイツ出身者に翻訳とナレーションの協力を仰いで本年度に制作を行いました。次年度初頭より運用を開始します。

歴史劇場については2021年末に劇場内のプロジェクター等の故障が起こり、対応を所管局と協議してきましたが、本年度末に横浜市により既存の映像・舞台装置・音響設備等の撤去を行いました。次年度からの新たな運用を検討します。

(1) 保守点検・維持管理

展示資料・ジオラマ類・映像機器類の保守点検は、近世桜屋模型の照明交換および全体調整1回を実施した。日常の展示資料の清掃は、職員が月2回の頻度で行った。

また褪色していた原始Ⅱのグラフィックパネルの更新や、解説映像を多言語解説アプリからみられるようにするなど、展示状況の改善を図った。

歴史劇場の故障については所管局と対応を協議し、既存の映像・舞台装置・音響設備の撤去を行った。

(2) 常設展示室の構造と特色を生かして、来館者の満足度を高めるための事業を行った。

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
デジタルサイネージの運用	デジタルサイネージを活用し、「茅ヶ崎城址公園(中世)」、「東海道と横浜の宿場(近世)」、「廻り地藏(民俗)」等の解説スライドをスタディサロンで上映した。

多言語化解説のコンテンツ（公式解説アプリ）運用	日本語、英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語での多言語解説アプリ「ミューズナビ」を、常設展示室にて運用した。また、新たにドイツ語を導入することとし、地域のドイツ出身者に協力を仰ぎ、解説のドイツ語翻訳および音声録音を実施した。（※7 参照）
常設展示室内の展示解説映像のアプリ化	常設展示室で、スタンドアロンで提供していた展示解説映像を解説アプリに格納し、来館者各自のスマホやタブレットから視聴できるようにした。（※7 参照）
「横浜市歴史博物館クイズ&ムービー」の提供	スタディサロンでは、来館者のスマホやタブレットで歴史クイズやオリジナルビデオが視聴できる「横浜市歴史博物館クイズ&ムービー」をアプリにて提供した。
常設展ロビーの活用	常設展ロビーを活用して、2/3（土）から3/20（水祝）まで、小学校3年生の学習単元に合わせたミニ展示「ちょっと昔のくらし」を開催した。

（3）常設展示室観覧者の推移

	有料観覧者（人）					無料観覧者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	シニア	高大	小中	計					
5年度	7,598	3,008	804	2,770	14,180	20,248	34,428	63.6%	208日	166
4年度	19,349	4,288	1,295	4,335	29,418	24,681	54,099	152.9%	306日	176
3年度	11,811	4,300	981	3,223	20,315	15,064	35,379	129.9%	306日	116

※令和5年度はチラー更新工事のため、10/2～2/2まで休館



原始Ⅱ展示室グラフィックパネル更新



常設展ロビーを活用したミニ展示

4 企画展事業（定款第4条第1項第1号②）

時機に応じた様々な横浜の歴史を取り上げ、また調査研究の成果を踏まえた企画展示を開催しました。関連事業は感染症対策を踏まえて実施しました。

（1）企画展・特別展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	観覧者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「浮世の華」	一般 800	3,733人	安政5年（1858）に締結された日米修好通商条約

描かれた港崎」 令和 5 年 3 月 18 日 (土) ～5 月 7 日(日) 会期 51 日 開館日数 44 日	円 高 校 ・ 大 学 生 600 円 小 ・ 中 学 生/横浜市 内在住 65 歳以上 300 円	会期 50 日 開館日数 44 日 1 日あたり 84 人	により、翌年（1859）6月2日、横浜は開港した。以来、急速な変貌を遂げていく開港の地に向けられた人々の強い好奇心を満たすように、横浜の発展する街並みや新たな名所、外国人風俗や西欧文化を主題とした浮世絵が発行され、それらは「横浜浮世絵」と呼ばれている。 この横浜浮世絵に描かれた主題の一つに、かつて横浜にあった港崎遊廓がある。街並みとともに遊廓を作品の中心におくもの、遊廓を背景にして人物を大きく配置するもの、絢爛豪華な遊廓の屋敷内で遊興に行じる外国人など、画家たちにとっても興味をひかれる画題のひとつとなり、開港場横浜の西のはずれに建設された遊廓をとりあげた浮世絵が多く制作された。 本展では、横浜の街づくりとともに建設された港崎遊廓について、横浜開港資料館所蔵資料を中心に、その歴史と記憶を概観した。 ・ギャラリートーク（担当学芸員による展示解説） 場 所：横浜市歴史博物館 企画展示室 参加費：無料(企画展入場料金) 時 間：各回 14：00～（40～50 分程度） 日 程：4/1（土） 40 名 4/15(土) 36 名 4/29（土） 54 名 5/6(土) 45 名 <u>合計 175 名</u> ・横浜シティガイド協会連携ガイドツアー「開港の社交場 港崎遊廓」 ①4/23(日) 42 名、②4/28(金) 44 名 合計 86 名
企画展「君も今日から考古学者！-横浜発掘物語 2023-」 令和 5 年 5 月 20 日 (土) ～6 月 25 日（日） 会期 37 日 開館日数 32 日	一般 800 円 高大 200 円 小中学生、 市在住 65 歳以上 100 円	9,807 人 会期 37 日 開館日数 32 日 1 日あたり 306 人	本展は、2019 年以来 4 年ぶりに開催したハンズオン型の展示である。主な観覧者を学校見学に来館する 6 年生としつつ、埋蔵文化財センターによる横浜の遺跡展「舞岡熊野堂遺跡の全て」と同時開催することで考古学好きの市民の来館促進も目指した。 開館日数 32 日間で 9,807 人の観覧者に恵まれた。これは 6 月 2～4 日の 3 日間にかけて実施した「歴史未来フェス」によるところが大きく(期間中来館者 5,254 人)、地域住民に対しても発掘調査や考古学についてアピールできる機会となった。

		また、今年が大塚遺跡本調査から 50 年にあたることから、特集コーナーを設置し、スロープの写真展、当時の調査担当者による講演会を行うことができた。 企画展示室のほか、エントランス脇のスロープではパネル展「写真でみる 50 年前と今の大塚・歳勝土遺跡」、常設展示室スタディサロンでは「kids 考古学新聞コンクール」、体験学習室および常設展示室歴史劇場では大塚・歳勝土遺跡と常設展示室原始Ⅱの案内動画を上映し、館内の多くの場所で考古学や発掘調査について見学・学習できるようにした。 関連イベントでは、大塚遺跡発掘調査をテーマとした講演会や映画「掘る女」の上映会など対象年齢を高め設定することで、幅広い年齢層に企画展を見学してもらうことを狙った。 一般・小学校のアンケートからは縄文土器片を触ったり観察したりしながらワークシートに記入して考古学について追体験できる「土器のかけらをひろったよ！」への好意的な回答が多かった。次年度以降も内容の改良や追加をしていくことでよりわかりやすい展示を目指していきたい。 関連事業 (1)大塚遺跡本格調査 50 周年記念講演会 「大塚遺跡と遺跡群研究」 講演者:小宮恒雄氏 日時:6 月 17 日(土)14:00～15:30 会場:横浜市歴史博物館講堂 参加費:1,000 円 参加者:56 人 (2)映画「掘る女」上映会 日時:6 月 10 日(土)10:00～12:00(21 人)・14:00～16:00(42 人)、6 月 11 日(日)10:00～12:00(21 人) 会場:横浜市歴史博物館講堂 参加費:1,200 円 (3)映画「掘る女」上映会と松本貴子監督トークショー 日時:6 月 11 日(日)13:00～15:00・15:15～16:00(80 人) 会場:横浜市歴史博物館講堂
--	--	---

			参加費:1,200 円 (4)フロアレクチャー 日時:6 月 3 日(土)11:00～12:00(19 人)・14:00～15:00(18 人)・6 月 24 日(土)11:00～12:00(56 人)・14:00～15:00(47 人) 会場:横浜市歴史博物館企画展示室 参加費:無料、ただし企画展チケット購入者のみ ※横浜の遺跡展と共同開催
企画展「生誕百年 中田喜直展」 令和 5 年 7 月 1 5 日(土) ～1 0 月 1 日(日) 会期 79 日 開館日数 68 日	一般 1,000 円 高大 400 円 小中、市在住 65 歳以上 200 円	8,302 人 会期 79 日 開催日数 68 日 1 日あたり 122 人	「夏の思い出」「ちいさい秋みつけた」などを作曲したことで知られる中田喜直は、横浜ゆかりの作曲家である。令和 5 年(2023)8 月 1 日、中田が生誕 100 年を迎えることから、その生涯、人物像、音楽、そして横浜とのかかわりを紹介する特別展を開催した。中田夫人の幸子氏および同氏が代表をつとめる音楽出版ハピーエコー、中田の甥の中田基彦氏および同氏が代表をつとめるナカダ音楽事務所の全面的な協力を得、写真や直筆の楽譜、手紙、記録類や愛用の品など貴重な資料を出陳した。また、中田が作曲した横浜市内の小中高校の校歌を紹介するコーナー、中田の楽曲を常時 BGM として放送するコーナーを設けた。ショップで楽譜や音楽関係の雑貨を扱ったり、音楽関係の施設・企業へ広報を行うなど、新たな PR 先の開拓も試みた。 また中田が愛用した細幅鍵盤のピアノの試奏体験を土日祝日に行った。中田作品を演奏する参加者が多く、好評であった。 図録は、展示の内容とともに、中田にゆかりのある 18 人の方から寄稿いただき、充実した内容となった。 関連事業は中田作品のコンサート、講演会、展示解説、ピアノの試奏体験を実施した。コンサートは中田ゆかりの声楽家や合唱団を招き、楽曲に加えエピソードなども交えた内容とした。市内の音楽教室の協力を得、高校生以下の生徒によるピアノ発表会も開催した。講演会は、中田と親交のあった、理論物理学者の佐治晴夫氏を招き、中田とのエピソードや物理学と音楽のかかわりなどについてお話しいただいた。いずれも多く参加者を得、展示や中田喜直という人物への理解が広がる充実したものとなった。 図録 販売 543 冊

			関連事業（主催） 1 トワイライトコンサート～中田喜直の夕べ ①8/26（土）「ほしとたんぽぽ 夕空に響く優しい歌」 三縄みどり氏（Sop.）、田中明子氏（Pf.） 95 人 ②9/23（土）「華やかさと心憂さ 光と影の音楽」 土屋広次郎氏（Bar.）、フェリス・フラウエンコーア 59 人 2 横浜混声合唱団 ミニコンサート 8/5（日） 吉田孝古麿氏（Cond.）、須江太郎氏（Pf.） 横浜混声合唱団 61 人 3 中田喜直とこどもの夢 三響楽器店 音楽教室 ピアノコンサート in 横浜歴博 9/3（日） 74 人 4 講演会「中田喜直先生と旅する宇宙～理性と情緒 の交叉点～」 9/30（土） 佐治晴夫氏（理学博士） 145 人 5 展示解説 7/30（日）13 人、8/19（土）18 人、9/9（土）42 人 9/18（月祝）46 人 6 細幅鍵盤のピアノを体験してみよう 会期中の土・日・祝日 932 人 関連事業（共催・協力） 1 ミュージカルコラボステージ 7/21（金）、7/22（土） 主催：B-Wave 336 人 2 つづきジュニアストリングス 練習：7/26（水）、27（木）、28（金）、8/2（水） 成果記録会（発表会）：8/3（木） 主催：NPO 法人 都筑文化芸術協会 のべ381 人 3 横浜市立万騎が原小学校 6 年 1 組の中田喜直につ いての作品展示
企画展「ヨコハマの 輸出工芸」 令和 6 年 2 月 3 日 （土） ～3 月 10 日（日）	一般 500 円 高大 400 円 小中、市在 住 65 歳以 上 300 円	5,305 人 会期 37 日 開館日数 32 日 一日平均 165 人	横浜は、幕末期の開港とともに、文字通り「港を開く」 ことによって海外と貿易をすることはもちろん、それ によってもなったさまざまな文化の往来がはじまり、その 時代時代のニーズに合わせた商品が輸出された。本展 示では横浜を起点に海外へ向けて輸出された工芸品に ついて、横浜眞葛焼、横浜芝山漆器、横浜彫刻家具、横 浜輸出スカーフをとりあげ、「横浜発、世界へ」と渡っ ていった品々とともにその歴史の一端を概観し、広く

			市民にその歴史を知ってもらうとともに、国際都市である横浜を考える機会を提供した。 展示資料は、当館所蔵資料の横浜眞葛焼、2023 年に寄贈された横浜芝山漆器、2022 年に経済局より移管された横浜輸出スカーフ、2020 年経済局より移管された横浜彫刻家具をとりあげた。関連事業として、令和 5 年度横浜市歴史博物館特別講演会「開港都市横浜が育んだやきもの 眞葛焼」（講演者：宮川香山眞葛ミュージアム館長 山本博士氏）や、「ギャラリートーク」（担当学芸員による展示解説）を行った。同時開催である令和 5 年度横浜市指定登録文化財展（以下文化財展）との相乗効果もあって、入場者数が比較的に少ない例年に比べ 1.25 倍の 5305 人の来館者数（一日平均 165 人）をあげる結果となった。 関連事業 ①令和 5 年度横浜市歴史博物館特別講演会「開港都市横浜が育んだやきもの 眞葛焼」（講演者：宮川香山眞葛ミュージアム館長 山本博士氏） 日程：2/26（日）14：00～15：30 会場：講堂 参加費：¥1000 参加人数：107 人 ②「ギャラリートーク」（展示解説） 日程：2/10（土）14：00～14：40 53 人 2/24（土） 同上 30 人 3/9（土） 同上 85 人
令和 5 年度横浜市指定・登録文化財展 令和 6 年 2 月 3 日（土）～3 月 10 日（日）	一 500 円 高 400 円 小中、市在住 65 歳以上 300 円（横浜の輸出工芸展と共通）	5,305 人 開館日数 32 日 一日平均 165 人	令和 5 年度横浜市指定・登録文化財展では、新指定文化財の紹介とともに、文化財を後世に伝えるために行われた近年の修理事業についても取り上げた。本年度の新指定文化財と修理事業の対象は不動産が多く実物の展示は少数となったが、新指定の「木造釈迦如来坐像」（宝林寺・12 世紀頃）、令和 4 年度修理の「木造阿弥陀如来坐像」（向導寺・11 世紀）、令和 5 年度修理の重要文化財「木造阿弥陀如来坐像および両脇侍像」（証菩提寺・12 世紀）、以上 5 軀の平安仏が展示されたことや、向導寺像及び証菩提寺像が修理後初めてのお披露目となったこともあり、高い関心が寄せられた。また、プレ展示とし、横浜市役所 1 階展示スペース A を会場に 1/10～1/17 までパネル展を開催し、1/17 にはトークイベントや仏像の構造を学べる WS 等

			を行った。※詳細は 5- (6) 参照 講演会 3月2日(土) 14:00~15:30 講堂 「仏像が語る横浜の平安時代 -向導寺阿弥陀如来像と証菩提寺阿弥陀三尊像修理完成を機に-」 講師：山本勉氏（横浜市文化財保護審議委員/鎌倉国宝館館長） 参加人数：143人
--	--	--	--



企画展「浮世の華」フロアレクチャー



特別展「中田喜直展」コンサート

(2) 企画展示室観覧者の推移

	有料観覧者（人）					無料観覧者 （人）	合計 （人）	前年比	開催 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	シニア	高大	小中	計					
5年度	4,813	3,218	375	465	8,871	17,818	26,689	62,3%	166日	161
4年度	14,142	3,227	732	1,918	20,159	22,669	42,828	154,2%	269日	159
3年度	8,808	4,638	630	1,146	15,222	13,084	28,306	97,2%	245日	116

※令和5年度はチラー改修工事のため10/2~2/2まで休館

5 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらう各種の歴史講座やワークショップ、またコンサートやアートイベントなどの事業を、市民や地域のさまざまな団体と連携しながら取り組みました。10月2日~2月2日の休館時にはアウトリーチによる多彩な催しを実施したほか、オンライン講座などを開催しました。また再開館後を見据えて展示関係のレクチャーや他施設見学、教養講座など、充実したボランティア研修プログラムに取り組みました。

(1) 歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
緑道ハレバレ会・講演会（共催） 4/16（土）	184人	都筑区の緑道マップを制作した緑道ハレバレ会に共催し、港北ニュータウン開発計画に携わった上野泰氏による講演会を開催した

		演題：「緑道を中心とした都市を語る」 講師：上野泰氏（ランドスケープデザイナー）
民俗学講演会（共催） 5/21（日）	55 人	相模民俗学会に共催し、厚木市に伝えられている相模人形芝居の事例を交えた民俗芸能をテーマとした講演会を開催した 演題：「民俗芸能を消滅させられた地域—奥三河と相模人形芝居の縁から—」 講師：西海賢二氏（東京家政学院大学名誉教授） 会場：講堂 参加料：無料
街頭紙芝居デビュー講座 6/10、17、7/1、15、29、8/20、26	7 人	街頭紙芝居の歴史や魅力を伝え、その文化を継承する担い手を育成する、座学と実演による講座を実施した。会場：研修室他 参加料：5,000 円
横浜歴博もりあげ隊 歴史講演会（共催） 7/30（日）	163 人	横浜歴博もりあげ隊に共催して、歴史講演会を開催した。 演題「木簡が語る古代日本の実像」 講師：佐藤信（当館館長・東京大学名誉教授） 会場：講堂 参加料：800 円
横浜古文書を読む会 特別講座（共催） 8/25（金）	118 人	横浜古文書を読む会に共催して、特別講座を開催した。 演題：「武士の絵日記—松平酒造助江戸在勤日記」 講師：根本佐智子氏（神奈川県立歴史博物館学芸員） 会場：講堂 参加料：会員無料、一般 200 円
横浜さいかちの会 歴史講演会（共催） 10/1（日）	98 人	横浜歴博もりあげ隊に共催して、歴史講演会を開催した。 演題「鏡の文化史—和鏡の精神性と信仰—」 講師：青木豊氏（鎌倉歴史文化交流館館長ほか） 会場：講堂 参加料：500 円
はじめての古文書オンライン 1/19(金)～3/8(金) 毎週金曜日 全 8 回	各回 36 人	横浜市域の資料を用いた、初心者向けの古文書入門講座をオンライン講座として開催した。卒業生 7 名が、OB 会「横浜古文書を読む会」に加入した 参加料：5,000 円
実験考古学講座 「縄文土器づくり」 2/3(土)～3/16(土) 全 4 回	9 人	実験考古学的な視点から港北ニュータウン出土の縄文土器をモデルとし、都筑区内で採取した粘土と砂を材料にして、土練り、成形、施文、野焼きの 4 工程を経て縄文土器を制作した。 2/3・17・18、3/16 実施 9 名 参加料：5,000 円 会場：工房・遺跡公園体験広場
あざみ野カレッジ 第 2 回講演 （横浜緑結び講中） 2/10（土）	22 人	横浜緑むすび講中及び当館と横浜市民ギャラリーあざみ野の相互のアウトリーチ事業として実施。第 1 回は 2 月 2 日まで休館していた当館の学芸員が 1 月に横浜市民ギャラリーあざみ野で（詳細は 5—(5)参照）、第 2 回を 2 月に休館した横浜市民ギャラリーあざみ野の学芸員が当館で講演した。 演題：「写真が可視化したもの～横浜市所蔵カメラ・写真コレ

		クシヨン探訪」 会場：研修室 参加料 1,000 円 講師：日比谷安希子（横浜市民ギャラリーあざみ野 学芸員）
バレンタインデー特別 企画 銅鏡チョコを作 ろう！ 2/11（日）	5 人	日吉矢上遺跡出土青銅鏡の雌型を食用シリコンで作成し、チ ョコレートを錫と見立てて、青銅鏡の踏み返し技法について 学ぶ講座を開催した 会場：工房 参加料：2,000 円
特別講演会 2/25（日）	107 人	年に一度、博物館の開館日（1/31）前後の時期に、各界の専門 家を迎えて行う特別講演会を実施した。今年度は、企画展「ヨ コハマの輸出工芸展」の関連企画を兼ねて開催した。 演題：「開港都市横浜が育んだやきもの眞葛焼」 講師：山本博士氏（宮川香山 眞葛ミュージアム館長） 会場：講堂 参加料 1,000 円
ホワイトデー特別企画 ドッキーを作ろう！ 3/9（土）	12 人	横浜市内出土の本物の縄文土器片を観察して作り方を学んだ 上で本物そっくりに作る土器片クッキー（ドッキー）を作る講 座を開催した 会場：工房 参加料：1,000 円
第46回神奈川県遺跡調 査・研究発表会 3/17（日）	106 人	神奈川県考古学会に共催し、神奈川県の遺跡調査・研究発表 会を開催した。 会場：講堂 参加料：無料
講師等派遣		各区や地域の郷土史団体の講座・講演会等に職員を派遣した。 5/14(日)「畠山重忠と鎌倉街道」南区郷土の歴史研究会 6/9(金)、7/14(金)「青葉のあゆみ歴史探訪講座 2023」青葉区 郷土史の会 6/11(日)「畠山重忠公遺烈碑建立 130 年記念プロジェクト」 万騎が原郷土史会 7/25(火)「2023 年横濱シニア大学」都筑区老人クラブ連合会 7/31(月)「横浜ミステリー 武蔵国鶴見寺尾郷絵図の世界」解 説 Y O U テレビ株式会社 8/5(土)「民話からみる妖怪について」鶴ヶ峰地域ケアプラザ 10/14(土)「2023 年度たまプラの歩き方 第3回歴史から見る 地域」横浜市たまプラザ地域ケアプラザ 10/24(火)「創造される歴史と人々が紡ぐ歴史」明星大学 11/8(水)「川崎の地形と石造物 七沢石はなぜここにあるの か」かわさき市民アカデミー 11/11(土)「ヤトにくらす」鶴見歴史の会 11/12(日)「蒔田城吉良氏の歴史と後北条氏および玉縄城」玉 縄歴史の会 11/28(火)「神奈川宿について」かながわガイド協議会

		12/2(土)「江戸時代の武士と生活文化」戸塚知見楽会 12/14(木)「博物館活動のデジタル化と情報発信」成城大学 2/21(水)「かがやきクラブ都筑第15回歴史講座 都筑区の古民家について」都筑区老人クラブ連合会 3/23(土)「小倉藩付医師がみたペリー横浜上陸(横浜日記)を読む」戸塚知見楽会
--	--	--

- ・このほか、神奈川県博物館協会、神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会、横浜郷土史団体連絡協議会に職員を派遣し、定例の会議への参加、研修会等の開催などに協力した。



実験考古学講座「縄文土器づくり」土練り



バレンタインデー特別企画「銅鏡チョコを作ろう」

(2) 体験学習の実施

会場/開催日	参加者数	参加料	事業内容
当日参加型れきし工房 まがたま(滑石) (11日15回)	160人	滑石 白 400円 滑石 ピンク 450円	ミュージアムショップでオリジナルキットを購入し、活動支援ボランティアのサポートを受けながら、まがたまづくりの体験ができる事業。 4/30(日) 11人 5/7(日) 6人 6/18(日) 16人 7/23(日) 20人 8/19(土) 28人 8/20(日) 19人 10/21(土) 9人 12/23(土) 15人 1/27(土) 4人 2/24(土) 6人 3/23(土) 26人 参加者合計 160人 会場：体験学習室、工房
当日参加型れきし工房 あじろ編み(滑石) (7日7回)	80人	あじろ編み 小物入れ 400円	ミュージアムショップでオリジナルキットを購入し、活動支援ボランティアのサポートを受けながら、あじろ編み小物入れの体験ができる事業。 8/19(土) 28人 8/20(日) 24人 11/25(土) 4人 12/23(土) 5人 1/27(土) 4人 2/24(土) 2人 3/23(土) 13人 参加者合計 80人

			会場：体験学習室、工房
事前申込れきし工房 (年度通算 2 日 3 回)	25 人	3,500 円	小学生から大人を対象に、楽しみながら歴史に触れるワークショップを遺跡公園内の工房にて開催した。今年度は万祝染を実施した。 万祝染 8/5 (土) 11 人 8/6 (日) 14 人
体験広場 野焼き		無料	横浜縄文土器づくりの会と協働で、会が制作した土器等の野焼きを行い、市民に公開した。 5/6(土)、11/18 (土)、3/16 (土)

(3) 集客イベント等

項 目	開催日	参加者数	事 業 内 容
ラストサタデー プログラム おもしろいぞ！紙芝居	毎月最終土曜日 (1 月 27 日は除く) および 8 月 27 日、2 月 3・4 日 (14 日 66 回)	1,845 人	当館が管理している横浜市指定有形民俗文化財の街頭紙芝居を活用し、毎月最終土曜日に複製紙芝居の実演を行った。休館中はエントランス前や近隣ショッピングモールで実施した (1 日当たり 5～6 回、2 月 4 日のみ 1 回) 会場：歴史劇場・エントランスホール・ノースポートモールなど
ラストサタデー プログラム バックヤードツアー	5/27、7/29 (土) (2 日 2 回)	15 人	学芸員の案内で博物館のバックヤードを見学するとともに、実物資料を間近で見たり触れたりするツアーを開催した。 5/27 (土) 6 人 7/29 (土) 9 人
チボリ兄弟舎紙芝居	8/12(土)・13 (日) (2 日 6 回)	149 人	夏休み期間に、チボリ兄弟舎によるオリジナル紙芝居を上演した。

(4) 地域や多様な組織との連携（共催事業、協力事業、後援事業、受託事業等）

項 目	開催日	事 業 内 容
みなきたマルシェ	毎月最終土曜日	みなきたマルシェ実行委員会に協力し、毎月最終土曜日（ラストサタデー）に、シンボルロードと博物館コロネードで「みなきたマルシェ」を開催した。
金沢区委託 「むかし体験」歴史授業		大道小での資料館授業 7 校 423 人 訪問授業 6 校 376 人 合計 799 人 ※詳細は 5 (9) 参照
港北区委託 小机城址教育普及業務		小机城址映像制作及び港北区内小学校の訪問授業 ※詳細は 5 (9) 参照
横浜歴博もりあげ隊バ ロックコンサート	7/2 (日)	横浜歴博もりあげ隊に共催して、「横浜歴博もりあげ隊 10 周年記念 バロックコンサート in 歴博 2023」を開催した。

		演奏：湘南バロック・アンサンブル 参加料：300 円 参加者：166 人
つづきジュニアストリングス	7/26-28(水-金), 8/2(水) 発表会:8/3(木)	NP0 法人都筑文化芸術協会に協力し、都筑区内の児童生徒を対象にした弦楽オーケストラ講座を開催した。 参加料 3,000 円 参加者 38 人 ※子どもゆめ基金助成事業
子どもアドベンチャーカレッジ	8/16(水)・17(木)	横浜市教育委員会が主催する「子どもアドベンチャーカレッジ 2023」に参加し、小学生向けにバックヤードの見学や博物館資料を見学するワークショップを実施した。 参加料：無料 参加者：35 人
ロジウラート 2023	7/29 (土)・8/29 (火)・9/12(火)・11/12 (日)	みんなの夢カフェ及び都筑民家園を会場にしたアートプログラム「ロジウラート2023」(ロジウラート実行委員会・都筑民家園主催)に協力した。※ヨコハマアートサイト2023助成事業
つづき寄席 in 歴博	9/18 (月祝)	きたやまた落語倶楽部に共催し、都筑区が後援、北山田地区センター・北山田町内会が協力する「つづき寄席 in 歴博」を当館講堂で実施した。参加者116名。
手作り紙芝居コンクール	11/3 (金祝) ～1/20	紙芝居文化推進協議会が開催する「手作り紙芝居コンクール」に協力し、特別賞として歴史博物館賞を設けたほか、広報の連携を行った。※ヨコハマアートサイト2023助成事業
横浜スカーフ資料の展示会開催	12/2 (土) ～1/21 (日)	関東学院大学及びシルク博物館と協定を締結し、横浜輸出スカーフ展「横浜スカーフ物語。その歴史を継いだ立役者たち」を実施した。 企画・監修：K G U横浜スカーフ研究プロジェクト 会場：シルク博物館 共催：横浜市歴史博物館・関東学院大学
手作り紙芝居ライブ	2/4 (日)	紙芝居文化推進協議会に共催し、手作り紙芝居コンクールの受賞作を中心とした「手作り紙芝居ライブ」を当館エントランスホールで開催した。参加者 65 名。
鶴見川流域夢交流会・鶴見川流域水循環系健全化貢献者表彰式の開催	2/17 (土)	鶴見川流域水協議会及び鶴見川流域ネットワーキングに共催・連携し、鶴見川流域の学習成果を発表する「鶴見川流域夢交流会」と、鶴見川流域水循環系健全化貢献者表彰式を開催した。
都筑図書館及び都筑区役所共催展示及び講座	2/27 (火) ～3/9 (土)	都筑図書館・都筑区役所地域振興課と連携し、「寺院と文化財」と題した展示及び都筑区郷土講演会を都筑図書館で開催した。3/9 (土) の講演会には 90 名が参加した。
つづきアート&ミュー	3/16(土)～20(水)	つづき地域活動ホームくさぶえ・つづきアート&ミュ

ジック・ネクスト第7章 Let's 額縁	祝)	ージック・ネクスト実行委員会に共催し、「子どもも大人も障害のある人もアートとミュージックでつながっていこう！」をコンセプトとした「つづきアート&ミュージック・ネクスト」を当館エントランスホール及び講堂で開催した。延べ来場者432名
----------------------	----	---



つづき寄席 in 歴博



つづきアート&ミュージック・ネクスト

(5) 歴史未来フェス

コロナ禍前まで博物館開館記念日の1月31日前後に開催してきた感謝デーを改め、センター北の開港記念日前後の中心となるイベントを育成すべく、地域で活動する諸団体による「街の文化祭」と位置づけて、6月2日(金)～4日(日)に入館無料で開催した。3日間で5千人以上の来館者があり、新たに定着させるべき催しとなった。

来館者合計 5,254 人

6/2(金) 808 人(荒天)、6/3(土) 1,603 人(午前雨)、6/4(日) 2,843 人

開催場所	プログラム
歴史劇場	・劇団かかし座による影絵上演 (6/2・3) ・街頭紙芝居の実演 (6/4)
エントランスホール外 (コロネード)	・みなきたマルシェ ・かたるべ会 (物販) ・つづきブックカフェ
常設展示室	・スポーツ土器パズル ・展示室 de 間違い探し
研修室	・影絵ワークショップ (6/3) ・メイドインつづきワークショップ (6/3・4) ・わくわくワークショップ (6/3・4)
エントランスホール	・横浜ビーコルセアーズミニシュートゲーム ・横浜市営交通グッズマルシェ ・ストリートピアノ ・ライブペイント (6/2・3) ・DJ タイム (6/2・3) ・ピアノライブ演奏 (6/2) ・勝田小学校パネル展示 (6/2)

	・参加型アート（6/4） ・参加型書とピアノ（6/4）
企画展示室	・君も今日から考古学者 2023 ・横浜の遺跡展
2F ろう下パネル展	・BOSCH ・都筑民家園 ・早淵川ファンクラブ ・緑道ハレバレ会
業務用駐車場	・キッチンカーわくわくゾーン
講堂	・音楽イベント（6/2） ・B-ROSE&ユース パフォーマンス（6/3） ・「緑道を中心とした都市を語る」上映会（6/3） ・地域団体活動紹介フリーパフォーマンスステージ（6/4）
体験学習室	・あじろ編みワークショップ

（6）アウトリーチ

本年度は、これまで行ってきたアウトリーチ事業に加え、チラー交換工事による休館期間（10/2～2/2）に横浜市役所 1 階を利用した展示やトークイベントをはじめとする事業を実施した。

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
関家住宅の公開（共催） 11/18（土）	156 人	横浜市教育委員会に共催し、重要文化財「関家住宅」の内部公開を行った。当館と開港資料館の財団専門職員が解説を行い、参加者整理には当館の展示解説ボランティアの協力を得た。
中山恒三郎家の公開 11/26（日）	517 人	（有）松林園に共催し、横浜市認定歴史的建造物「中山恒三郎家」の公開を行った。開港資料館・都市発展記念館の財団施設のほか「都筑をガイドする会」・「川和小学校ふれあい郷土館」・「川和町内会」等と連携して、書院、諸味蔵、店蔵、麴室、八号機を公開し、書院については内部見学、諸味蔵では民俗資料と整理作業の見学を実施した。
お城EXP02023への参加 12/16（土）～17（日）		お城エキスポ実行委員会が主催する「お城 EXP02023」に港北区役所及び埋蔵文化財センターと協力して出展し、令和3・4年の小机城発掘調査成果を含めた横浜市中世城郭の普及・啓発、及び御城印の販売などを行った。
令和 5 年度横浜市指定・登録文化財パネル展（再掲） 1/10（水）～1/17（水）		横浜市役所 1 階展示スペース A を会場に 1/10～1/17 まで開催した。2/3 から当館で行う文化財展のプレ展示とし、大型パネルを用いて、本年度指定の文化財や近年修理が行われた文化財を紹介した。最終日には台座部材の展示や仏像の構造を学べるWSを行い、後述するトークイベントを開催した。
山本勉×みほとけ トークイベント（再掲） 1/17（水）	133 人	令和 5 年度横浜市指定・登録文化財展の関連事業および休館中のアウトリーチ事業として実施した。「令和 5 年度 横浜市指定・登録文化財パネル展示」（1/10～17）「見て・触って学ぼう！仏像の構造」（1/17）を同時開催した。 演題「横浜のみほとけを語る」

		講師：山本勉氏（横浜市文化財保護審議会副会長） みほとけ氏（浅井企画） 会場：横浜市役所 1 階アトリウム （パネル展示は横浜市役所 1 階 展示スペース A） 参加料：無料
あざみ野カレッジ 第 1 回講演 （横浜縁結び講中） 1/20（土）	9 人	横浜縁むすび講中及び当館と横浜市民ギャラリーあざみ野の相互のアウトリーチ事業として実施。今回は 2 月 2 日まで休館していた当館学芸員が 1 月に横浜市民ギャラリーあざみ野で、第 2 回（5-1）参照）は 2 月に休館した横浜市民ギャラリーあざみ野の学芸員が当館で講演した。 演題：「かやぶき屋根プロジェクトって何？—弥生時代の家を自分たちで少し直してみようと思ったら、いろいろな人たちを知り合えた話」 講師：橋口豊（当館学芸員） 会場：横浜市民ギャラリーあざみ野 参加料 1,000 円



お城 Expo2023



令和 5 年度横浜市指定登録文化財パネル展（市庁舎 1F）

（7）かやぶき屋根プロジェクト

大塚・歳勝土遺跡公園内にある竪穴住居について、定期的・長期的なメンテナンスを行うため、「材料である茅の確保から自分たちでできる修繕まで」を目標として平成 29 年度から事業を継続している。

令和 5 年度は、「よこはま縁むすび講中」の活動のひとつとして以下の事業を実施した。

項 目	実施日	参加者数	事 業 内 容
第 1 回	10 月 19 日	3 名	大塚遺跡にて 8 棟の茅たたき
第 2 回	11 月 26 日	1 名	茅束製作
第 3 回	12 月 16 日		茅刈りを予定していたが天候不順により中止

(8) ボランティアの活動支援

項 目	事 業 内 容
展示解説ボランティア	市民ボランティアによる小中学校団体及び一般来館者への、常設展示室、大塚・歳勝土遺跡公園、旧長沢家住宅の無料解説ガイドは、コロナ5類移行後4年ぶりに制限のない活動を行った。なお令和5年10/2～令和6年2/2の工事休館中の常設展示室解説ガイドは休止とした。 ① ガイド登録者数：81人 ② 基本ガイド時間 遺跡公園 小学校6年団体 約45分間 常設展 見学者の要望に応じて実施 ※活動実績は後述
関家住宅の公開	11/18（土）に行った横浜市教育委員会との共催による重要文化財「関家住宅」公開事業では、参加者誘導員として展示解説ボランティア6名が活動した。
活動支援ボランティア	昨年度に引き続き、感染対策をしつつ安全に実施する当日参加型れきし工房の補助のほか、センター北まつりにもご協力いただいた。 ①登録者数：29人 ②活動実績 ・れきし工房 まがたま（滑石）・あじろ編み小物入れ 4/30：4人、5/7：4人、6/18：4人、7/23：2人、8/19・20：9人、10/21：4人、11/25：1人、12/23：5人、1/27：5人、2/24：2人、3/23：2人 ・歴史未来フェス 6/2～4：25人 ・ドイツ学園勾玉づくり 6/29：4人 ・企画展ピアノ試奏立ち会い 41人 ・センター北祭り 3/23・24：5人 合計112人
ボランティア総会の実施	展示解説ボランティアおよび活動支援ボランティアの合同のボランティア総会を、上半期分として9月24日に実施し、下半期分として3月24日に実施した。
ボランティア研修の実施	今年度は工事休館中の常設展示ガイド活動ができないことから、当初より研修計画を充実させ、ボランティア諸氏のモチベーションを高める工夫をした。研修内容は、ガイド実施に関わるものから他施設見学研修、多様なテーマの教養講座など全11回で構成し、下記のとおり実施をした。 5/18 講演会「出雲と大和王権・律令国家」講師：佐藤信館長（横浜さいかちの会協働講演会）参加者47名 5/21 民俗学講演会「民俗芸能を消滅させられた地域－奥三河と相模人形芝居

	の縁から -」 講師：西海賢二氏（東京家政学院大学名誉教授） ※相模民俗学会共催事業 参加者 17 名 9/24 教養講座「大塚遺跡をめぐる最近の研究」講師：高橋健氏（横浜ユーラシア文化館主任学芸員）参加者 69 名 10/13、25 民家園ガイド研修（小学校 3 年生向）講師：横浜市ふるさと歴史財団エドゥケーター浅見先生、大竹先生 参加者 45 名 11/8 バスで行く「静岡市歴史博物館」（見学先は歴史博物館と駿府城公園内発掘現場）講師：廣田浩治氏（静岡市歴史博物館学芸課課長）、松井 一明氏・増山 慎氏（静岡市歴史文化課）参加者 42 名 11/30 茅ヶ崎市北部の史跡と茅ヶ崎市博物館をめぐる 講師：橋口豊（横浜市歴史博物館学芸員）参加者 23 名 12/17 および 19 常設展示室近現代ブース「生糸仕切書」について 講師：刈田均（横浜市歴史博物館副館長）参加者 32 名 1/21 教養講座「ガラスを追ってウズベキスタンへ」 講師：竹田多麻子氏（横浜ユーラシア文化館学芸員）参加者 16 名 2/9、16 横浜の輸出工芸展 展示解説 講師：小林光一郎（横浜市歴史博物館学芸員）参加者 60 名 3/24 ミニ研修「常設展示室基本設計思想」講師：刈田均（横浜市歴史博物館副館長） 参加者 64 名 +「横浜市歴史博物館建設の記録」動画視聴（クイズ&ムービーより）
--	---



小学校 3 年生向け展示解説研修（都筑民家園）



活動支援ボランティアによるれきし工房

展示解説ボランティア活動実績

項 目		令和 5 年度		令和 4 年度		令和 3 年度	
		常設	遺跡	常設	遺跡	常設	遺跡
活動実績	ガイド実施日数（日）	183	146	305	305	305	305
	解説回数（回）	304	367	461	368	461	368
	1 日平均解説回数（回）	1.1	1.9	1.5	1.2	1.5	1.2
	参加者数（人）	2,167	6,434	8,916	2,570	8,916	2,570

	団 体 対 応 (件)	40	213	211	24	211	24
	団 体 の う ち 学 校 数 (校)	111	101	199	0	52	0

(9) 学校連携事業の実施

今年度は、学校団体見学の受入れについては、5月8日からの新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、学校数・展示室内人数・昼食場所利用人数の制限を解除し、学校からの見学希望にできるだけ添えるよう対応した。小学校4年の「吉田新田」や小学校3年の「昔の暮らし」の訪問授業、金沢区から委託を受けた訪問授業は引き続き実施した。小学校6年では、博物館見学事前訪問授業に加え、横浜市教育委員会生涯学習文化財課と連携した「埋蔵文化財訪問授業」を実施した。さらに、小学校3年の「昔の暮らし」の授業の資料となる動画コンテンツの作成、配信を行った。

なお今年度は、工事休館のため中学校社会科研究会の展示及び発表会は見送った。

事業名／開催日	事業内容等
6年生向け訪問授業 「博物館見学事前訪問授業」 延べ24校 1,837人 ※森の台小は2日にわたって実施	高田東小66人、富士塚小40人、下野庭小91人、富岡小95人、帷子小51人、岸谷小64人、勝田小124人、都筑小97人、平塚市立山下小78人、阿久和小10人、川崎市立今井小111人、新田小96人、港南台第三小36人、黒須田小95人、東品濃小98人、森の台小119人、鎌倉市立御成小88人、万騎が原小57人、飯島小90人、川井小64人、一本松小46人、大綱小124人、洋光台第一小97人
6年生向け訪問授業 「埋蔵文財訪問授業」 延べ8校 820人	稲荷台小56人、港北小126人、元石川小51人、平沼小97人、さちが丘小110人、白幡小132人、川和東小162人、牛久保小86人
「吉田新田の開発」 4年生向け訪問授業 延べ58校 5,242人 ※上瀬谷小は3回実施 ※潮田小は2日にわたって実施	本牧南小45人、奈良の丘小60人、豊岡小133人、白幡小130人、牛久保小63人、綱島小110人、西富岡小96人、浦島小74人、茅ヶ崎小154人、東本郷小126人、北山田小95人、大和市立引地台小50人、茅ヶ崎東小120人、小菅ヶ谷小81人、丸山台小54人、梅林小77人、上菅田笹の丘小143人、菊名小147人、新石川小129人、山田小80人、倉田小76人、茅ヶ崎台小116人、不動丸小94人、本郷台小66人、潮田小63人、南台小109人、本宿小104人、桂小87人、潮田小60人、汐入小32人、さつきが丘小73人、市ヶ尾小119人、峯小101人、洋光台第一小96人、都田西小160人、子安小175人、矢部小122人、飯島小84人、牛久保小33人、幸ヶ谷小112人、桜井小50人、中尾小43人、一本松小56人、黒須田小95人、篠原西小100人、上瀬谷小①45人、川和小84人、荏田南小96人、あざみ野第二小106人、あざみ野第一小114人、四季の森小36人、上瀬谷小②45人(2回目)、山下みどり台小47人、

	上瀬谷小③ 45 人、港南台第一小 106 人、霧が丘学園 64 人、 小机小 84 人、上大岡小 68 人、平沼小 109 人
「吉田新田の開発」 4 年生向け 現地解説 1 校 98 人	荏田南小 98 人
「昔の暮らしと市の広がり」 3 年生向け訪問授業 延べ 19 校 1,667 人 ※奈良の丘小は 2 回実施（2 回目は 2 日にわたって実施）	鴨志田第一小 44 人、不動丸小 129 人、小机小 84 人、 上山小 50 人、中川西小 92 人、もえぎ野小 75 人、 奈良の丘小①61 人、末吉小 104 人、青葉台小 111 人、 坂本小 125 人、篠原小 126 人、つづきの丘小 75 人、浜小 110 人、 平安小 99 人、深谷小 34 人、大豆戸小 106 人、平沼小 112 人、 下野谷小 69 人、奈良の丘小②30 人、奈良の丘小③31 人
開港記念日講話 5 校 2,003 人	上末吉小 537 人、新吉田第二小 467 人、中尾小 300 人、 港南台第三小 279 人、元石川小 420 人
「廻り地蔵について」 年中行事 4 年生向け訪問授業 1 校 144 人	都田西小 144 人、
学校資料室への訪問授業等 3 校 225 人 ※市ヶ尾小、森の台小は、2 日にわたって実施	市ヶ尾小 135 人（鉄小郷土資料室にて実施） 森の台小 123 人（川和小郷土資料室にて実施） 若葉台小 72 人（若葉台資料室にて実施）
金沢区委託 「むかし体験」歴史授業（再掲） 資料館授業 7 校 423 人 訪問授業 6 校 376 人 合計 799 人	大道小での資料館授業 釜利谷南小 43 人、高舟台小 55 人、文庫小 57 人、小田小 92 人、 大道小 59 人、六浦小 78 人、朝比奈小 39 人 訪問授業 西金沢学園 81 人、金沢小 69 人、釜利谷東小 54 人、並木第四小 38 人、 八景小 72 人、並木第一小 62 人、
港北区委託 小机城址の教育普及業務（再掲）	城郷小学校 3 年生及び 6 年生への訪問授業 3 年生 6/1 小机城紹介・アニメ「小机の重政」上映・クイズ 6/6 小机城址市民の森での現地解説・紙芝居実演 6 年生 10/26 小机城紹介・「小机城どうかん歴史がたり」上映 11/21 小机城址市民の森での現地解説・紙芝居実演
「地域にある遺跡」 5 年生向け訪問授業 2 校 64 人	東市ヶ尾小 29 人、牛久保小 32 人
「地域の歴史」 4 年生向け訪問授業 1 校 32 人	下和泉小 32 人
中学校「職業講話」 1 校 40 人	中学校 1 年生を対象に学芸員の仕事について講演した。 中川西中 40 人
総合学習 出張土器づくり	荏子田小学校 6 年生 11/10・12/1
総合的な学習 出前授業	茅ヶ崎東小学校 5 年生 1 クラス 「茅ヶ崎城」

インターナショナルスクールへの協力	東京横浜独逸学園 まがたま（滑石）作りの実施 6/28(水) 17人
動画コンテンツの作成・配信	3年生「昔の暮らしと市の広がり」に関連した動画の作成 「昔の道具とくらしのうつりかわり」 ・洗濯編 「道具の紹介」 ・たらい・洗濯板・ローラー式洗濯機・手回し式洗濯機 ・二層式洗濯機・ちょうちん・石油ランプ・あんどん 12月に横浜市の小学3年生全員に紹介リーフレット配付 ※神奈川県小学校社会科研究会会長校・部長校にも10部ずつ配布 12月中旬より動画配信開始、横浜市歴史博物館ホームページに動画のリンクを掲載した。3月末までの動画視聴回数 130,000回以上
横浜市教育委員会博物館活用研修への協力	7月28日に市立学校教職員を対象にした博物館活用研修を実施し、収蔵資料を活用した研修を行った。
教職員対象の研修	8月1日に「吉田新田の開発」研修会を実施した。午前・午後の部で計67名の参加があった。 横浜市教育委員会ハマアップからの要請により研修会を行った。 西部ハマアップ「吉田新田の開発」16人 南部ハマアップ「昔の道具とくらし」9人 学校に訪問し、4年「吉田新田の開発」の研修を行った。 六浦南小2人、一本松小1人、上菅田笹の丘小5人、 東本郷小3人、梅林小1人、荏田南小3人、星川小2人 8月17日に、北部4区の区小学校社会科研究会合同研修会で博物館研修を実施し、95名の参加があった。 延べ 「吉田新田」研修会67人、7小学校17人、 北部4区小学校社会科研究会合同研修会95人、 ハマアップ研修会25人
神奈川県高等学校文化連盟	神奈川県高等学校文化連盟との共催で、神奈川県社会科研究発表大会を実施し、審査員を派遣した。 大会：11/12（日） 会場：聖光学院
東海大学と博物館の協働による文化財資料の教育活用事業	博物館が整理を進めている芹沢銈介関係資料群のうち型絵染作品を対象とし資料整理の実習を実施した。当該資料群の整理を通して、学生が通常の博物館実習では得られない現場での実務経験を積み、文化財資料の活用事業に関与することで、地域博物館の文化創造や地域社会における文化財資料の活用に係る新たな「学びの場」の創出をめざす活動を実施した。同様に東海大学教諭資格センターは横浜市歴史博物館に係る文化財資料（伊藤宏見旧蔵資料群）の整理を通して、学生が通常の博物館実習では得られない現場での実務経験を積み、また一

	市民として文化財資料の保存活用事業に関与することで、大学と地域博物館の協働による新たな「学びの場」創出をめざすことを目的とした。実施日は6/8(木)、9/15(金)、10/17(火)〔資料整理実習〕
東海大学地域史演習の受入	東海大学からの依頼を受け、地域史演習を当館で実施した。 8/4(金) 13名
大学からの博物館見学の受入	学芸員課程等の大学専門科目の一環として博物館見学を受け入れた。 4/22 鶴見大学、5/10 日本大学、6/11 神奈川大学・専修大学、6/14 駒澤大学、6/24 相模女子大学、6/25 お茶の水女子大学、7/8 國學院大学
学校団体の博物館見学申込システムの活用	学校数・展示室内人数・昼食場所利用人数の制限を解除し、学校からの見学希望にできるだけ添えるよう対応できるよう博物館見学申込システムを改修・活用した。



教職員博物館活用研修



荏子田小学校出張土器づくり

学校団体利用の推移

項 目	令和5年度	令和4年度	令和3年度
学 校 数 (校)	142	159	111

うち小・中学校利用数

項 目	令和5年度	令和4年度	令和3年度
学校数(校)	131	125	86
児童・生徒数(人)	10,132	10,175	6,480

(10) 関連団体との協働事業

市民と共に歩む博物館を目指して、当館主催の講座受講者OBで組織した「横浜古文書を読む会」、「横浜縄文土器作りの会」、「横浜古代史料を読む会」、ガイドボランティアのOB会である「横浜さいかちの会」の4団体、及び博物館への支援と協働を目的に結成された「横浜歴博もりあげ隊」との協働事業を実施した。

項 目	事 業 内 容
「横浜古文書を読む会」との協働	・原則として毎月2回の講座の開催 ・有志による「下読み会」の実施。 コロナ禍に対応し、オンライン会議システムを利用し、リモートで実施。廻り地蔵関係文書、緑区河原家文書の解説を行った。 ・特別講座の実施 8/25（金） 演題：「武士の絵日記—松平酒造助江戸在勤日記」 講師：根本佐智子氏（神奈川県立歴史博物館学芸員） 会場：講堂 参加料：無料 参加者：118人
「横浜古代史料を読む会」との協働	・『続日本紀』講読講座の開催 講師：平野卓治氏（日本大学教授） 7/11、7/25、8/22、9/12、11/21、1/16、2/6、3/19
「横浜縄文土器づくりの会」との協働	・荏子田小学校 6年生土器づくり指導 11/10・12/1 ・2/3・17・18、3/16 実験講座土器づくり教室 ・3/9 ドッキーを作ろう！ ・土器づくりの会土器制作は年間3回 4/8・9、9/2・3、1/13・14 ・5/6、11/18、3/19 土器づくりの会制作土器の野焼き
「横浜さいかちの会」との協働	・さいかち古代史料講読講座（『日本書紀』購読） 4/18、6/20、8/15、9/26、10/17、2/20、3/12 ・講演会「出雲とヤマト王権」 5/18（木）講師：佐藤信（当館館長）参加者 61人 ※展示解説ボランティア研修を兼ねる ・歴史講演会「鏡の文化史—和鏡の精神性と信仰—」 10/1（日）講師：青木豊氏（鎌倉歴史文化交流館館長ほか） 参加料：500円 参加者：98人 ・「金沢八景と武州金沢藩米倉家ゆかりの地を歩く」 11/14（火）講師：小林紀子（当館学芸員） 参加者：11人
「横浜歴博もりあげ隊」との協働	・コンサート「バロック・コンサート in 歴博 2022」 7/2（日） 演奏：湘南バロック・アンサンブル 会場：当館講堂 参加料：300円 参加者：166人 ・歴史講演会の実施 7/30（日） 演題「木簡が語る古代日本の実像」 講師：佐藤信（当館館長） 会場：当館講堂 参加料：800円 参加者 163人 ・つづき人交流フェスタへの参加 2/24（土）～2/25（日） 都筑区役所 博物館の紹介展示、チラシ配布、缶バッジワークショップなど 二次元コードを利用した博物館アンケートの実施

(11) 実習・研修の受け入れ

博物館館務実習は、5F 収蔵庫棚増設工事やチラー交換工事による休館のため実施を見送った。

項 目	事 業 内 容
フェリス女学院大学インターンシップの受け入れ	フェリス女学院大学キャリア実習として学生を 1 名受け入れる予定であったが、都合により中止となった。
高校インターンシップの受入	・博物館に興味を持つ県立高校生徒のインターンシップを受け入れた。8/1～4 5 名 ・日々輝学園 2 年生のインターンシップを受け入れた。8/30・31 3 名
中学校職場体験の受入	中川西中学校 9/22 3 名

(12) 広報広聴

項 目	事 業 内 容
広報	展覧会や各種催し物についての広報を行った。 ・各種チケットサービスを利用した前売券販売による PR ・当館ウェブサイト、SNS による広報、情報発信 ・館外情報サイトへの情報提供 ・広報誌「博物館 NEWS」の発行 ・全国博物館施設、市内公共施設、学校、関係機関に向けた広報 ・マスコミ各社への情報提供 ・リリース配信サービス会社との年間契約による継続的発信 ・博物館近隣の広報案内看板への掲示 ・センター北駅 1 番出口広告掲示板（8 ヶ所）への掲示 ・広報よこはま等の市広報誌への情報掲載 ・新聞・ラジオ・雑誌等マスコミや SNS への有料広告 ・ラジオ番組への番組コーナー提供 ・センター北まつりでの PR
市民ニーズの把握	企画展アンケートをウェブフォームで実施
催事申込システムの運用	ワークショップ「れきし工房」や各種講座・講演会、また財団他施設での講演会等の受講生募集にあたって、インターネットを利用した催事申込システムを運用した。
リーフレット類作成	歴史博物館催し物案内（年 2 回） 横浜市新規転入者向け案内チラシ

(13) 出版

博物館ニュースは 55 号・56 号を刊行した。資料目録、紀要、調査研究報告については pdf により

web 公開を行った。

項 目	事 業 内 容
出版物発行	横浜市歴史博物館ニュースNo.55 号・56 号 横浜市歴史博物館資料目録 第 32 集 PDF データ公開 横浜市歴史博物館紀要 第 28 号 PDF データ公開 横浜市歴史博物館調査研究報告 第 20 号 PDF データ公開

(14) よこはま縁むすび講中（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

よこはま縁むすび講中は、かつて港北区だった横浜北部 4 区（港北・緑・青葉・都筑）の地域文化遺産をつなぐ取り組みとして、当館が中核館となり、（公財）大倉精神文化研究所、小机城のあるまちを愛する会、みどりアートパーク、横浜市民ギャラリーあざみ野の各団体が連携して今年度も実施しました。

項 目	事 業 内 容
かやぶき屋根プロジェクト	横浜市歴史博物館が企画し、10/22、11/26 に大塚遺跡の復元竪穴住居の修繕を実施した。 詳細は 5－(5)
あざみ野カレッジ	1/20・2/10 実施。横浜市歴史博物館と市民ギャラリーあざみ野による共同企画。本年度工事による休館を行った 2 施設が、相互に学芸員を派遣して、それぞれの館で講座を行った。詳細は 5－(1)
ポスター展の実施 2/20～2/24	横浜市歴史博物館エントランスにて、よこはま縁むすび講中三年間の活動報告のためのポスター展及びポスターセッション（2/24）を実施した。

6 開館 30 周年事業

当館は令和 7 年（2025）1 月 31 日に開館 30 周年を迎えることから、同年を開館 30 周年イヤーと位置づけて、記念事業を実施します。

今年度は、30 周年事業の機運醸成のためのロゴマークを制作したほか、常設展示室多言語アプリの拡充を行いました。また、来年度以降に実施する事業の内容を具体化するとともに、準備を進めました。

項 目	内 容
記念事業ロゴマークの制作	30 周年記念事業のキーワード「つなぐ、つながる、つなげる」を、博物館の外観とともに一筆書きで表現したロゴマークを制作した。
常設展示多言語解説アプリのドイツ語版制作	都筑区には多くのドイツ企業と東京横浜独逸学園があり、市内で最もドイツの方が多く住んでいることから、ボッシュ日本法人本社が博物館隣接地への移転することを機に、令和 6 年 4 月から供用を開始すべく、常設展示室多言語解説アプリのドイツ語版を制作した。

常設展示室内の展示解説映像のアプリ化	常設展示室で、スタンドアロンで提供していた展示解説映像を解説アプリに格納し、来館者各自のスマホやタブレットから視聴できるようにした。
30周年記念展示事業	令和6年11～12月実施予定の都筑青葉区制30周年記念展、令和7年3月実施予定のポスター展、令和7年4～6月実施予定の横浜の文化財をテーマとした記念展示 part1、9～11月実施予定の横浜の交流をテーマにした記念展示 part2 について展示計画を検討、具体化を進めた。
普及事業	30周年記念講演会については実施案を検討して日程を令和7年2月1日（土）とし、講師への打診を行った。また収蔵資料のデジタル化を進め、公開について検討した。ワークショップについての検討を行った。



30 周年記念ロゴ



ドイツ語版アプリ画面

7 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。また事業に用いる PC 及びプロッターを更新しました。

項 目	事 業 内 容
収蔵資料等データ入力	図書文献資料等のデータ入力及びインターネット公開を行った。 データ入力件数 2,084 件 ※埋蔵文化財センター所蔵図書データ取り込み 41,417 件（インターネット未公開）
映像資料の公開	常設展示室内で利用者のモバイル端末を用いたクイズや、横浜の歴史や文化財に関するビデオを公開する「横浜市歴史博物館クイズ&ムービー」をについて、利用の促進を図った。常設展示室内の展示解説映像を、公式解説アプリで利用者各自の端末から視聴できるようにした。 公式 YouTube チャンネルにおいて小学校3年生向けのむかしの道具をテーマとした動画を新たに10タイトル制作し、計29タイトルを公開した。再生回数135,236回

文化財情報システムの運用・保守	インターネット等による文化財情報の管理・発信や、サーバーならびにグループウェアに関わる機器類の保守管理を行った。
ホームページを利用した博物館情報の発信と市民ニーズの把握	博物館のホームページにより、博物館の展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料・市内文化財等の紹介を行った。 アクセス（セッション）数 156,792 件
X（旧ツイッター）等SNSを利用した博物館の情報発信	X（旧ツイッター）を利用した博物館展示情報や解説、催し物など多岐にわたる活動情報を発信し、フォロワーが1万人を超えた。またNOTEによる情報発信を試行した。 ツイート数 155 ツイートインプレッション 802,451、フォロワー数 10,121（3月末現在）
デジタルアーカイブの公開	小宮山博史氏コレクションの「日本語活字見本帳」をデジタル化した「文字のかたちのデータベース 仮名字形一覧」はweb上で、横浜スカーフアーカイブは図書閲覧室での公開を継続した。

8 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

歴史博物館及び野外施設の維持管理・運営を行いました。今年度は10月2日から2月2日まで休館し、横浜市の長寿命化工事の一環として空冷チラー交換工事が行われ、工事期間の館内環境の維持及び、工事業者との工程確認・調整、近隣への配慮に努め、予定通り完了いたしました。

（1）来館者対応業務

市民サービスと効率性の向上を図るため、令和2年度に導入したキャッシュレス決済の運用を引き続き行った。

事業名／開催日	事業内容等
受付案内サービス	利用者の利便性向上を図るため、観覧料金及びミュージアムショップの決済手段として、引き続き現金並びにクレジットカードや交通系ICカードに対応した。

（2）歴史博物館等の維持管理

管理対象施設等	事業内容
歴史博物館	施設の保守管理、補修・修繕 <主な修繕> ・研修室 スクリーン修理・壁塗装改修工事 ・館内全体の設備時計修繕 ・大塚・歳勝土遺跡公園 防御柵交換・案内板修繕 他

（3）講堂・研修室利用の推移

項目	令和5年度	令和4年度	令和3年度
----	-------	-------	-------

講 堂	利 用 者 数 (人)	4,844	4,937	2,527
	利 用 件 数 (件)	61	59	33
	うち有料貸出件数 (件)	20	28	29
研修室	利 用 者 数 (人)	3,092	1,509	368
	利 用 件 数 (件)	123	86	39
	うち有料貸出件数 (件)	76	53	25

(4) 歴史博物館野外施設入場者の推移

項 目		令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
歴 史 博 物 館 野 外 施 設 (人)		37,973	40,966	40,242
内 訳	大 塚 遺 跡 (人)	32,054	39,142	39,057
	工 房 (人)	5,919	1,100	1,536

9 収益事業（定款第4条第1項第2号）

ミュージアムショップ、駐車場、館内の自動販売機設置による収益事業を行いました。

ミュージアムショップでは企画展ごとに図録や書籍はもちろんのこと、ライト層にも楽しめるよう文房具などのグッズを充実させました。オリジナルクリアファイルや、お城E X P Oに合わせて新しい御城印を制作、その他委託商品も多種取り揃えました。また、オンラインショップでは、こまめにトップページを更新し、いつみても新鮮で楽しんでもいただけるオンラインショップ作りを目指しました。

駐車場は遺跡公園利用者の利便性向上を図るため、博物館休館日も営業するように改めました。

(1) ミュージアムショップ

- ・特別展「生誕百年 中田喜直展」ではオリジナルクリアファイル制作のほか、音楽関係の展示ということもあり、音楽関係グッズのほか CD と楽譜の委託販売を行った。合わせて約 50 種類の商品を揃え、会期中売上は合計で約 300 点 56 万円ほどであった。
- ・お城 EXPO では新御城印を含め、5 種の御城印を合計約 550 枚販売した。
- ・輸出工芸展では、「芝山漆器研究会」やマイスターである宮崎輝生氏の作品など、新たに制作依頼した約 70 点を取り扱い、会期中 55 点約 70 万円の売上があった。



特別展「生誕百年 中田喜直展」開催時ショップ



御城印 小机城

小田原北条氏誕生 500 年記念版



企画展「ヨコハマの輸出工芸展」開催時

芝山漆器研究会 販売作品

(2) 駐車場

来館者の利便性を図るべく、歴史博物館の来館者用駐車場を運営した。

駐車場管理会社に委託し、キャッシュレス決済が利用できるコインパーキングとした。大塚・歳勝土遺跡公園利用者の利便性向上のため、これまで営業していなかった博物館休館日も営業することとした。

(3) 自動販売機

施設利用者の利便を図るため、交通系 IC カード等のキャッシュレス決済に対応した飲料の自動販売機を設置した。

<各事業の推移>

項 目	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
ミュージアムショップ売上（千円）	9,011	17,403	14,184
自動販売機手数料収入（千円）	110	114	64

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
1 資料収集保管事業	資料の寄贈・寄託により 994 点の資料を収集し、資料の整理・保管・データ入力を進めた。本年度は 5F 収蔵庫の棚の増設工事を行い、空調工事で休館した都発・ユー文の資料を受け入れた。特別利用については、16 件 979 点の資料の貸出や熟覧等に対応した。資料の燻蒸や IPM など、適切に資料の保全を進めた。	A
2 調査研究事業	基礎資料研究 5 本、テーマ研究 5 本、市民共同研究 3 本、連携調査研究 2 本のほか、令和 6 年度実施予定企画展の調査や資料の基礎整理を予定通り進めた。今年度は調査研究報告に「横浜市域の美術史の基礎的研究」の成果を、紀要では 3 つの資料紹介や翻刻を成果として掲載した。	A
3 常設展事業	休館中に展示解説ボランティアへの研修の充実を図り、来館者自身のスマホやタブレットを利用する多言語解説アプリの拡充を行い、利便性の向上を図った。またオリジナル歴史クイズや横浜の歴史や文化財についての映像を視聴できるアプリ「クイズ&ムービー」の利用を促した。	A

4 企画展事業	横浜開港資料館の拠点計画で進めているデジタルアーカイブ構築の成果の一部を活用した企画展「浮世の華 描かれた港崎」、小学校6年生の歴史の学習に合わせ、考古学を身近に楽しみながら学べるアクティブラーニングの手法を取り入れた企画展「君も今日から考古学者 横浜発掘物語 2023」、横浜ゆかりの作曲家を取り上げた特別展「生誕100年 中田喜直展」、休館明けの展覧会として同時開催で行った企画展「ヨコハマの輸出工芸展」と「令和5年度横浜市指定・登録文化財展」を開催した。市所蔵の横浜浮世絵をはじめ、ヨコハマから世界に向けた輸出工芸品や新指定の文化財、そして昭和を代表する歌曲の作曲家など多彩なテーマを取り上げた。また関連事業は、さまざまな主体と連携したガイドツアーや映画会など視野を広げるものから、展示の内容をより深く掘り下げる講演会まで幅広く展開し、市民の多様な生涯学習のニーズに応えた。	A
5 企画普及事業	さまざまな団体や市民、ボランティアと連携・協力し、講座・講演会や子ども向けのワークショップ、また地域の賑わいの創出につながる多彩なイベントを展開した。中でも、みなきたマルシェ実行委員会と連携した「歴史未来フェス」は、港北ニュータウンで活動を繰り広げる団体の発表の場として3日間で5千人以上が来館し、新たに定着させるべき催しとなった。チラー更新工事にかかる4か月の休館中はアウトリーチとして横浜市庁舎1階での文化財パネル展やトークイベント並びにワークショップを展開した。学校連携事業では小学校3年生向けの映像を新たなタイトルで制作し、公式 youtube チャンネルで発信したところ10万回以上も再生された。また新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、各種の制限を撤廃して学校団体の受け入れを進めた。広報では、SNSやHPをはじめ、紙媒体、また各種メディアなどを利用し、工夫した活動を展開した。	S

6 開館30周年記念事業	BOSCH 日本法人本社の隣接地への移転を見据え、常設展示室の多言語解説アプリについてドイツ語版の制作を行った。また展示解説映像の解説アプリへの格納については事業を前倒して実施した。30周年事業の機運醸成のためのロゴマーク制作や展示計画の具体化、普及事業の準備等を適切に進めた。	A
7 情報事業	リアルタイムな情報発信が行える SNS の強みを活かし、X（旧ツイッター）を利用して博物館の展示や催しの情報ほか、博物館の活動をリアルタイムで紹介する情報発信を積極的に行い、フォロワーは1万人を超えた。また NOTE による情報発信を試行した。HP については的確に情報の更新を行った。	B
8 施設維持事業	5月の新型コロナウイルス感染症5類移行により、各種制限を撤廃して利用の拡充を図った。開館以来29年が経過した博物館や、開園から28年となる野外施設など、経年劣化のみられる施設・設備に対し日常の監視保全を行い、不具合については所管局と協議を進め、また必要な修理を進め、安定的な運営を維持できるよう努めた。また4か月の休館を伴う設備更新工事については、所管局や施工業者と連絡を密にし、工事の進捗に支障のない、適切な対応を進めた。	A
9 収益事業	ミュージアムショップ事業は、各企画展に応じた新商品の開発や魅力ある商品の取り揃えに注力し、安定的な売り上げにつながる運営に取り組んだ。駐車場事業は、博物館休館日にも営業するように改め、遺跡公園利用者への利便性の向上を図った。	B

3 開港資料館事業

令和5年度は、「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」の3年目にあたり、これまで成果が目に見えて現れた1年となりました。

令和6年1月に公開した「横浜開港資料館デジタルアーカイブ」では、写真・絵葉書・絵地図・

浮世絵・古文書など 32,209 点の資料情報を公開し、あわせて 8,017 点の資料画像を公開しました。今後も館蔵資料のデジタルデータ化を進めて、公開点数を拡充していくとともに、ウェブ上で画像データの利用申請ができるよう、準備を進めていきます。

また今年度は公式 YouTube チャンネルで解説動画 4 本を公開しましたが、昨年度の展覧会「幻の写真家 チャールズ・ウィード」の解説動画の再生回数が、年度の後半になって大きく伸び、今後の収益化につながる成果となりました。

横浜中華街発展会協同組合と共同で制作・公開した文化観光ウェブサイト「こい旅横浜ー中華街ー」に続いては、同じく文化観光拠点計画の共同申請者である山下公園通り会と共同で、開港資料館の常設展示を出発点に山下町の各ポイントをめぐる「こい旅横浜ー山下町ー」を制作しました。

施設整備も大きく進み、旧館（旧英国総領事館）の整備工事（外観復元工事、連絡通路付け替え工事）に着手したほか、旧門番所（付属棟）は、ミュージアムショップ・カフェ・コンシェルジュの機能を兼ね備えた店舗「PORTER'S LODGE」として 7 月 1 日にオープンし、オリジナル商品の販売、ミュージアムグッズ・デザインコンテストの開催など、継続して話題を提供することができました。そして市地域史跡の「たまくすの木」に関しては、中長期的な維持管理に向けて、一般社団法人日本樹木医会神奈川県支部と協定を締結しました。

企画展事業では、都市発展記念館の企画立案をもとに、関東大震災 100 年の特別展「大震災を生き抜いてー横浜市民の被災体験ー」を共同で開催しました。2013 年に開催した関東大震災 90 年の連携展示から 10 年が経ち、この間の調査研究の蓄積を反映させた展示であり、メディアからの注目に加えて、専門分野からも高評価をいただき、集客・事業収入の双方で大きな成果をあげました。また NHK や県博物館協会や学術団体などと広域に連携事業を展開しました。

資料収集保管事業では、昨年度の展示で紹介したチャールズ・ウィード撮影古写真がまとまって寄託され、また 160 年ぶりに横浜に里帰りした Japan Society 旧蔵のベアトアルバム等、今後当館の古写真コレクションの核となる貴重な資料が収集できました。

調査研究事業では、令和 7 年（2025 年）の戦後 80 年に向けて連携研究プロジェクトを立ち上げて事業検討を進めたほか、外部研究者との連携研究（幕末維新史研究会）では、民間出版社からの論集発行に向けて原稿執筆を進めました。

普及事業では、横浜郷土史団体連絡協議会の活動支援に継続して取り組み、また地域事業者との連携では、毎年 5 月に開催されるイベント「ハマフェス Y164」に参加し、開催日を無料開館しました。そのほか株式会社三陽物産および横浜エクセレンスとの間で、横浜の歴史普及に関する協定を締結し、今後の事業展開の基盤づくりを行いました。

1 資料収集保管事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料を収集し、収集資料を良好な状態で保存するために資料の保管を行いました。また、閲覧室での資料公開・コピーサービスにより、資料や研究成果の普及を行いました。

（1）資料の収集・管理・公開

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈 4 5 件 7 3 9 点	主な収集資料：椎野佳宏家資料、熊谷伊助関係文書、セ

	寄託2件 32点	ント・ジョセフ・インターナショナル・スクール関係資料、関東大震災鉄道復旧工事写真帳（寄託から変更）、チャールズ・ウィード撮影日本関係古写真（寄託）、Japan Society 旧蔵ベアトアルバム（寄託）
資料の購入	21件 49点	主な収集資料：〔安政六年三月手書き横浜町割り図〕、文久遣欧使節肖像写真、タウンゼンド・ハリス肖像写真
資料の分類・整理		未整理の文書群の分類・整理をおこなった。 主な資料：中山恒三郎家資料
閲覧室における資料の公開とコピーサービス	閲覧室利用 1, 188人 コピー枚数 24, 125枚	日本語・外国語新聞複製、図書等の開架資料の公開と、文献・古文書等の閉架資料の出納・公開、コピーサービスを行った。
資料のデジタル化	古写真や古記録、絵巻など	企画展や閲覧公開に供する資料及び収蔵資料のデジタル化を行った。 主な資料：黒船来航図絵巻・黒船来航画卷等
	浮世絵・古写真 7, 506点	文化観光拠点計画事業の一環として、デジタルアーカイブの公開に向けて、収蔵資料から浮世絵・古写真などの画像資料を選定してデジタル化をおこなった。
デジタルアーカイブの公開	公開点数 32, 209点	文化観光拠点計画事業の一環として制作を進めてきた「横浜開港資料館デジタルアーカイブ」を一般公開し、古文書・写真・絵葉書・浮世絵などの資料種別に、約32,000点の資料情報および8,017点の資料画像を公開した（令和6年1月10日公開時点）。
解説動画の公開	動画4本	文化観光拠点計画事業の一環として制作した解説動画「横浜と外国人墓地」「横浜開港資料館所蔵古写真に見る和船」「幕末の台場建設プロジェクト」の3点、および展示関連の解説動画「幻の写真家 チャールズ・ウィード」の公開を開始した。このうち5月に公開を開始した「幻の写真家 チャールズ・ウィード」は秋以降に大きく再生回数が伸び、年度末の時点で10万回を超える再生回数を記録した。
複製資料の提供	提供件数418件 1, 710点	市民や企業、他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の提供を行った。
原資料の貸出	貸出件数3件48点	他の博物館（神奈川県立金沢文庫、神奈川県立歴史博物館、小田原市郷土文化館）の展覧会へ原資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳 (R5. 4～R6. 3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
行政資料 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1, 851 (1, 851)
政府資料 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	16, 137 (16, 137)
海外資料 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	15, 236 (15, 236)
文書・記録 (点)	— (—)	— (—)	517 (445)	— (—)	517 (445)	86, 406 (85, 889)
新聞資料 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	9, 955 (9, 955)
絵画・写真等 (点)	3 (14)	— (—)	222 (—)	32 (—)	257 (14)	33, 941 (33, 684)
コレクション (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	51, 408 (51, 408)
文献資料 (点)	49 (48)	— (—)	— (—)	— (—)	49 (48)	58, 526 (58, 477)
合 計	52 (62)	— (—)	739 (445)	32 (—)	823 (507)	273, 460 (272, 637)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 複製資料の提供実績

項 目	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
出版社 (一般書・教科書・雑誌)、放送・テレビ会社、官公庁、横浜市及び横浜市関連機関への提供	4 1 8 件	4 4 5 件	4 4 8 件

(4) 閲覧・資料相談・複写サービス利用状況

項 目	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
閲 覧 室 利 用 者 数 (人)	1, 1 8 8	1, 2 4 4	7 9 2
複 写 申 込 件 数 (件)	6 3 1	5 9 1	5 0 0
複 写 枚 数 (枚)	2 4, 1 2 5	1 9, 4 6 3	1 8, 3 1 6
レ フ ァ レ ン ス 件 数 (件)	8 9 6	1, 9 6 2	2, 0 4 8

(5) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
環境調査	収蔵資料の汚損の予防のため、害虫の発生状況や館内環境の調査を実施した。5回／年
マイクロフィルムおよび図書資料の収蔵管理	マイクロフィルムおよび図書資料の収蔵管理を、外部倉庫会社に委託した。

(6) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
開港資料館収蔵庫（310 m ² ）	文書記録、画像資料、個人文庫、文献等の収蔵と管理を行った。
大黒埠頭倉庫、シルクセンター他	器物資料、文献資料などの収蔵と管理を行った。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料について、各テーマに基づいた調査研究を実施しました。また財団諸施設との連携研究事業、外部研究者との共同研究事業も継続して実施しました。

（1）基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
横浜開港資料館の建築資料に関する調査研究（2／2年次）	・館蔵資料から抽出した旧英国総領事館および旧門番所の画像史料（写真・絵葉書）をもとに、竣工当時の外観の復元分析を進めた。 ・イギリス総領事館が閉鎖された昭和47年当時副領事を務めていた方から、当時の総領事館の使われ方や外観の色彩についての聞き取り、および当時の写真調査をおこなった。
近代横浜の戦争史研究（2／4年次）	・2025年開催予定の戦後80年記念企画展示に向け、開港資料館が所蔵する今井清一文庫をはじめとする戦時資料の調査を行った。 ・フォーラム南太田から、震災復興期から戦後復興期にかけての横浜市婦人会館旧蔵資料の移管を受け、関東大震災時における横浜連合婦人会の罹災者救済事業について、資料の調査・分析を行い、その成果を『開港のひろば』第155号で公開した。
横浜開港資料館のアーカイブ機能に関する研究（2／2年次）	・デジタルアーカイブにて館蔵資料の目録（約3万2000点）および画像（約8000点）を公開した。 ・デジタルアーカイブでの公開に向けて古文書目録のデータ入力およびPDF化を進めた。 ・館蔵資料の保存・整理状況を体系的に把握し、効率的なアーカイブ機能の構築方法について検討した。 ・資料に応じたメタデータの記載方法、情報公開機能、管理システム、効果的な活用事例等に関する聞き取り調査を行った。 ・門倉保茂家文書の整理作業を完了した。
幕末期対外関係史の研究（1／2年次）	・当館、東京大学史料編纂所、国立歴史民俗博物館、国立国会図書館、国文学研究資料館、早稲田大学図書館、目黒区めぐろ歴史資料館、松戸市戸定歴史館、静岡県立中央図書館、沼津市明治史料館等で外国奉行・神奈川奉行に関連する歴史資料の調査・撮影を実施した。 ・東京大学史料編纂所・国立歴史民俗博物館の研究者と連携して、関連する歴史資料の共同調査・撮影、学術的な意見交換をおこなった。 ・以上の調査成果は「神奈川奉行」（『開港のひろば』156号）で予備的に報

	告したほか、2024年秋に実施する当館特別展「外国奉行と神奈川奉行」、同展図録で報告する。
幕末～明治初期古写真の研究 (2/2年次)	・当館所蔵の木村芥舟関係資料に含まれる幕末期に撮影されたガラス板写真・鶏卵紙写真の高精細撮影と内容分析を東京大学史料編纂所画像史料解析センターと共同で実施した(継続)。成果は史料編纂所刊行の報告書にて報告する。 ・当館所蔵の古写真アルバムの細目録作成を、元当館調査研究員斎藤多喜夫氏の教示を得ながら実施した(継続)。成果は当館デジタルアーカイブに反映させる。 ・今年度新たに寄託を受けたチャールズ・ウィードとフェリーチェ・ベアトの古写真について調査研究を進めた。
横浜近代欧米関係史 (2/3年次)	・館蔵資料の一般洋文書の整理を行い、公開に向けて目録を作成した。次年度に公開できるように準備する。 ・前年度に引き続きブルーム・コレクションの状態チェックを行い、資料の現状を維持するべく、薄葉紙で保護し、保存箱を導入した。また、コレクションの稀少性を広く認知してもらうべく、常設展示室のミニ展示コーナーにて資料紹介をした。

(2) 財団諸施設との連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長への至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業。2025年の戦後80年関連企画展示に関し、企画案を作成したほか、研究会メンバーと連携の在り方について検討を行った。 ＊都市発展記念館・市史資料室・埋蔵文化財センターとの連携研究事業
都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業	都市横浜の歴史空間を復原する基本地図を時代(幕末～昭和期)ごとに検討・決定し、Web上での復原地図の基本的な設計をおこなった。また慶応期(1865～66年頃)の横浜の復原地図作成をおこなった。 ＊都市発展記念館・市史資料室・神奈川県立歴史博物館との連携事業

(3) 外部研究者との共同研究

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜幕末維新史研究会	幕末維新期横浜の政治・外交・経済・社会等について、他機関所属の研究者とともに、原資料(古文書等)をもとに総合的な調査・研究をおこない、講座・展覧会などで成果を報告する。(2/4年次)	・論文集『幕末の開港都市・横浜』の刊行に向けて、当該期横浜に関する研究文献・歴史資料を総覧した。あわせて同論集の編集作業をおこなった。 ・幕末維新期の横浜に関わる研究報告会

		を実施した。 7/1 後藤敦史氏（京都橘大学）「幕末期における海防の目的の変遷」 12/1 櫻井良樹氏（麗澤大学）「北米所在の幕末横浜関係の資料調査報告」 ・幕末期横浜の社会情勢を知りうる下記史料の翻刻をおこなった。 「白石忠太夫日記」（国立公文書館蔵・神奈川奉行の日記）。 ・幕末期横浜の社会情勢・対外関係に関する館蔵史料の調査・撮影を実施した。
中山恒三郎研究会	都筑区川和・中山恒三郎家文書の活用に関する基礎的研究を、外部研究者と共同で実施する。 （2／3年次）	前年度に引き続き、文書の整理作業を実施し、第一期整理文書資料目録を作成した。 また、2024（令和6）年3月16日に研究会を実施し、西川武臣館長による太陽合資会社に関する調査成果報告のほか、資料目録の共有と検討を行った。
京浜移住者研究会	近代日本における都市移住者と同郷者集団の形成に関する基礎的研究を、外部研究者と共同で実施する。 （2／2年次）	近代日本における都市移住者と同郷者集団の形成に関する基礎的研究を能登地域の研究者と共同で実施し、現在までの成果を横浜都市発展記念館紀要第18号の特集「能登半島と近代日本の都市移住者—京浜地域の銭湯経営者を中心に—」で公開した。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室の適切な維持管理をおこなうとともに、新収資料等を紹介するミニ展示を定期的に行いました。また旧館・中庭を活用したイベントを開催し、集客を図りました。毎月第二水曜日を「濱ともデー」として、市内在住65歳以上の来館者を入館無料としました。

（1）常設展示室観覧者の推移（基本観覧想定数 30,500 人）

	有料入館者(人)					無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館 日数	1日平均 入館者(人)
	一般	小中	市内 65	閲覧室	計					
5年度	19,609	3,439	1,869	759	25,676	8,866	34,542	105.5%	308	112
4年度	17,937	3,621	2,140	726	24,424	8,292	32,716	154.8%	307	107
3年度	11,906	2,164	1,716	750	16,536	4,600	21,136	165.4%	307	69

*令和3年度以降の数字は、企画展を開催していない期間の常設展観覧者数と、企画展開催期間中の入館者数を加算したもの。

(2) 常設展示室でのミニ展示

常設展示室内で、新収蔵資料や新発見資料を紹介するミニ展示を開催した。今年度は関東大震災 100 年をテーマとしたミニ展示（115 回～117 回）を連続して開催した。

項 目	内 容 ・ 成 果
ミニ展示	第 114 回 2023/2/24～5/25「継承されてきた本たち－ブルーム・コレクション－より」 第 115 回 5/26～8/25「関東大震災を伝える－災害情報の形成と展開－」 第 116 回 8/26～11/30「関東大震災 100 年 古き横浜の壊滅 O.M. プール旧蔵資料より」 第 117 回 12/1～2024/2/15「災害は忘れた頃にやってくる－丹沢地震と横浜－」 第 118 回 2/16～5/16「ペリー横浜来航 170 周年記念ミニ展示・パート 1 描かれたペリー艦隊」

(3) 旧館の活用

文化財施設の活用のため、旧館（旧英国総領事館）1 階の記念ホールや記念室を公開した。

旧館来場者数：64,041 人（年間）

項 目	内 容 ・ 成 果
開港（開館）記念日に関する事業	・ 記念室（旧総領事室）の特別公開（5/27～8/25） 記念ホールでのイギリス大使館主催パネル展示にあわせて公開期間を延長。来場者 9,669 人 ・ 開港（開館）記念日の 6 月 2 日を無料開館。来館者 217 人。
記念ホールでのパネル展示	旧館 1 階記念ホールを活用して、下記パネル展示を開催した。 ・ 「横浜開港 海を渡った日本の草花と西洋公園」（2023/3/19～6/11、関内・関外地区活性化協議会主催「花咲く Rally 花咲く横浜をめぐるスタンプラリー」との連動企画） ・ 「駐日英国大使館の歴史をたどる」（6/24～8 /25、イギリス大使館主催）
スタチュー・パフォーマンス・ギャラリー R5. 11. 18(土)・19(日)	毎年 11 月中旬に開催していたスタチュー・ミュージアムの代替事業として、開港資料館講堂・記念室を会場として、スタチュー関連のグッズ（衣装、小道具など）を展示した。また、各日 2 組限定で、スタチューによるパフォーマンス展示も実施した。 来場者 155 人（18 日：67 人 19 日：88 人）。 ＊ユーラシア文化館・都市発展記念館との共催。
デジタルスタンプラリーへの参加	近隣のイベントで開催されるデジタルスタンプラリーに参加し、旧館ホールおよび「Porter' s Lodge」店内をラリーポイントとして活用した。

	・花咲く横浜をめぐるデジタルスタンプラリー ・ザよこはまパレード デジタルスタンプラリー ・ハマフェス Y164 デジタルスタンプラリー ・横浜みなとぶらりデジタルクイズラリー
商業撮影の対応	結婚式の撮影やドラマやテレビのロケなど、旧館（旧イギリス総領事館）を利用しての商業撮影に対応した。

（４）中庭の活用

横浜市地域史跡である「たまくす」の木を中心に、ハイネ画《ペリー横浜上陸図》の陶板プレート、獅子頭共用栓・ブラフ溝・ガス灯（模型）などの都市インフラ資料、開港から昭和戦前期にいたる横浜の歴史を子ども向けに紹介した展示パネルなどで、敷地内を散策する人に横浜の歴史をわかりやすく紹介した。またヨルノヨ・アートイベント「水の町プロムナード」に協力するかたちで、中庭での夜間イベントの開催について試行した。

中庭来場者数：95,823 人（年間）

（５）「たまくすの木」の維持管理

「たまくすの木」の樹勢を維持し、長寿命化を図るため、昨年度に策定した「たまくすの木」の基本管理計画に基づき、一般社団法人日本樹木匠会神奈川県支部と「たまくすの木」の維持管理に向けた協定を締結し、同会に土壌改良業務を委託した。



スタチュー・パフォーマンス・ギャラリー



中庭でのパフォーマンス

４ 企画普及事業（定款第４条第１項第１号②）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料に関する研究成果を、企画展示等を通して公開しました。今年度は都市発展記念館との共同開催で、関東大震災 100 年の特別展を開催し、あわせて講演会を含む関連事業を実施しました。また昨年度から続いて、調査研究員による連続講座を開催し、講座動画を有料で配信しました。あわせて SNS を活用した資料紹介も積極的に進めました。

（１）企画展の実施

特別展「大災害を生き抜いてー横浜市民の被災体験ー」 R5. 8. 26(土)～12. 3 (日) 開催日数86日	一般 500円 小・中 250円	11,838人	100 年前に発生した関東大震災では、全体で約 10 万 5000 人、横浜市でも推定 26,623 人が犠牲となったほか、多くの負傷者を出した。そうしたなか、大災害を生き抜いた横浜市民は、自らの体験を日記や回想録、写真等に残していく。本展示では、市民の残した記録から横浜の関東大震災を再現した。また SNS を活用して当館周辺の震災遺構等を紹介した。
--	---------------------------	---------	--

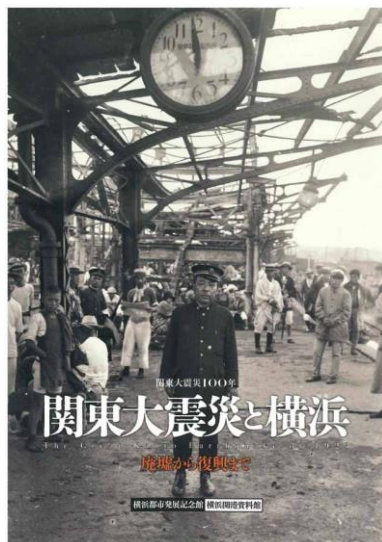
(2) 企画展開関連事業の開催

事業名称	参加者数	事業内容
展示解説		展示担当者による解説を実施（全4回）。 9月1日（金）参加者26人、10月14日（土）22人、 11月11日（土）13人、12月2日（土）43人 合計104人
展示関連講演会 R5. 9. 30（土）	35名	記念講演会「日本史のなかの関東大震災ー防災から防空へ」 会場：横浜開港資料館講堂 講師：土田宏成氏（聖心女子大学教授）
横浜シティガイド協会との共催ガイドツアー 「関東大震災の被災体験を歩く」 （ミニ講座つき）		当館講堂でのミニ講座ののち、横浜シティガイド協会によるガイドツアーを実施（全4回）。 第1回「美術教師 八木熊次郎の日記と絵画から」 10月18日（水）参加者30人 第2回「ジャーナリスト竹内八十吉の新聞記事から」 10月28日（土）18人 第3回「老松小学校 葛城久子の体験記から」 11月3日（金・祝）15人 第4回「写真師 西野芳之助の被災記録から」 11月21日（火）15人
アウトリーチ展示「関東大震災100年 横浜市庁舎の関東大震災」 R5. 11. 16（木）～11. 29（水）		関東大震災当時の横浜市庁舎を中心とした横浜市街地の被災状況を、ガラス乾板写真に記録された鮮明な画像を中心に分析・紹介した。会場では、NHK エデュケーショナルとの共同作業として彩色復元した西野写真館撮影パノラマ写真を大きく引き伸ばして、メイン展示とした。 会場：横浜市役所2階プレゼンテーションスペース

(3) 関連出版物の作成・編集

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事業内容
展示関連出版物『関東	1500部	2,200円	A4判、80頁。横浜都市発展記念館・横浜開港資料館

大震災 100 年 関東大震災と横浜―廃墟から復興まで―		(税込)	編。関東大震災 90 年（2013 年）に際して刊行した図録『関東大震災と横浜』をもとに、その後の成果を反映させた増補改訂版として発行。 会期中売上：420 冊
------------------------------	--	------	---



展示関連出版物『関東大震災と横浜』



ガイドツアー「関東大震災の被災体験を歩く」

（４）連続講座 2023 の開催

事業名称	参加者数	事業内容
第 1 回 R5.9.18（月・祝）	36 名	「関東大震災 100 年 都市横浜の壊滅と復興」 講師：青木祐介（当館副館長）
第 2 回 R5.10.9（月・祝）	22 名	「戦争被害者救済に尽力した横浜の社会事業団体」 講師：西村 健（当館主任調査研究員）
第 3 回 R5.11.3（金・祝）	43 名	「幕末台場―海防の拠点を探る」 講師：神谷大介（当館調査研究員）
第 4 回 R5.12.9（土）	45 名	「日米修好通商条約はどこで結ばれたのか？」 講師：吉崎 雅規（当館主任調査研究員）
第 5 回 R5.1.14（土）	49 名	「横浜開港初期の外国人たち―開港地をめぐる対立から―」 講師：白井拓朗（当館調査研究員）

（５）地域・市民・学術団体との協働事業の実施

項目	事業内容等
株式会社三陽物産との協定締結	「横浜の歴史と文化」の普及啓発に関して、これまで財団と連携した取り組みを推進してきた株式会社三陽物産と、連携強化のための協定を締結した。あわせて同社代表取締役社長山本博士氏から開港資料館に寄託された、幕末期の国内最古

	級のベアトアルバムを、メディア向けに公開した。
横浜エクセレンスとの協定締結	中区を拠点とするプロバスケットボールチーム「横浜エクセレンス」と、横浜の歴史およびスポーツ文化の普及啓発に関する協定を締結した。連携事業の第1弾として、エクセレンスのホームゲーム会場でパネル展示「横浜中華街 160 年の軌跡」を開催したほか、開港資料館「Porter's Lodge」の利用で、エクセレンスのホームゲーム招待券をプレゼントした。
横浜郷土史団体連絡協議会との協働	横浜の郷土史に関心の深い市民団体相互の交流促進及び当財団と各団体との協働事業を推進することを目的に設立した横浜郷土史団体連絡協議会（令和5年度末現在、加盟40団体）との事業協働。事務局を歴史博物館と共同で担当。 ①総会・大会 R5.5.13(土) 於横浜開港資料館講堂 会員団体紹介 記念講演会：「関東大震災100年 災害の記憶を継承する」 横浜開港資料館 青木祐介副館長 ②役員会（12回）実施 ③研修会（第59回～62回）実施 ④特別講座 R6.2.23(金・祝) 於横浜市歴史博物館講堂 「虎と鳳凰の戦い 小田原北条氏対安房里見氏」 横浜市教育委員会 近藤匡樹氏 ⑤会報17号刊行。 ⑥会報18号の編集。 ⑦横浜郷土史団体連絡協議会 News65号～68号発行。
ハマフェスY164（旧横浜セントラルタウン・フェスティバル）への参加 R5.5.27（土）28（日）	地域の事業者（馬車道商店街、関内まちづくり振興会、山下公園通り会、横浜中華街発展会・元町SS会）と地元マスコミが主催して開催されるイベントに、山下公園通り会として都市発展記念館・ユーラシア文化館と共同で参加。横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム in ハマフェスを開催した。また両日とも無料開館した。
関東大震災パノラマ写真の彩色復元プロジェクトの共同実施	NHK エデュケーショナルとの共同作業として、関東大震災の被災状況をパノラマで撮影したガラス乾板（西野写真館撮影、開港資料館所蔵）の高精細デジタルデータをもとに、彩色復元（8Kカラー）による写真分析を行った。
関東大震災100年漫画企画「筆先のあなたへ」の内容監修	NHK 横浜放送局が制作する関東大震災100年記念企画の漫画「筆先のあなたへ」（全40話）について、時代考証にもとづく内容監修を行った。
首都圏形成史研究会 R5.10.28（土）	首都圏形成史研究会との連携事業として、震災100年展示を担当した学芸員が成果と課題を報告するシンポジウム「「関東大震災」研究の最前線」を開催し、開催中の特別展「大災

	害を生き抜いて―横浜市民の被災体験―の見学会を実施した。
神奈川県博物館協会「神奈川震災100年プロジェクト」の実施	神奈川県博物館協会の「神奈川震災 100 年プロジェクト」実行委員会として、神奈川県内の博物館と連携しつつ、震災関連展示の情報共有や関連事業を企画・実施した。
日本青年会議所主催「サマーコンファレンス2023」での事業協力 R5. 7. 22（土）23（日）	日本青年会議所主催「サマーコンファレンス 2023」内での防災パネル展示に、関東大震災関係資料を提供した。 会場：パシフィコ横浜
横浜市認定歴史的建造物「中山恒三郎家」の公開事業 R5. 11. 26（日）	中山恒三郎家（都筑区川和町）の敷地内に残る書院・店蔵などの歴史的建造物を公開したほか、諸味蔵では民俗資料と整理作業の様子を公開した。参加者：517人 ※横浜都市発展記念館、横浜市歴史博物館との連携事業 主催：（有）中山松林甫 後援：横浜市都市整備局・横浜市都筑区役所 協力：川和町内会・川和連合町内会・川和小学校ふれあい郷土館・都筑をガイドする会
ヨルノヨ・アートプログラム「水の町プロムナード」への参加 R5. 12. 13（水）16（土）	ヨルノヨ・アートプログラム「水の町プロムナード」に参加し、トークイベント「獅子文六と大佛次郎の散歩した水町通りの歴史と文化」（会場：横浜マリントワー）を実施したほか、中庭を活用した夜間イベントとして、エキゾチックな音楽パフォーマンスと現代的な影絵を融合させた「滞空時間 meets たまくす」を実施した。
講座・講演会への講師派遣	・青葉区郷土史の会主催「歴史探訪講座 2023」 ・清水建設株式会社職員研修 ・中区職員向け講座「中区歴史講座 2023」 ・横浜市建築局、横浜建設業協会、横浜市建築設計協同組合主催「よこはま建築アカデミー」など。
横浜商工会議所等の機関誌への原稿執筆	横浜商工会議所機関誌「Yokohama 商工季報」、横浜港振興協会機関誌「よこはま港」等への寄稿。



協定締結 (左) 株式会社三陽物産 (右) 横浜エクセレンス

(6) 行政との連携事業

項 目	事 業 内 容 等
関東大震災 100 年関連パネル展示の事業協力	中区・旭区・緑区で開催された関東大震災100年関連の写真パネル展に全面的に協力し、資料を提供した。
歴史的建造物整備に関する有識者懇談会への職員派遣 R5.8.30(水)、10.6(金)、12.6(水)	横浜市環境創造局が進める「(仮称) 旧上瀬谷通信施設公園における歴史的建造物（旧太田家住宅）整備」において、有識者懇談会に当館副館長を派遣した。
「文化財保存活用地域計画」策定に係る協議会への委員派遣 R6. 2. 28 (水)	横浜市教育委員会生涯学習文化財課が進める「文化財保存活用地域計画」の策定において、地域計画協議会に委員2名（当館副館長、歴史博物館副館長）を派遣した。
横浜市中消防団発足に際して刊行物の作成協力	横浜市中消防団の発足式に向けたパンフレット作成にあたって、横浜消防の歴史に関する原稿執筆および内容監修を行った。
「広報よこはま」への執筆協力	・全市版の連載コラム「よこはま彩発見」9月号に「関東大震災－横浜市民の震災体験－」を掲載した。 ・中区版の連載記事「なか区・歴史の散歩道」を都市発展記念館と共同で執筆。「関東大震災 100 年 ガラス乾板写真にみる関東大震災」「戦後ヨコハマ風景、五十嵐英壽撮影写真から」等のテーマで連載した。 ・保土ケ谷区版の連載記事「保土ケ谷区のあゆみ」を歴史博物館、埋蔵文化財センターと共同で執筆。8月号に「保土ケ谷宿の助郷～宿場を支える村々～」を掲載した。
横浜市広報誌・広報番組への協力	横浜市広報番組 TVK「ハマナビ」、FM ヨコハマ「YOKOHAMA My Choice!」等への出演。

(7) 学校連携

項 目	事 業 内 容
-----	---------

博物館館務実習の受け入れ R5. 8. 1（火）～8. 6（日）	博物館学芸員資格取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れた。 人数：8人
アーカイブズ・カレッジの受け入れ R5. 9. 1（金）	国文学研究資料館が主宰するアーカイブズ・カレッジ（史料管理学研修会）の施設見学を受け入れた。
アーカイブズ実習の受け入れ R5. 9. 15（金）22（金）30（土）	昭和女子大学が主宰するアーカイブズ実習を受け入れた。
市内小学校団体見学の受入	都市発展記念館・ユーラシア文化館の実施する市内小学校4年生の吉田新田学習の受け入れに、当館講堂を提供した。今年度は両館が空調設備更新工事で休館していたため、エドゥケーターによる訪問授業として受け入れ、24校、1,820人の利用があった。

（８）広報

項 目	事 業 内 容
公式ロゴマークのリニューアル	文化観光拠点計画事業の進展にともない、2031年に迎える開館50周年や旧英国総領事館建築100年の節目に向けた機運醸成のため、公式ロゴマークのリニューアルに関するプロポーザルを実施し、新しい公式ロゴマークを制定した。
館報「開港のひろば」	館報「開港のひろば」第155号、156号を発行
リーフレット類作成	2023年度催し物案内（8月～3月）の発行 デジタルアーカイブ案内の発行 PORTER'S LODGE 案内の発行
その他広報	① 横浜観光情報、インターネットミュージアム等の情報サイトへの情報掲出 ② 当館HPやメールニュース、SNSによる催し物等の情報発信 ③ みなとみらい線日本大通り駅構内へのポスター掲示 ④ 市内公共施設、博物館、図書館、観光施設、ホテル、駅観光案内所等への広報印刷物の配布 ⑤ 新聞、タウン情報誌等への情報発信、記事掲載 ⑥ TV、ラジオ、新聞、CATV等のメディアからの取材受け ⑦ 市広報誌への記事掲載依頼 ⑧ みなとみらい線一日乗車券の作製（特別展広報） ⑨ 美術雑誌への広告掲載（特別展広報）

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するためにデータの入力等を行い文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
インターネットによる情報公開	ホームページを通じて、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料の紹介を随時行った。館報「開港のひろば」は、発行に合わせて、テキスト情報を持った（文字検索や読みあげが可能な）PDF 画面で掲載した。今年度は新規コンテンツとして、文化観光拠点計画事業として制作を進めてきた「横浜開港資料館デジタルアーカイブ」および「こい旅横浜～中華街～」を公開した。また公式 YouTube チャンネルでは、昨年度の展示解説動画 1 本および文化観光拠点計画事業で製作した解説動画 3 本を公開した。なかでも古写真をテーマとした展示解説動画は、年度後半に大きく再生回数を伸ばした。 ・HP アクセス件数 合計 129,923 件 X (旧Twitter) やYouTubeなどのオンラインツールを通じて、展示や館蔵資料に関する情報を定期的に発信した。昨年度に引き続き、連続講座（全5回）の有料動画配信をおこなった。 【Twitter】 ・ツイート数 29 ・エンゲージメント率 3.2% ・リツイート 1,756 ・いいね数 4,868 ・ツイートインプレッション 368,359 【YouTube】 ・再生回数 141,942 ・総再生時間数 10707.2 ・チャンネル登録者数 1046 ・公開動画本数 4 【有料動画配信】 ・展示関連講座 9 ・連続講座 73
メールニュースの配信	「横浜開港資料館メールニュース」第 215 号～第 223 号(号外合計 10 回)をのべ 15,183 名の登録者に配信した。

6 旧館活性化事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

開港資料館の旧館（旧英国総領事館）および付属棟（旧門番所）の建物を、関内エリアのあらたな観光拠点として幅広く活用していくための再整備事業「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」（後掲）と連動して、旧館（旧イギリス総領事館、市指定文化財）の改修工事に向けた現状変更許可申請および建築基準法 3 条適用除外の許可申請を、市関連部局と調整しながら実施しました。また市地域史跡「たまくすの木」の中長期的な維持管理に向けて、一般社団法人日本樹木医会神奈川県支部と協定を締結し、土壌改良工事を実施しました。

（1）施設整備

項 目	内容・成果
-----	-------

旧館（旧イギリス総領事館）の改修工事に向けた諸手続きの実施	文化観光拠点計画にて実施する旧館（旧イギリス総領事館）の改修工事（外観復元工事、連絡通路付け替え工事、内装工事、展示工事）に向けて、市担当部局（教育委員会、建築局）との協議をもとに、現状変更許可申請および建築基準法3条適用除外の許可申請を実施した。
外構整備の基本設計	旧館（旧イギリス総領事館）改修工事と並行して実施する、敷地南側外構部分の植栽整備について、市担当部局（教育委員会、環境創造局）と協議をしながら、基本設計をまとめた。
地域史跡「たまくすの木」の維持管理に関する協定の締結	横浜市の地域史跡である「たまくすの木」の中長期的な維持管理を目的として、（一社）日本樹木医会神奈川県支部と協定を締結し、昨年度の診断結果を基に、根の成長に悪影響となっていたコンクリートサークルの撤去、土壌改良、弱剪定を行った。

（２）旧館・中庭を活用したイベントの実施【再掲】

項 目	内容・成果
記念ホールでのパネル展示	旧館 1 階記念ホールを活用して、下記パネル展示を開催した。 ・「横浜開港 海を渡った日本の草花と西洋公園」（2023/3/19～6/11、関内・関外地区活性化協議会主催「花咲く Rally 花咲く横浜をめぐるスタンプラリー」との連動企画） ・「駐日英国大使館の歴史をたどる」（6/24～8 /25、イギリス大使館主催）
スタチュー・パフォーマンス・ギャラリー R5. 11. 18(土)・19(日)	毎年 11 月中旬に開催していたスタチュー・ミュージアムの代替事業として、開港資料館講堂・記念室を会場として、スタチュー関連のグッズ（衣装、小道具など）を展示した。また、各日 2 組限定で、スタチューによるパフォーマンス展示も実施した。 来場者 155 人（18 日：67 人 19 日：88 人）。 ＊ユーラシア文化館・都市発展記念館との共催。
ヨルノヨ・アートプログラム「水の町プロムナード」への事業協力 R5. 12. 16（土）	ヨルノヨ・アートイベント「水の町プロムナード」に協力し、中庭を活用した夜間イベントとして、エキゾチックな音楽パフォーマンスと現代的な影絵を融合させた「滞空時間 meets たまくす」を開催した。

7 開港資料館施設維持事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号③）

開港資料館の維持管理及び運営を行いました。設備分野においては、今年度も引き続き経年劣化が主因となる故障・不具合を発生させており、特に館全体の水道・給水設備に水を供給する加圧給水ポンプ 2 基の内の 1 基が停止するなど、運営面に影響を及ぼす問題も発生しました。空調設備においても、新・旧館の空調システムは設置から交換目安となる 10 年が既に経過しており、メーカー、点検業者から機器の更新・取替のアドバイスを受けるなどシステム全体の更新が強く望まれます。

管理対象施設	事業内容・所在地など
--------	------------

開港資料館	資料の保管・管理、資料館の施設維持・管理。 主な不具合：新館・旧館の空調システムの経年劣化。キュービクル、高圧受電盤の経年劣化。主な修繕：加圧給水ポンプ交換（1基のみ）。冷却塔散水装置交換。冷却水循環ポンプ交換（2基）。
-------	---

8 開港資料館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

これまで受付にて展開していたショップを、7月1日に旧門番所の建物へ移転。ミュージアムショップ・カフェ・コンシェルジュの機能を兼ね備えた店舗「PORTER'S LODGE」としてオープンした。

- ① 委託業者との連絡調整
- ② 新店舗コンセプトに合わせた商品の選定・仕入
- ③ オリジナル商品の新規開発
- ④ ミュージアムグッズ・デザインコンテストの開催
- ⑤ 特別展「大災害を生き抜いて」期間中、関連書籍コーナーの設置
- ⑥ 『横浜もののはじめ考』再刊に向けた版下データ作成
- ⑦ オンラインショップの運営



ミュージアムショップ&カフェ「PORTER'S LODGE」

（2）自動販売機（1台）の設置

施設利用者の利便を図るため、新館脇に自動販売機を設置している。

<各事業の推移>

(千円)

項 目	令和5年度	令和4年度	令和3年度
ミュージアムショップ売上	6, 4 5 4	3, 2 8 2	2, 2 2 7
自動販売機手数料収入	1 0 2	9 7	8 9

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	今年度はチャールズ・ウィード撮影古写真や Japan Society 旧蔵のベアトアルバム等、今後の古写真コレクションの核となる貴重な資料が収集できた。また館蔵資料のデジタル化を着実に進め、デジタルアーカイブ公開時には約 8,000 点の資料画像を公開した。	S
調査研究事業	各調査研究・連携研究とも順調に進んでいる。財団内では 2025 年の戦後 80 年に向けた連携研究プロジェクトを立ち上げて事業検討を進めたほか、外部研究者との連携研究（幕末維新史研究会）では、民間出版社からの論集発行に向けて原稿執筆を進めた。	S
常設展事業	関東大震災 100 年の特別展と連動して、震災関連のミニ展示を、年間を通じて連続開催し、常に情報を発信しつづけた。旧館でのスタチュー・パフォーマンス・ギャラリーや、中庭を活用した夜間イベント等も実施し、入館者数は前年度から漸増の 105% となった。	A
企画普及事業	今年度は都市発展記念館との共同開催で関東大震災 100 年の特別展を開催したが、メディアの注目度も高く、集客・事業収入の両面で大きな成果があった。また震災 100 年をテーマに NHK や県博物館協会や学術団体などと広域に連携事業を展開した。市民協働では、郷土史団体連絡協議会の活動支援に継続して取り組み、地域事業者との連携では、株式会社三陽物産および横浜エクセレンスとの間で、横浜の歴史普及に関する協定を締結して今後の事業展開の基盤づくりを行った。	S
情報事業	定期的な HP コンテンツの更新、メールニュースの配信に加えて、新規コンテンツとして、「横浜開港資料館デジタルアーカイブ」「こい旅横浜～中華街～」を公開した。また古写真をテーマとした展示解説動画は、年度後半に大きく再生回数を伸ばした。	S

旧館活性化事業	文化観光拠点計画と連動して、旧館（市指定文化財）の改修工事に関わる各種許可申請を、市関連部局と協議しながら順調に進めた。また「たまくすの木」の維持管理に関して、日本樹木医会神奈川県支部と協定を締結することで、今後に向けて安定した取り組みを進めることができた。	A
施設維持事業	経年劣化が原因とされる設備の故障・不具合が発生しており、資料の保管・管理および来館者への影響が極力発生しないよう、市の所管課と協議のうえで対応に努めた。	A
収益事業	近隣の文化観光拠点となるミュージアムショップ&カフェの「PORTER'S LODGE」が7月にオープンし、その効果でショップの販売収入は前年度比 155%増となった。	S

9 拠点計画推進事業

令和3年度に文化庁より認定を受けた「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」に基づき、3年度の今年度は、下記9項目の事業についての取り組みを進めました。

項 目	内容・成果
「横浜開港」資料のデジタルアーカイブ整備公開推進事業	文化観光での活用を前提としたデジタルアーカイブのシステムを構築し、写真・絵葉書・絵地図・浮世絵・古文書など 32,209 点の資料情報を公開した。あわせてデジタルアーカイブに登載可能な高精細のデジタル撮影を実施し、浮世絵 1472 点、古写真 6034 点の画像を得た。
旧館展示「横浜開港の記憶」制作事業	旧英国総領事館等再整備事業で実施する外観復元工事や、バリアフリーに対応した連絡通路の設置を踏まえ、旧館 2 階に新設する展示の動線や内装復元の方角性を確認し、横浜港大さん橋を起点に人力車で山下町・中華街・元町・山手の各エリアをめぐるという展示コンセプトにもとづき、基本設計・実施設計を行った。
オンライン「横浜開港」コレクション解説配信事業	昨年度に制作した解説動画から 3 点（横浜と外国人墓地、幕末の台場建設プロジェクト、横浜開港資料館所蔵古写真に見る和船）を公式 YouTube チャンネルにて公開を開始した。
多言語アプリケーションの整備事業	「伝統的観光地エリア内ガイドツアー事業」と連携して、昨年度に横浜中華街発展会協同組合と共同で製作した、多言語ウェブコン

	テンツ「こい旅横浜ー中華街ー」を公開したほか、同じく共同申請者である山下公園通り会と共同で、第二弾「こい旅横浜ー山下町ー」の製作を進めた。
伝統的観光地エリア内ガイドツアー事業	上記ウェブコンテンツの公開と連動して、昨年度に横浜中華街発展会協同組合と共同で製作・設置した牌楼「朝陽門」の案内板の除幕式を行った。デジタルアーカイブやウェブコンテンツへのアクセスを可能にするQRコードを添付したことで、街歩きと開港資料館の所蔵資料や展示室との連携促進の基盤が整った。
「横浜開港」資料の商品化事業	①デジタルアーカイブ事業で作成した館蔵資料の高精細画像を使用した、オリジナルグッズの制作販売。特に新店舗「PORTER'S LODGE」柄ペロアハンカチ・クリアファイル・ボールペン・ブロックメモ・マスキングテープなど、オープンにあたり、グッズの充実を図った。そのほか、人気資料（ペリー上陸図・真景一覧図）のWポケットクリアファイルや、浮世絵マスキングテープ、関東大震災100年関連ミニ展示の資料から復刻絵葉書などを作成した。 ②「第1回 横浜開港資料館ミュージアムグッズデザインコンテスト」を開催。「たまくすの木」や旧英国総領事館の歴史的建造物をテーマに、市内在住在学の学生に向けた「ライフスタイルグッズ部門」・「ミュージアムスイーツ部門」、年齢不問の「フリースタイル部門」で募集したところ、計247件の応募があった。学生向け2部門の大賞作品は、今後商品化を予定。
「食べて楽しむ・買って楽しむ」施設機能拡充事業	旧門番所（市指定文化財）である付属棟をミュージアムショップ、カフェ、コンシェルジュの3つの機能を併せ持つ店舗「PORTER'S LODGE」としてオープンした。
公衆Wi-Fi 情報通信機器環境整備事業	昨年度でアクセスポイントの設置計画は終了し、今年度は安定した運用を目的とした維持管理と来館者へのPRに努めた。結果、大きなトラブルもなく、また館内の多くのエリアで公衆Wi-Fiの利用が可能になったことで、当館を立ち寄りスポットとするデジタルスタンプラリーにも参画することができ、来館者の近隣観光地の回遊データを得ることができた。
旧英国総領事館等再整備事業	昨年度実施した実施設計にもとづき、市指定文化財である旧館（旧英国総領事館）の外観復元工事を実施した。事前の建物調査および当時の副領事への聞き取り調査にもとづき、扉と窓枠の色は従来の紺色から緑色に復元した。またバリアフリー対応の連絡通路整備工事については、既存の連絡通路の撤去と地下部分の設備配管の仮設工事までを実施した。



デジタルアーカイブ トップ画面



ミュージアムグッズデザインコンテスト授賞式

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
拠点計画推進事業	デジタルアーカイブ、コレクション解説動画、文化観光ウェブコンテンツ「こい旅横浜」などの公開が進み、これまでの成果が目に見えて現れた一年となった。施設のハード面では、市指定文化財である旧館（旧イギリス総領事館）の整備（外観復元工事、連絡通路付け替え工事）に着手したほか、付属棟（旧イギリス総領事館門番所）がミュージアムショップ＆カフェ「PORTER'S LODGE」としてオープンし、グッズデザインコンテストの開催など話題を提供することができた。	S

4 都市発展記念館事業

令和5年度は、空調設備更新工事のため6月以降、長期休館となりましたが、アウトリーチ事業を中心として、各事業とも着実に取り組みを進めました。

企画展事業では、令和5年（2023年）が関東大震災から100年の節目であることから、特別展「大震災を生き抜いて－横浜市民の被災体験－」を企画し、開港資料館を会場として両館の共同開催で実施しました。関東大震災を生き抜いた市民が残した日記や記録を掘り下げることで、100年前の大災害の状況を再現しました。メディア各社の関東大震災関連報道が連続したこと、また貴重な震災資料（ガラス乾板）が寄贈されたこともあって、入館者数・事業収入とも見込みを大きく上回る結果となりました。

資料収集保管事業では、上記のガラス乾板写真をはじめ、震災復旧時の貴重な写真帖などの震災

関係資料を中心に収集したほか、引き続き、戦後のニュース映像のデジタル化も進めました。また次年度の公開に向けて、館蔵の戦後写真コレクションを紹介する「戦後横浜写真アーカイブズ」の写真選定・分析およびウェブデザインを進めました。

調査研究事業では、震災復興・京浜工業地帯など都市形成分野での基礎研究を進めるとともに、外部研究者との連携研究事業（京浜移住者研究会）では、これまでの研究成果を紀要にまとめて公開しました。

普及事業では、地域事業者によるイベント「ハマフェス Y164」に今年度も参加し、開催日を無料開館したほか、休館中の11月には、関東大震災100年の特別展に関連して、横浜市役所でのアウトリーチ展「横浜市庁舎の関東大震災」を開催しました。また地域での文化財活用として、今年度も開港資料館・歴史博物館と連携して「中山恒三郎家」（都筑区）の公開事業を実施しました。

学校連携事業については、今年度は休館のため小学校団体の受け入れを休止しましたが、エドゥケーターによる訪問授業として実施しました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

横浜の都市形成、生活文化の歴史に関する資料を、寄贈・寄託・購入等により収集し、分類・整理するとともに、資料を良好な状態で保管するため、定期的な環境調査を行いました。また次年度の公開に向けて、「戦後横浜写真アーカイブズ」の写真選定・分析およびウェブデザインを進めました。

（1）資料収集

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈19件 312点 寄託0件 0点	主な資料：「関東大震災ガラス乾板」、「八木下恭美家資料」、「映画プログラム・広告・チラシ・スチール写真〔一括〕」、「隊医極（三甲）」
資料の購入	1件 2点	主な資料：「帝都復興事業ニ於ケル横浜港ノ活躍 其ノ一・二」
資料の移管	0件	主な資料：なし
資料修繕	0件	主な資料：なし
資料の複製収集	0件	主な資料：なし
資料のデジタル化	25点	主な資料：「ヨコハマ・ポートサイド」昭和61年度ほか
複製資料の提供	44件 153点	他の博物館や公共機関、出版社、個人などへ当館所蔵資料のデジタルデータ（画像および映像）を提供した。
資料の特別利用	1件 1点	調査研究目的による、当館所蔵資料の原資料での特別利用に対応した。
資料の貸出	0件 0点	他の博物館施設等での事業に当館所蔵資料の原資料を貸し出した。

（2）資料収集実績（R5.4～R6.3）

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
-----	----	----	----	----	----	----

遺物	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	1,682 (1,681)
図書	- (-)	- (-)	- (4)	- (-)	- (4)	2,424 (2,424)
新聞雑誌	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2,180 (2,180)
文書	- (-)	- (-)	214 (34)	- (-)	214 (34)	4,710 (4,496)
紙票類	(70)	- (-)	- (-)	- (-)	- (70)	5,683 (5,683)
写真	2 (-)	- (-)	68 (107)	- (-)	70 (107)	70 (25,747)
絵葉書	- (-)	- (-)	29 (-)	- (-)	29 (-)	2,554 (2,525)
地図	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	740 (740)
図面	- (-)	- (-)	- (2)	- (-)	- (2)	951 (951)
絵画	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (2)
映像	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	66 (66)
録音資料	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	171 (171)
電子資料	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	12 (12)
合 計	2 (70)	- (-)	312 (147)	- (-)	314 (217)	46,992 (46,678)

※（ ）内は、前年度点数。

(3) 資料の保存・管理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	外部倉庫での未燻蒸資料の燻蒸（今年度は実施せず）。
環境調査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるための環境調査をユーラシア文化館と共同で実施した。

(4) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館 収蔵庫（200㎡）	図書、文書、紙票類、地図、図面、出土遺物などを収蔵
外部倉庫（子安台）	大型資料（昭和初期の置時計・大テーブル他）などを収蔵
外部倉庫（大黒ふ頭）	大型資料、映像フィルム、未整理資料などを収蔵

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

「都市形成」「市民の暮らし」「ヨコハマ文化」の3つのテーマに即して、資料調査・研究を行いました。また財団諸施設や外部研究者との連携研究事業を進めました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
震災復興と「大横浜」の形成に関する調査研究 (2/2年次)	関東大震災前後から第2次世界大戦に至る時期の横浜の都市形成史を政治社会史の視点から明らかにする。本年度は中野春之助（元横浜市電気局職員）の撮影したガラス乾板写真の寄贈を受けたほか、特別展「大災害を生き抜いて—横浜市民の被災体験—」を中心とした「関東大震災100年」関連事業を展開した。また、震災復興期の写真資料に関する基礎的な調査を実施した。
横浜近郊農村の都市化に関する調査研究 (2/4年次)	高度経済成長期までを視野に入れつつ、横浜近郊農村の都市化の過程を政治社会史の視点から明らかにする。都筑区川和町の中山恒三郎家資料の整理・調査を進めると同時に、東横線沿線の地域（旧橘樹郡の村々）について基礎的な調査を進めた。特に港北区及び神奈川区の神社を中心に石造物の調査を実施した。
京浜工業地帯の形成史に関する調査研究 (2/4年次)	京浜工業地帯の形成とその後の展開について、政治・経済・文化の視点から多角的に明らかにする。2027（令和9）年の神奈川区・鶴見区の区制100年を見据え、京浜工業地帯に関する資料の基礎調査、巡検調査を進めた。また、2024（令和6）年度の展示に向けて京浜運河をはじめとする河川運河や貨物鉄道に関する調査を行った。
横浜の近代遺跡に関する調査研究 (2/4年次)	市域での近代建築の遺構および出土遺物の調査を通じて、近代遺跡の視点から横浜の特性を明らかにする。市域での出土遺物のうち、山手133番地（中区）出土遺物について拓本・実測による記録化と内容分析を進めたほか、地藏王廟（中区）保管煉瓦の整理作業を開始した。
横浜地図データベースの構築 (2/3年次)	過年度の開港資料館・市史資料室との連携事業の成果をもとに、横浜とその周辺の地図について調査と分析を進め、体系的なデータベースを構築する。次年度の企画展準備作業として、港湾・河川・運河に関する地図資料の確認・分析作業を進めた。
昭和期「ヨコハマ」の観光とイメージに関する調査研究 (2/4年次)	昭和期を中心に(1)横浜の都市観光およびその宣伝、(2)都市イメージの形成に関する資料の収集・整理・分析を進め、その特質を考察する。今年度は、戦後の横浜市制作広報映画「ヨコハマ・ポートサイド」25点のデジタル化を実施した。

(2) 財団諸施設との連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長への至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業の実施。 2025年の戦後80年関連企画展示に関し、企画案を作成したほか、研究会メンバーと連携の在り方について検討を行った。

	*都市発展記念館・市史資料室・埋蔵文化財センター・横浜市歴史博物館との連携研究事業
--	---

(3) 外部研究者との連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
中山恒三郎研究会 (2/3年次)	前年度に引き続き、文書の整理作業を実施し、第一期整理文書資料目録を作成した。また、2024(令和6)年3月16日に研究会を実施し、西川武臣館長による太陽合資会社に関する調査成果報告のほか、資料目録の共有と検討を行った。
京浜移住者研究会 (2/2年次)	近代日本における都市移住者と同郷者集団の形成に関する基礎的研究を能登地域の研究者と共同で実施し、現在までの成果を横浜都市発展記念館紀要第18号の特集「能登半島と近代日本の都市移住者—京浜地域の銭湯経営者を中心に—」で公開した。
建築家中村順平に関する基礎的研究 (1/2年次)	横浜高等工業学校建築科(現・横浜国立大学工学部建築学科)の主任教授を務め、独自の建築教育で多くの建築家たちを育てた建築家中村順平に関する資料の収集・整理を、外部研究者と連携して実施する。オンラインで研究会を開催し、建築科100周年に向けた記念連携事業の実施について、中村順平関係資料を所蔵する大阪歴史博物館等と検討をおこなった。
都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業 (5/5年次)	都市横浜の歴史空間を復原する基本地図を時代(幕末～昭和期)ごとに検討・決定し、Web上での復原地図の基本的な設計をおこなった。また慶応期(1865～66年頃)の横浜の復原地図作成をおこなった。 *都市発展記念館・市史資料室・神奈川県立歴史博物館との連携事業

3 常設展事業(定款第4条第1項第1号②)

今年度は空調設備更新工事により6月以降休館したため、4月から5月までの2カ月間について、常設展示室の維持管理を行いました。この休館期間を利用して、故障により撤去していた映像装置の更新および新規コーナーの設置について検討しました。毎月第二水曜日は「濱ともデー」として、市内在住65歳以上の来館者を入館無料としました。

(1) 常設展示に関する実施事業

項 目	事 業 内 容
展示資料の更新	・故障により撤去していた展示室導入部の映像プロジェクターについて、装置の更新を検討した。 ・休館期間を利用して、「日本大通り」をテーマとした新規コーナーの設置について、内容を検討した。
コーナー展の開催	・今年度はコーナー展の開催はなし。

	・「関外と伊勢佐木町の発展～吉田新田その後～」 学校教員や小学校団体向けに、吉田新田エリアの近代以降の発展に関するパネル展示を常設している。
--	--

(2) 常設展示観覧者の推移 (想定観覧数4,000人)

	有料入館者 (人)			無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	一般	小中	計					
R 5 年度	600	105	705	3,243	3,948	17.3%	50	79
R 4 年度	1,250	696	1,946	20,804	22,750	141.8%	279日	82
R 3 年度	948	763	1,711	14,334	16,045	157.0%	307日	52

4 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

今年度は空調設備更新工事により6月以降休館したため、開港資料館を会場として両館共同開催のかたちで、関東大震災100年の特別展を開催しました。またアウトリーチ事業として、横浜市庁舎での関連パネル展示を実施しました。あわせてSNSを活用した資料紹介や広報を展開しました。休館により今年度は小学校団体の受け入れは休止しましたが、開港資料館講堂を利用して、エドゥケーターによる訪問授業として実施しました。

(1) 企画展の実施

展示名／開催期間	観覧料	入館者数	目的・内容
特別展「大災害を生き抜いてー横浜市民の被災体験ー」令和5年8月26日(土)～12月3日(日) 開催日数86日	一般 500円 小・中 250円	11,838人	100年前に発生した関東大震災では、全体で約10万5000人、横浜市でも推定26,623人が犠牲となったほか、多くの負傷者を出した。そうしたなか、大災害を生き抜いた横浜市民は、自らの体験を日記や回想録、写真等に残していく。本展示では、市民の残した記録から横浜の関東大震災を再現した。 【主な関連事業】 (1)展示関連出版物 横浜都市発展記念館・横浜開港資料館編『関東大震災100年 関東大震災と横浜一廃墟から復興まで一』(公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団、2023年) 関東大震災90年のときに製作した図録をもとに、その後の成果を反映させた増補改訂版として発行。 A4判80頁、定価：2,200円(税込)、売上：420冊 (2)展示解説 (全4回) 9月1日(金)参加者26人、10月14日(土)22人、

			11月11日（土）13人、12月2日（土）43人 合計104人 (3) 記念講演会「日本史のなかの関東大震災―防災から防空へ」〔講師：聖心女子大学教授・土田宏成氏〕 9月30日（土）参加者35人 (4) 横浜シティガイド協会との共催企画ガイドツアー 「関東大震災の被災体験を歩く」（ミニ講座を含む） 10月18日（水）参加者30人、10月28日（土）18人 11月3日（金祝）15人、11月21日（火）15人 合計78人 (5) その他 SNSを利用した震災遺構等の紹介を実施した。
次年度企画展準備			次年度の企画展示「横浜市街地の河川運河と水運」（仮） にむけて準備を実施した。

(2) 企画展示室観覧者の推移

(人)

	有料入館者	無料入館者	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者
R5年度	0	0	0	0	0	0
R4年度	7,667	4,573	12,240	542.8%	161	76
R3年度	1,235	1,020	2,255	59.1%	79	29

(2) 普及啓発事業・集客イベント

事業名称	参加者数	事業内容
ミニ展示「関東大震災を伝える―災害情報の形成と展開―」 令和5年5月26日～8月25日		地震発生後、東京の通信社が関西方面へ配信した災害写真や、絵葉書の作成、加工の痕跡から災害情報の拡大過程の一端を紹介した。 会場：横浜開港資料館新館2階ミニ展示コーナー
アウトリーチ展示「関東大震災100年 横浜市庁舎の関東大震災」 令和5年11月16日～29日		関東大震災当時の横浜市庁舎を中心とした横浜市街地の被災状況を、ガラス乾板写真に記録された鮮明な画像を中心に分析・紹介した。 会場：横浜市役所2階プレゼンテーションスペース

ミニ展示コーナー「災害は忘れた頃にやってくる―丹沢地震と横浜―」 令和5年12月1日～令和6年2月15日		関東大震災から4ヶ月後の1924（大正13）年1月15日午前5時50分、横浜は再び大きな揺れに襲われた。歴史の中に埋もれた丹沢地震の被災状況を被災者たちが残した記録を中心に紹介した。 会場：横浜開港資料館新館2階ミニ展示コーナー
開港記念日		市内の小学校が休みとなる6月2日の開港記念日を無料開館日とし、小学生向けのワークショップを開催。 ※休館中につき実施せず。
月イチ講座の開催		1階ギャラリーを活用した月1回定例の講座。 ※当面对面での実施を休止中。 ※ユーラシア文化館との共催
開館祭		※休館中につき実施せず。 ※ユーラシア文化館との共催



横浜市政府でのアウトリーチ展示

（４）地域・行政・学術団体との連携事業

項 目	事 業 内 容
ハマフェスY164（旧横浜セントラルタウン・フェスティバル）への参加 令和5年5月27日（土）・28日（日）	地域の事業者（馬車道商店街、関内まちづくり振興会、山下公園通り会、横浜中華街発展会・元町SS会）と地元マスコミが主催して開催されるイベントに、山下公園通り会として開港資料館・ユーラシア文化館と共同で参加。横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム in ハマフェスを開催した。また両日とも無料開館した。
関東大震災パノラマ写真の彩色復元プロジェクトの共同実施	NHKエデュケーショナルとの共同作業として、関東大震災の被災状況をパノラマで撮影したガラス乾板（西野写真館撮影、開港資料館所蔵）の高精細デジタルデータをもとに、彩色復元（8Kカラー）による写真分析を行った。
「ぼうさいこくたい2023」への参加	横浜国立大学キャンパスで開催された「ぼうさいこくたい2023」に参加し、NHKと共同作業で制作した関東大震災パノラマ写真の彩色復元

令和5年9月17日（日）・18日 （月・祝）	元を題材に、パネルディスカッションをおこなった。
関東大震災100年漫画企画「筆先のあなたへ」の内容監修	NHK横浜放送局が制作する関東大震災100年記念企画の漫画「筆先のあなたへ」（全40話）について、時代考証にもとづく内容監修を行った。
防災プロジェクト（関東大震災100年対談企画）への協力	株式会社HITOTOWAが企画する防災プロジェクトに協力し、横浜における関東大震災の痕跡をたどる街歩き、元Jリーガー石川直宏氏と当館副館長との関東大震災100年対談「過去の上に立つ、僕らにできること」を実施した。
首都圏形成史研究会 令和5年10月28日（土）	首都圏形成史研究会との連携事業として、震災100年展示を担当した学芸員が成果と課題を報告するシンポジウム「「関東大震災」研究の最前線」を開催し、開催中の特別展「大災害を生き抜いて—横浜市民の被災体験—」の見学会を実施した。
神奈川県博物館協会「神奈川震災100年プロジェクト」の実施	神奈川県博物館協会の「神奈川震災100年プロジェクト」実行委員会として、神奈川県内の博物館と連携しつつ、震災関連展示の情報共有や関連事業を企画・実施した。
「中区歴史講座2023」への講師派遣 令和5年9月6日（水）	中区の職員向け講座「中区歴史講座2023」の講師に、当館副館長を派遣した。
「よこはま建築アカデミー」への講師派遣 令和5年11月11日（土）	横浜市建築局、横浜建設業協会、横浜市建築設計協同組合が開催する「よこはま建築アカデミー」の講師に、当館副館長を派遣した。
横浜市認定歴史的建造物「中山恒三郎家」の公開事業 令和5年11月26日（日）	中山恒三郎家（都筑区川和町）の敷地内に残る書院・店蔵などの歴史的建造物を公開したほか、諸味蔵では民俗資料と整理作業の様子を公開した。参加者：517人 ※横浜開港資料館、横浜市歴史博物館との連携事業 主催：（有）中山松林甫 後援：横浜市都市整備局・横浜市都筑区役所 協力：川和町内会・川和連合町内会・川和小学校ふれあい郷土館・都筑をガイドする会
歴史的建造物整備に関する有識者懇談会への職員派遣 令和5年8月30日（水）、10月6日（金）、12月6日（水）	横浜市環境創造局が進める「（仮称）旧上瀬谷通信施設公園における歴史的建造物（旧太田家住宅）整備」において、有識者懇談会に当館副館長を派遣した。
「文化財保存活用地域計画」策定に係る協議会への委員派遣	横浜市教育委員会生涯学習文化財課が進める「文化財保存活用地域計画」の策定において、地域計画協議会に委員2名（当館副館長、歴

令和6年2月28日（水）	史博物館副館長）を派遣した。
横浜市中消防団発足に際して刊行物の作成協力	横浜市中消防団の発足式に向けたパンフレット作成にあたって、横浜消防の歴史に関する原稿執筆および内容監修を行った。
「広報よこはま」への執筆協力	・全市版の連載コラム「よこはま彩発見」9月号に「関東大震災－横浜市民の震災体験－」を掲載した。 ・中区版に連載記事「なか区・歴史の散歩道」を開港資料館と共同で執筆。「関東大震災100年 ガラス乾板写真にみる関東大震災」「戦後ヨコハマ風景、五十嵐英壽撮影写真から」等のテーマで連載した。 ・保土ケ谷区版に連載記事「保土ケ谷区のあゆみ」を歴史博物館、開港資料館、埋蔵文化財センターと共同で執筆。4月号に「戦争の記憶を伝える英連邦戦死者墓地」、12月号に「富士瓦斯紡績株式会社 保土ケ谷工場」を掲載した。



関東大震災100年漫画「筆先のあなたへ」



「中山恒三郎家」公開事業

（5）学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内小学校団体見学の受入	小学校4年生で学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」（関外地区の発展）をテーマに、エドゥケーターと職員による解説を実施。 ※休館中のため今年度は実施せず。
エドゥケーターによる訪問授業	今年度は6月以降空調設備更新工事で休館していたため、「吉田新田の開発」学習は、横浜開港資料館講堂を利用してエドゥケーターによる訪問授業として実施した。 参加人数：24校、1,820人 笹野台小74人、さが丘小113人、六浦南小58人、

	伊勢山小53人、勝田小118人、下末吉小17人、高舟台小63人、新田小79人、保土ヶ谷小45人、川井小39人、永野小108人、上矢部小113人、小田小86人、小坪小49人、坂本小122人、左近山小90人、相沢小56人、並木中央小58人、白根小100人、新吉田第二小68人、新橋小99人、若葉台小65人、北方小86人、星川小61人
教員向け研修の実施	財団エデュケーターと連携して、小学校4年生向けの解説・体験メニュー「吉田新田の開発とその後」について、夏休みに小学校教員向けの研修を実施。 ※休館中のため今年度は実施せず。
神奈川県高等学校文化連盟との共催事業 令和5年11月12日（日）	神奈川県高等学校文化連盟との共催で、神奈川県高等学校総合文化祭・第29回神奈川県高等学校社会科研究大会を開催し、審査員として財団職員を派遣した。
学芸員実習の受け入れ	※休館中のため今年度は実施せず。
学外見学の受け入れ	※休館中のため今年度は実施せず。

（6）広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	展示関連広報印刷物、館報・紀要の発行を行った。 ・合同特別展ポスター・チラシ ・館報『ハマ発Newsletter』第39号（10,000部） ・紀要『横浜都市発展記念館紀要』第18号（500部）
優待カードの発行	今年度は休館につき、年間パス「E Aハマ発カード」の販売は一時休止した。 年会費 1,500円
その他広報	横浜市を通じての記者発表 横浜市文化観光局の媒体を通じての広報活動 市内学校・公共施設へのチラシ配布 日本大通り駅改札外掲示板へのポスター掲出 ホームページ・X（旧Twitter）・YouTubeチャンネルによるインターネットでの情報配信 テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入 新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入

	市内観光案内所へのチラシ訪問配布 市外都市旅行代理店への施設説明 フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR
--	--

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
ホームページ運営	新着情報の発信 企画展示案内の更新 合同特別展「関東大震災100年大震災を生き抜いて－横浜市民の被災体験」特設サイトの作成 館報『ハマ発Newsletter』の全文掲載 ミュージアムショップの案内（刊行物・グッズ） 「戦後の横浜」ページで「映像でたどる戦後の横浜」の公開 「戦後横浜写真アーカイブズ」公開に向けた準備作業
メールニュース配信	企画展の情報を中心に、関連イベントや月イチ講座、ショップの新商品などの内容を盛り込んだメールニュースを配信した。（不定期）
オンラインツールによる情報発信	X（旧Twitter）やYouTubeなどのオンラインツールを通じて、展示や館蔵資料に関する情報を定期的に発信した。 【X（旧Twitter）】 ・ツイート数 35 ・エンゲージメント率 2.0% ・リツイート数 1,694 ・いいね数 3,437 ・ツイートインプレッション 411,391 【YouTube】 ・再生回数 5,515 ・総再生時間数 88.3 ・チャンネル登録者 50 ・公開動画本数 0

6 都市発展記念館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

都市発展記念館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容など
都市発展記念館	・地下排水槽ポンプ交換工事（DP-2） ・事務室・会議室空調機修理 ・消火器更新・4階排煙口修理 ・3階研究室照明器具一部交換（LED化） ・コインロッカー不具合箇所調整・部品交換

	・3階展示室・展示台クロス貼り替え ・業務用エレベーターピット底部水抜き ・全館空調機更新工事 ・空調機更新工事に伴う収蔵資料・職員引越（歴博・開港へ） ・電気設備等年次点検・消防機器点検・防火対象物点検 ・老朽化が進む高電圧機器の状況確認（建築局・教育委員会） ・館内壁塗装 ・トイレ部品交換工事
--	--

7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

今年度は6月以降休館となったため、関東大震災100年の特別展開連の出版物を中心に、オンラインショップでの販売実績が中心となった。

（2）自動販売機（1台）の設置

<各事業の推移>

（千円）

項 目	令和5年度	令和4年度	令和3年度
ミュージアムショップ売上	1, 4 1 5	7, 1 6 9	4, 6 4 6
自動販売機手数料収入	2 8	7 9	7 3

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	今年度は関東大震災100年展示の目玉となるガラス乾板写真をはじめ震災復旧時の記録写真など希少な資料が収集できた。また戦後の映像資料のデジタル化も、着実に進めている。	S
調査研究事業	各調査研究を順調に進め、開港資料館と共同で開催した特別展やHP等で成果を公開した。また外部研究者との連携研究（京浜移住者研究会）では、これまでの研究成果を紀要にまとめて公開した。	S
常設展事業	今年度は空調設備更新工事で6月以降を休館したため、実質の開館期間は2カ月であったが、5月のハマフェスで多くの入館者があったことで、1日平均では前年度と変わらない入館者数を記録した。	A
企画普及事業	今年度は、開港資料館を会場として関東大震災100	S

	年の特別展を共同で開催し、震災 90 年展以来蓄積してきた調査研究の成果を公開した。休館中のアウトリーチ活動としては、震災写真の彩色復元事業（NHK と共同）の成果をふまえた横浜市役所での展示、また中山恒三郎家（都筑区）の公開事業などを実施した。学校連携では、休館により小学校団体の受け入れができない代わりに、エドゥケーターによる訪問授業を実施した。	
情報事業	今年度は関東大震災 100 年の特別展にあわせて、特設サイトの公開、および X（旧 Twitter）による館周辺の震災遺構等の紹介を行ったほか、次年度の公開に向けて「戦後横浜写真アーカイブズ」の準備作業を行った。	A
施設維持事業	老朽化が進んで故障が頻発していた空調機全ての更新工事が行われた（建築局による長寿命化工事）。その他、不具合が発生した箇所や、老朽化が進んだ設備の修理・対応について、着実に進めることができた。各種設備の点検についても適切に実施した。	A
収益事業	今年度は 6 月以降 10 カ月の休館となったため、特別展関連の出版物を中心にオンラインショップでの PR に努めたが、販売実績は前年度の約 2 割にとどまった。	B

5 ユーラシア文化館事業

令和 5 年度は空調設備更新のために長期休館となりましたが※、「街に出ていく博物館」のコンセプトのもと、館外でのアウトリーチ展示や各種行事を積極的に行いました。

常設展示では、「青が誘うウズベキスタン」写真展のアンコール開催し、アウトリーチ展示では、中華街の民間施設や市役所アトリウムを利用したパネル展示を行った。

調査研究では、収蔵資料の基礎的研究や次年度以降の展覧会へ向けて、財団内外の関係者と連携しながら、調査研究を行いました。

普及啓発事業では、5 月末には実施された Y164 ハマフェスへ参加し、11 月には三殿台考古館と連携で「ゲルに集まれ！三殿台」を実施した。また、11 月から 1 月にかけては、通常の横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムにかわり、財団内外の組織と連携して、スタチュー写真展などを開催した。また、クラウドファンディング「横浜にペリー提督像を作りたい」を実施した。

※ 開館期間 令和 5 年 4 月 1 日から令和 5 年 5 月 28 日まで

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

ユーラシアの考古・美術・民族・歴史資料および文献等を分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、収蔵庫や展示室を常に適切な状態に保つよう環境検査を行いました。

（1）資料収集・保存

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈156点 寄託0点	主な収集資料：華僑洋裁店関係資料、福建同郷会関係資料
資料の購入	19点	『朝鮮王朝韓国服飾図録』韓国服飾関係図書など
資料熟覧	2件	研究者による調査研究に対応した。
文献資料熟覧	0件	
資料の貸出	1件	古代オリエント博物館企画展「西アジアのいきもの」(12点)
収蔵資料の画像利用	2件	古代オリエント博物館企画展図録への画像提供など

（2）文献資料の整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
和図書・洋図書	書誌データの入力を行った。入力件数 53 件
洋雑誌	書誌データの入力を行った。89 件
和雑誌	書誌データの入力を行った。入力件数 119 件

（3）資料収集実績

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
考古・美術・民族・ 歴史資料	0 (0)	0 (0)	156 (12)	0 (0)	156 (12)	9,372 (9,216)
図書	19 (20)	0 (0)	12 (46)	0 (0)	31 (66)	22,679 (22,648)
雑誌	0 (0)	0 (0)	41 (52)	0 (0)	41 (52)	8,501 (8,460)
電子資料	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (20)
合 計	19 (20)	0 (0)	209 (110)	0 (0)	228 (130)	(40,572)
累計	971	2	39,417	182		

※（ ）内は、前年度点数。

（4）資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	外部燻蒸庫を借用して酸化プロピレンを使用した殺虫殺菌燻蒸を実施した。
環境検査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境検査を実施した。

（5）資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館 収蔵庫（200 m ² ）	考古・美術・民族・歴史・文献資料を収蔵。
外部倉庫（大黒ふ頭）	図書（江上文庫の重複本など）、販売用出版物などを収蔵

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号）

収集資料の整理、企画展や講演会の基礎的資料収集・調査研究を行い、十分な成果を上げてきています。なお、ユーラシア概念に関する歴史博物館や外部研究者との共同研究については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を見合わせました。

（1）基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
ユーラシアにおける工芸品の研究（1／5年）	公益財団法人美術工芸振佐藤基金の助成金を使用し、ウズベキスタンの博物館や遺跡で中世イスラーム時代のガラス器と陶器について調査を行った。
ユーラシアの東西交流の研究（3／3年）	国内の博物館にてモンゴル関係資料を実見し、遊牧民の歴史や生活文化について情報収集を行った。
ユーラシアにおける芸能の研究（3／3年）	大道芸・サーカス研究の動向について、情報収集を行った。
ユーラシアにおける人形製品の研究（3／5）	日本列島における人形土製品について、類例の収集と検討を行った。
ユーラシア概念をめぐる研究（3／5年）	横浜ユーラシア文化館開館20周年記念シンポジウム「東アジアの帯金具と古代の日本」を企画・実施し、その成果を記録集として『横浜ユーラシア文化館紀要』第12号に掲載し、公開した。
北方ユーラシア文化の研究（1／5年）	オホーツク文化の骨角器について資料調査を行い、論文を執筆した。
横浜市内の外国系市民の歴史文化に関する研究（2／5年）	昨年度は横浜華僑の歴史・風俗に関する資料調査を行い、資料寄贈などにつながった。また、韓国服飾展の準備としてコリアン女性への聞き取り調査も実施した。
ユーラシアにおける古代・中世日本の研究（1／5）	研究会への参加や展覧会の見学を通じて外部の研究者と交流し、そこで得られた知見を横浜ユーラシア文化館開館20周年記念シンポジウム「東アジアの帯金具と古代の日本」の企画・実施につなげた。
令和6年度以降開催予定の企画展調査	令和6年度以降の企画展に関し、基礎的な調査や資料所蔵先との交渉などを行った。

（2）研究紀要の発行

『横浜ユーラシア文化館紀要』第11号（A4判、62頁、オンライン公開）を発行。



渤海シンポジウム 会場風景

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室において、企画展と連動した展示替えを行いました。また、展示資料に関連するクイズを近隣博物館と連携して開催するなど、集客とサービスの向上を図りました。

（1）常設展示室での実施事業

項 目	事 業 内 容
展示更新	・日本ウズベク外交関係樹立 30 周年を記念し、「青が誘うウズベキスタン—萩野矢慶記写真展」を開催し、ウズベキスタンの古都の風景や人々の姿を伝える色彩豊かな写真とともに、ウズベキスタンの伝統的陶製人形や民族衣装の帽子などを展示した。好評だったためアンコール開催（R5 年 4 月 1 日から 5 月 28 日まで）を行った。 ・干支コレクションアワード（ネット投票）に参加し、新年の干支「辰」に関する資料「龍耳瓶」を紹介した（休館中のためネットのみで実施）。

（2）常設展示観覧者の推移（目標数 15,000 人）

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1 日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
R 5 年度	2,076	76	2,152	3,236	5,388	56.6%	50 日	107.7
R 4 年度	3,011	561	3,572	20,708	24,280	155.3%	277 日	87.7
R 3 年度	774	559	1,333	14,305	15,638	164.4%	296 日	52.8

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

R 市内学校団体受入につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止につとめながら、都市発展記念館及び開港資料館と一体となって実施しました。また、より多くの方に見ていただけるよう SNS の活用や Y o u T u b e での動画配信も行いました。

（1）企画展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
アウトリーチ展示「ホテ	無料		中華街のローズホテル横浜と連携し、同ホテルの廊下

ル de ミュージアム 横 浜中華街歴史回廊」			を使った常設パネル展示を継続。中華街の中で街の歴史を紹介する初めての常設展示スペース。ホテルの宿泊客だけでなく、修学旅行生や街の人々など多くが立ち寄るスペースとなっている。7時から21時まで無料一般公開。
アンコール開催「青が誘 うウズベキスタン 萩野 矢慶記写真展」 R5.4.1（土）～ 5.28（日） 5,381人	200円		昨年度実施した中央アジアのウズベキスタンの写真展が好評であったため、閉館前のハマフェス開催日にまで開催した。
アウトリーチ展 春節企画「横浜中華街 160年の軌跡」 R6.2.1（木）～ 2.12（月・祝） 会場：市役所アトリウム	無料		横浜市中心で開催された「横浜春節祭」に合わせて、横浜中華街の歴史を紹介するパネル展示を行った。また、春節デジタルスタンプラリーの景品にも協力した。
企画展基礎調査			来年度開催予定企画展の基礎調査を行った。



市役所1階アトリウム展示



横浜中華街ローズホテルでの展示

(2) 企画展示室観覧者の推移

(人)

	有料入館者	無料入館者	合計	前年比	開館日数	1日平均入館者
R5年度	0	0	0	0	0	0
R4年度	2,964	4,592	7,556	65.4	70	108
R3年度	6,991	4,557	11,548	243.5%	136	85

※R5年度は休館につき開催していない。

(3) 講座・講演会

項 目	参加者数	内 容
-----	------	-----

月イチ講座の開催		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。
開館20周年記念シンポジウム「東アジアの帯金具と古代の日本」	110人	11月25日(土)に情文ホールで実施した。講演4本と討議で構成するとともに、会場に展示ケースを設置し、テーマとなった大津市穴太遺跡出土金銅製花文腰帯具(大津市埋蔵文化財センター所蔵)を展示した。

(4) 普及啓発

項 目	参加者数	事 業 内 容
ハマフェスY164 (旧横浜セントラルタウンフェスティバル)		5月27日(土)・28日(日)に関内・日本大通り・中華街・元町で大規模に開催されるイベントに参加し、無料開館を実施した。また同日、山下公園通りと横浜中華街を会場に、横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムを開催した。
「なか区ブックフェスタ」への参加		休館中のため不参加。
ゲルに集まれ@三殿台 11月3日	409人	三殿台考古館との連携。日本モンゴル協会の協力をえて、三殿台考古館の芝生の上に、当館のゲルを建てた。400名を超える親子連れなどでにぎわい、モンゴルの文化や風俗を伝えた
私が撮ったスタチュー・ミュージアム2023 R5. 11. 1(水)～23(木祝)		2022年11月のスタチュー・ミュージアムおよび2023年5月の写真を公募し、うち24点を展示した。第1期は横浜市役所展示スペースBにおいて11月1日～14日、第2期は日本大通りの店舗・施設10箇所にて11月16日～23日実施した。
スタチュー・パフォーマンス・ギャラリー R5. 11. 18(土)・19(日)	155人 (18日:67人 19日:88人)	毎年11月中旬に開催していたスタチュー・ミュージアムの代替事業として、スタチュー関連のグッズ(衣装、小道具など)を展示した。また、各日2組限定で、スタチューによるパフォーマンス展示も実施した。
クラウドファンディング 「横浜にペリー提督像を作りたい!ただしスタチューで」の実施	68人	2024年のペリー横浜上陸170年に合わせて、新作オリジナル・スタチュー「ペリー提督像」を作るためにクラウドファンディングを実施した(2023年11月21日～2024年1月14日)。結果として68人から676,500円の支援があり、目標額50万を大きく上回った。
開館祭		休館中のため休止。



ゲルにあつまれ！@三殿台



私が撮ったスタチュー・ミュージアム 2023（横浜市役所）

（５）学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内学校団体見学の受入	・国語学習（「スーホの白い馬」）の充実を図るために、市内外の小学校にモンゴル体験キット（モンゴル民族衣装、馬頭琴）を用意した。
教員向け研修の実施	休館中につき休止
学芸員実習の受け入れ	休館中につき休止

（６）市民協働事業

項 目	事 業 内 容
市民ボランティアによるワークショップの実施	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施を中止した。

（７）広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	・新型コロナウイルス感染症拡大のため、行事予定を策定が困難なため、催し物案内の作成を中止した。 ・館報『横浜ユーラシア文化館ニュース<i>News From EurAsia</i>』休館中のため休止。
優待カードの発行	年間パス「E Aハマ発カード」の販売を休止した。 年会費 1,500円
その他広報	・横浜市を通じての記者発表。 ・市内学校・公共施設へのチラシ配布。 ・日本大通り駅改札外へのポスター掲出。 ・ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信。 ・テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入。

	・新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入。 ・市内観光案内所へのチラシ訪問配布。 ・市外都市旅行代理店への施設説明。 ・フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR。 ・近隣へのダイレクトメール発送。
--	---

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、調査研究・展示・出版・講演会・ミュージアムショップなどに関する情報を提供するために、データの更新等を行い、情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
簡易検索端末・文献検索端末	資料：常設展示室における主な展示資料を検索できる端末の設置を継続した。
	文献：館蔵文献のOPAC公開を継続・拡充した。
メールニュースの配信	希望者に対するメールニュースの配信を行った。
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物・休館や再開館についての広報や、収蔵資料・図書文献資料等の紹介を行った。 アクセス件数 合計 158,719 件（前年度の 81 %）
SNSによる情報発信	Twitter はツイート数合計 143、フォロワー2,196 人、インプレッション合計 39,7103。YouTube は、新規動画 2 本、視聴回数 3,935 回、総再生時間 103.8 時間、チャンネル登録者 227 人。Facebook については、管理やカウントの方法を検討中である。

6 ユーラシア文化館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

ユーラシア文化館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
ユーラシア文化館	・地下排水槽ポンプ交換工事（DP-2） ・事務室・会議室空調機修理 ・消火器更新・4階排煙口修理 ・3階研究室照明器具一部交換（LED化） ・コインロッカー不具合箇所調整・部品交換 ・3階展示室・展示台クロス貼り替え ・業務用エレベーターピット底部水抜き ・全館空調機更新工事 ・空調機更新工事に伴う収蔵資料・職員引越（歴博・開港へ） ・電気設備等年次点検・消防機器点検・防火対象物点検

	・老朽化が進む高電圧機器の状況確認（建築局・教育委員会） ・館内壁塗装 ・トイレ部品交換工事
--	--

7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

休館中のためミュージアムショップの経営は2か月しかできなかったが、オンラインショップのPRに努め、展示関連の過去の図録にも目がゆきやすいようにレイアウトした。また、Twitterのリンクも貼り過去の展示情報を確認できるように工夫し、売上増に努めた。

（2）自動販売機（1台）の設置

<各事業の推移：再掲>

（千円）

項 目	令和5年度	令和4年度	令和3年度
ミュージアムショップ売上	1, 415	7, 169	4, 646
自動販売機手数料収入	28	79	73

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料収集及び整理は着実に進捗した。資料の熟覧や他館への貸出など、外部利用者へのサービスも適宜対応した。	A
調査研究事業	計画していた調査研究については、概ね予定どおり進捗することができた。	A
常設展事業	4月1日から5月28日まで開館したが、前年同月を上回る入場者数があった。	A
企画普及事業	休館中であつたが、アウトリーチ展示やハマフェスなどでのスタチュー参加、三殿台考古館でのゲル建てなどを積極的に行った。	A
情報事業	HPを利用した情報発信に加えて、新聞等のマスコミを活用し、広報強化に努めた。また、TwitterやYouTubeなどインターネットを通じての情報発信も積極的に行った。	A
施設維持事業	老朽化が進んで故障が頻発していた、空調機全ての更新工事が行われた（建築局による長寿命化工事）。	A

	その他、不具合が発生した箇所や、老朽化が進んだ設備の修理・対応について、着実に進めることができた。各種設備の点検についても適切に実施した。	
収益事業	休館中のため収益事業は振るわなかったが、オンラインショップのPRに努め、企画展図録などはHPの企画展ページやYouTubeチャンネルと連動させて、より内容が伝わりやすいように工夫した。	A

6 三殿台考古館事業

新型コロナウイルス感染症が5類へと移行になり人々の活動が活性化しつつありますが、屋外での活動を中心とした当館では夏季の高温化による熱中症への対応も考慮して、年間行事のうち盛夏の7・8月にはイベント等を開催しない方針を継続しています。

当館の事業のうち、資料収集保管事業・調査研究事業については、発掘調査後60余年を経過した三殿台遺跡の出土資料について、再確認・再整理や資料の修復をおこないました。また、保管していた土壌の精査により新たな資料を抽出しました。経年劣化によりその毀滅が危惧されるフィルム・紙ベース等の記録資料は、保存および活用を図るためデジタル化を継続しました。図書管理については他館とのデータの互換性を考慮し、汎用性のある管理ソフトへと移行しました。

常設展事業では劣化した展示室の解説・写真パネル類を更新し展示資料目録を再整備しました。また今年度もボランティアの協力を得て復元住居（古墳時代）の茅葺きを補修しました。住居跡保護棟内では専門の業者に亀裂の補修や蘇苔類等の防除を定期的に実施しました。学校連携として小学校の社会科見学では必ず先生方に下見をお願いし、**見学のほか体験学習を多用したプログラム**と一緒に検討し提供しました。隣接する岡村小学校では多学年にまたがって学習の支援をおこないました。また、中学校の職業体験を受け入れました。

企画普及事業は、弓矢うち大会や体験学習などのイベントに加え、ダイヤモンド富士や夜景といった屋外で楽しめる当館の魅力をアピールしました。これらのイベント情報を当館ホームページ・X（旧ツイッター）などのSNSや各種広報紙で広く市民に発信しました。ガイドボランティアを新たに募集し、土日祝日の来館者への常設展示・遺跡ガイドを充実させました。

また賑わいの創出として、夏季にはミストシャワー・水鉄砲などを配置し、秋季には前年度より継続する秋季限定のどんぐり拾いに近隣保育園・幼稚園へ誘致の手紙を送り来館を促しました。冬季には高台という立地を生かした「夜景」の鑑賞会などを開催しました。春秋2回のダイヤモンド富士鑑賞会は毎回楽しみにしている方々もいらっしゃいます。

施設維持事業は、日常管理として出勤スタッフによる施設内の清掃、草刈り、樹木剪定等の施設管理および点検を行いました。さらにトイレの洋式化と入口扉の設置等、**長年懸案だった改修を行い来館者の利便性が大きく向上しました**。住居跡保護棟の雨樋の修繕など施設の老朽化に伴う補修を行ない一層の安全管理に努めました。

1 資料収集保管事業・調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

保管資料について整理・分類・デジタル化等を行い、資料の保全を図りました。

(1) 保管資料再整備事業

項 目	事 業 内 容
出土品保管再整備事業	引き続き整理ボランティアの協力を得ながら、資料の洗浄や復元・実測等をすすめた。保管土壌の精査で微小巻貝や小骨片などの新たな資料を抽出した。また、発掘時の原図を見直し、遺跡全体図の再作成作業を継続した。
記録資料のデジタルデータ化事業	測量図面や写真フィルム等アナログデータのデジタル化を継続しておこなった。また、所属遺構が特定されていない写真についての特定作業をすすめた。
図書資料の受入れと整理	寄贈された 249 冊の図書を整理分類し収蔵した。データ管理ソフトを変更するとともに過去データの確認作業をおこなった。

(2) 調査研究事業

項 目	事 業 内 容
三殿台遺跡の再評価	市民ボランティアの協力を得て、出土品の再整理作業（分類・接合・復元・実測）を行い、再評価のための基礎データを集積した。
三殿台考古館収蔵資料の活用	小学 6 年生の社会科見学に際して、三殿台遺跡発掘調査の映像資料（web）を事前学習に活用してもらうよう推奨した。また、土器片や石器等の収蔵物を手にとって観察できるようにし、小学生の歴史教育の支援に活用した。

2 常設展事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②） 令和 5 年度来館者数 12,902 人

遺跡・常設展示室・竪穴住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚の維持管理を行うとともに、団体及び一般来館者見学時に、遺跡や展示品についての解説を丁寧に行いました。

(1) 常設展示の維持管理と展示内容の充実

項 目	事 業 内 容
遺跡案内・展示解説の実施	職員が団体及び一般来館者の見学時に、遺跡・住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚に及び展示資料について、1,724 人に案内・解説を行った。
展示パネル等の更新	退色した展示パネルや展示資料目録を更新した。
復元住居の補修	ボランティアと協働して復元住居（古墳時代）の茅屋根を補修した。

(2) 住居跡保護棟の適切な保全

項 目	事 業 内 容
住居跡保護棟のメンテナンス等	竪穴住居跡保護棟のメンテナンスを専門業者に委託した。（隔月実施）

3 企画普及・広報事業（定款第4条第1項第1号②）

限られた時季・空間で開催せざるを得ませんでした、多種のイベントをとおして市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるよう生涯学習を支援しました。

（1）企画普及事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
「いそっぴゴールデンウィーク 2023」スタンプラリーへの参加	98 人	4 月 22 日から 5 月 7 日の期間で磯子区区民利用施設館長連宅会主催の「いそっぴゴールデンウィーク 2023」スタンプラリーに参加した。
「子どもアドベンチャーカレッジ 2023」	16 人	横浜市教育委員会が主催する「子どもアドベンチャーカレッジ」に参加した。当館は火起こし体験をおこなった。
三殿台遺跡整理ボランティア	432 人	三殿台遺跡の再評価を目標にして活動している。弥生時代中期の遺構を中心に、土器片の分類・接合・復元・実測及び石器の実測作業を行った。 記録資料整理に際しては、写真資料整理・デジタル化作業を行った。
遺跡ガイドボランティア	延べ 120 人	6 人のボランティアが土日を中心に、来館者へ遺跡解説を行った。延べ 1,523 人をガイドした。
ダイヤモンド富士観賞会	(秋) 29 人 (春) 44 人	9/28～30・3/13～15 秋・春の「ダイヤモンド富士」の期間に閉館時間を延長して鑑賞会を実施した。
夜景観賞会	10 人	12/9 竪穴住居跡や通路をライトアップし、高台にある遺跡から日没やヨコハマの夜景を楽しんでもらった。
講師派遣	18 人	8/9 大岡地区センターでの勾玉作り体験学習に講師を派遣した。
ホームページ等の運営		ホームページ及び X（旧ツイッター）で催事等を広報した。年間催事案内を常時掲載し、体験教室等のイベント情報を発信した。
その他広報		・広報よこはま磯子区版および区民活動支援センター発行の情報紙に体験教室等の情報を提供した。 ・横浜市のイベント情報に体験教室等の情報を提供した。 ・地域情報誌に広告を掲載した。

（2）体験学習事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
体験学習の実施	①14 人 ②13 人 ③11 人	・ゴールデンウィーク体験教室 ①5/3（祝） 古代人体験教室 ②5/4（祝） 勾玉作り体験教室 ③5/5（祝） 石器作り体験教室

	0 人	・春の弓矢うち大会（5/13 雨天中止）
	0 人	・開港記念日イベント「火起こし体験」（6/2 雨天中止）
	6 家族	・キャンプ in 三殿台（7/22・23）
	11 人	・秋の勾玉作り体験教室（9/9）
	25 人	・秋の弓矢うち大会（9/16）
	11 人	・秋の土器作り体験教室（10/7）
	12 人	・秋の土偶作り体験教室（10/8）
	7 人	・秋の土器作り教室（10/14・15）
	9 人	・秋の石器作り体験教室（10/21）
		・秋の野焼き（11/4）
	17 人	・冬の弓矢うち大会（12/2）



弓矢うち大会



キャンプ in 三殿台



土器作り体験教室

（3）グッズ製作・販売事業

項 目	事 業 内 容
缶バッジの製作・販売	売上げ 66 個×@100 6,600 円
土器片ペンダントの製作・販売	売上げ 77 個×@500 38,500 円
ミニチュア土器の製作・販売	売上げ 1 個×@800 800 円
勾玉づくりキットの製作・販売 （青田石・滑石）	売上げ 70 個×@400 28,000 円（青田石） 売上げ 217 個×@300 65,100 円（滑石）

（4）学校連携事業

項 目	人 数	事 業 内 容
学校団体見学の受入れ	1,433 人	・学校 6 年生の社会科見学は、引率教諭との事前打合せを経て、三殿台遺跡の解説及び 4 種類の体験プログラムを組み入れ実施。19 校 1,396 人が来館した。 ・県立横浜総合高校 37 名の見学を受け入れた。

クラブ活動・授業づくり支援	各回 20 人 76 人 60 人 各回 52 人 73 人 17 人	・岡村小学校の地域交流クラブに講師 2 名を派遣し、勾玉作り・弓矢づくり等の指導を行った。(全 9 回) ・同 1 年生の総合学習に対応した。 ・同 2 年生のまち歩き探検に対応した。 ・同 6 年生の土器作り指導に職員 2 名及び外部講師を派遣した。(全 3 回) ・蒔田小学校 3 年の地形調べに対応した。 ・横浜国立大特別支援学校を受け入れた。
職業体験	7 人	・3 校（藤の木・汐見台・岡村中学校）の職業体験を受け入れた。

(5) 施設連携事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
ゲルに集まれ in 三殿台	415 人	ユーラシア文化館との連携事業。三殿台遺跡にモンゴルのゲルをたてて大勢の方に楽しんでもらった。

(6) その他利用促進事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
弓矢うち体験	3,642 人	手作り弓矢を無料で貸し出し弓矢うち体験をしてもらった。
どんぐり銀行		近隣の保育園・幼稚園等を誘致してどんぐりを拾い集めてもらい、「どんぐり銀行」に預け入れた。
ミスト噴霧 水鉄砲		来館者が夏季の暑さを凌げるようミストを噴霧した。また手作り水鉄砲を用意し子どもたちに楽しんでもらった。
ゆずファンの対応		フォークデュオ・ゆずのファン（ゆずっこ）が聖地巡礼で訪れた際に解説やマップ配布などのサービスを提供した。

4 三殿台考古館施設維持事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号③）

三殿台考古館の諸施設を日々管理し、適切に維持するとともに来館者に満足感を与えるよう運営しました。

(1) 三殿台考古館の管理

管理対象施設等	事業内容
---------	------

三殿台考古館	施設の保守管理、補修・修繕 ・職員による遺跡内及び周辺の清掃作業・施設内巡回などの日常管理、業者委託による年末年始の巡回警備 ・遺跡内草刈り、植栽剪定 ・古墳時代茅屋根補修 ・ トイレの改修 ・ 保護棟雨樋の補修 ・門柱の補修 ・旧事務棟雨漏り補修
--------	---

(2) 三殿台考古館施設自動販売機売り上げの推移

項 目	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
自動販売機売り上げ（千円）	23	23	27	24

(3) 三殿台考古館施設入場者の推移

項 目	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
三殿台考古館施設入場者（人）	12,902	13,838	15,780	11,597



学校見学



復元住居 茅屋根の補修



ゲルに集まれ in 三殿台

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	三殿台遺跡出土品の洗浄・注記・接合などの基礎整理や実測・拓本取り、収蔵記録資料のデジタルデータ化などを、整理ボランティアの協力を得て継続した。	B
常設展事業	学校・一般団体、その他来館者へ遺跡・住居跡保護棟・復元住居・展示室について職員が展示解説を実施した。展示室の展示パネルや展示資料目録を更新した。小学6年生の社会見学をはじめ、学校団体の	B

	利用は約 40 校 2,100 人余りを数えたが年間の入館者数は伸び悩んだ。	
企画普及事業	屋外で行う無料の弓矢うちは人気が高く 3,642 人が体験した。ダイヤモンド富士・夜景観賞会では開館時間を延長し、来館者に景観を楽しんでいただいた。ガイドボランティアは延べ 120 人の協力により 1,500 人余りの来館者に解説を行った。 夏季にミストシャワーを設置するなど、来館者に快適な空間を演出した。	A
施設維持事業	職員による毎日の環境整備を実施した。通学路や民家に面した老木を優先的に剪定するなど、安全面を重視した維持管理をおこなった。 また長年の課題であったトイレの洋式化工事を実施し、とくに学校見学の小学生等、和式トイレに抵抗感をもつ来館者に対する利便性を向上させた。	S